資料編



京都三大学 教養教育共同化による 「新しい時代の要請に応じた教養教育」の実践

背景

地球環境の危機や一地域の変化が全世界の人々に影響を与えるほどのグローバル化の進展により、社会全体の枠組みが大きくかつ急激に変化している。

加えて、東日本大震災は多くの尊い命を奪い、生活や産業に深刻な打撃を与えるとともに、それに併発した原子力発電所の事故は暮らしとエネルギーの問題を投げかけるなど、国民全体が幸福感や社会関係のあり方を深く問い直す状況が広がっている。

また一方、被災地では、住民同士の助け合いや国内外からのボランティアによる救援・復興活動が展開されており、「人を思いやる心」や「人と人との絆の大切さ」が再認識されている。

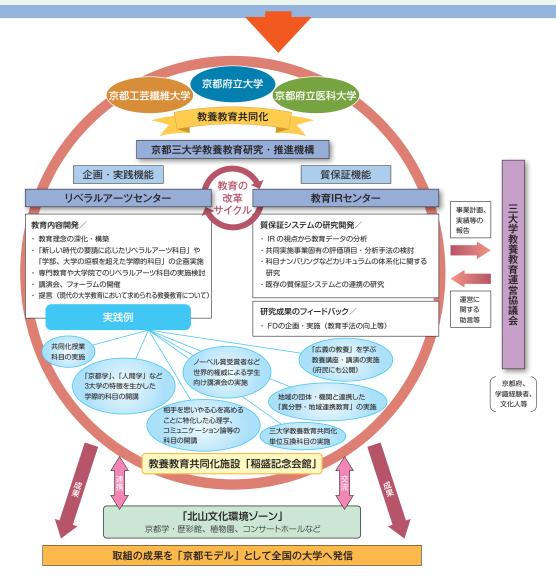
取組コンセプト

国公立三大学の教養教育カリキュラムを「共同化」し、それぞれの大学の特徴・強みを生かした質の高い、「新しい時代の要請に応じた教養教育」を実施する。

人材養成の目標

次の①~③を備えた人材を養成する。

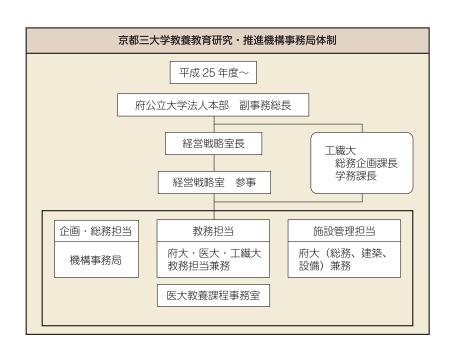
- ①異なる価値観や視点を持つ他者と協働する力としてのコミュニケーション能力及び相手を思いやる心
- ②自ら問題を発見し、それにコミットするとともに、「正解」の存在しない問題についても、学際的な視点に立ち、 多様な見解を持つ他者との対話を通して自身の考えを深め、解決に向かって行動する能力
- ③グローバルな局面で、文化や言語を異にする他者と交流し協働する能力



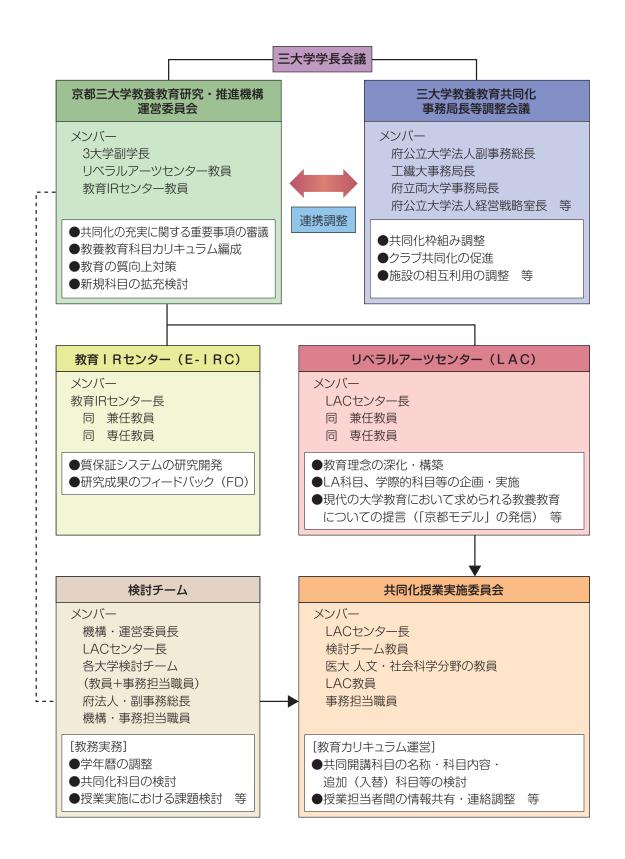
平成 28 年度三大学教養教育研究·推進機構 運営委員会 委員名簿

平成 29 年 1 月

	三大学教養教育研究・推進機構 運営委員会							
大学名			リベラルアーツセンター		教育IRセンター		規約第4条第2項による者	
	職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
京都工芸織維大学	理事・副学長	大谷 芳夫	基盤科学系教授	人見 光太郎	センター 長 基盤科学系 教授	大倉 弘之		
京都府立医科大学	副学長	渡邊 能行	応用言語学 教授 教養教育部長	木塚 雅貴	物理学教授	上原 正三	学生部長	北脇 城
京都府立大学	運営委員長 副学長 (教務部長)	野口 祐子	センター長 生命環境学部 生命分子化学科 教授	石田 昭人	公共政策学部 福祉社会学科 教授	中村 佐織		
京都三大学 教養教育研究				特任教授 特任教授	林 哲介 脇田 哲志		京都府公立大学法人副事務総長	藤澤 正典
・推進機構			特任准教授	藤井 陽奈子	特任准教授	児玉 英明	Tay#MutX	



三大学教養教育共同化推進体制



教養教育共同化施設「稲盛記念会館」

1階

府民利用・学生交流フロア





稲盛記念展示室

レストラン



● **調報至6至** ·196人:1室
 ·174人:2室
 ·99人:3室

▶自習室(37人)▶稲盛記念展示室▶レストラン

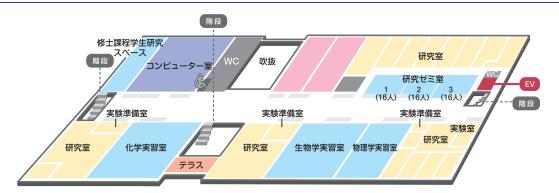
▶事務室

2階

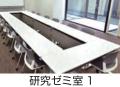
学生講義室フロア



3階 研究等フロア











コンピューター室 ▶**研究ゼミ室** (16人:3室)

▶ 京都府立医科大学 ·研究室

· 化学実習室 · 生物学実習室 · 物理学実習室 ·実験準備室







会議の審議状況、視察・学会参加状況

□ 副学長・センター長会議 審議状況

開催日時	開催場所	審議事項			
平成 28 年 4 月 15 日 (火) 午前 10 時 30 分~午前 11 時 30 分 【副学長会議】	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」3階 研究ゼミ室2	【協議・報告等】 1 28 年度の機構運営委員会・両センター長の選考について 2 補助金終了後の機構運営等に係る各大学負担について			
平成28年5月6日(金) 午後2時30分〜午後4時00分 【副学長・両センター長会議】	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」2階 会議室	【協議・報告等】 1 教養教育共同化に係る具体的取組の整理表(素案)について 2 教養教育共同化平成 28 年度前期授業履修登録者の状況について 3 平成 28 年度補助金調書及び交付内定について 4 リベラルアーツセンターの取組状況と今後の対応 5 教育 IR センターの取組状況と今後の対応 6 その他 ・授業時間の拡充について ・外国語授業の実施について ・「三大学フォーラム」のための作業グループについて			
平成28年5月27日(金) 午後1時00分~午後2時30分 【両センター長会議】	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」2階 会議室	【協議・報告等】 1 三大学フォーラムについて 2 29 年度予算議論に向けて ・教育 IR センターの活動やその必要性について ・リベラルアーツセンターの活動やその必要性について ・機構提供科目(12 科目)の扱いについて ・共同化事業の外部評価組織について ・来年度の科目編成について			
平成 28 年 6 月 1 日 (水) 午後 4 時 15 分~午後 5 時 30 分 【副学長会議】	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」3階 研究ゼミ室1	【協議・報告等】 1 国庫補助金終了後の機構運営について 2 共同化授業時間の拡充について 3 三大学フォーラムの開催について			
平成 28 年 6 月 21 日 (火) 午前 10 時 30 分~午前 11 時 50 分 【副学長会議】	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」3階 研究セミ室2	【協議・報告等】 1 国庫補助金終了後の機構運営について 2 三大学教養教育共同化フォーラム開催案(素案)について 3 来年度の科目編成について 4 大学間連携共同教育推進事業に係るフォローアップについて 5 平成29年度学年暦について			
平成28年8月1日(月) 午前9時00分〜午前11時00分 【副学長・両センター長会議】	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」3階 研究ゼミ室2	【協議・報告等】 1 京都府知事面談について 2 平成 29 年度共同化科目について 3 平成 29 年度の単位互換科目について 4 平成 30 年度以降の共同化事業の方向性について 5 三大学フォーラムについて 6 科目担当者会議について			
平成 28 年 8 月 25 日 (木) 午後 4 時 10 分~午後 5 時 50 分 【副学長・両センター長会議】	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」3階 研究ゼミ室2	【協議・報告等】 1 京都府知事面談について 2 平成 29 年度共同化科目について 3 平成 29 年度単位互換科目について 4 京都三大学教養教育共同化フォーラムについて 5 科目担当者会議について 6 今後の取組について 7 授業アンケートについて			

開催日時	開催場所	審議事項
平成 28 年 10 月 11 日 (火) 午後 1 時 00 分~午後 2 時 45 分 【副学長・両センター長会議】	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」2階 会議室	【協議・報告等】 1 京都府知事面談結果について 2 28 年度後期履修登録状況について 3 29 年度新規科目の調整状況について 4 京都三大学教養教育共同化フォーラム(11/19)開催準備について 5 2015 年度質保証フォーラム実施報告について 6 科目担当者会議(10/31)について 7 28 年度補助金申請に盛り込んだ事業の執行確認について 8 平成 28 年度報告書の構成について 9 その他 ・今後の学生の自主活動支援内容・方法について ・平成 30 年度の取組(リベラルアーツ・ゼミナールほか)
平成 28 年 12 月 20 日 (火) 午前 10 時 30 分~正午 【副学長会議】	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」3階 研究ゼミ室3	【協議・報告等】 1 来年度予算要求状況について 2 三大学運営協議会の開催について 3 平成 29 年度の機構の体制について 4 平成 29 年度の事業展開について(新入生ガイダンス、学生の自主的活動支援等)
平成 29 年 2 月 24 日 (金) 午前 10 時 30 分~正午 【副学長・両センター長会議】	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」3階 研究ゼミ室1	【協議・報告等】 1 平成 29 年度における事業展開について

□ 運営委員会 審議状況

開催日時	開催場所	審議事項
平成 28 年 5 月 25 日 (水) 午前 9 時 00 分~午前 10 時 10 分	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」2階 会議室	【開会】 1 運営委員長互選 2 両センター長の紹介 【協議・報告等】 1 教養教育共同化に係る具体的取組について 2 平成 28 年度前期教養教育共同化授業の履修登録者の状況について 3 平成 28 年度補助金調書及び交付内定について 4 リベラルアーツセンターからの報告 5 教育 IR センターからの報告 6 その他 ・FD フォーラムへの大学としての関わりについて
平成 28 年 6 月 22 日 (水) 午前 9 時 00 分~午前 9 時 55 分	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」2階 会議室	【協議・報告等】 1 共同化科目前期試験教室配当について 2 大学問連携共同教育推進事業フォローアップについて 3 平成 28 年度フォーラムについて 4 リベラルアーツセンターからの報告 5 教育 IR センターからの報告 6 その他 ・平成 29 年度学年暦について
平成 28 年 7 月 21 日 (木) 午後 4 時 30 分~午後 4 時 55 分	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」2階 211講義室	【協議・報告等】 1 大学間連携共同教育推進事業フォローアップについて 2 平成 28 年度フォーラム(案)について 3 リベラルアーツセンターからの報告 4 教育 IR センターからの報告 5 第一四半期の予算執行状況について 6 その他 ・稲盛記念会館の講義室等の使用について ・2017 年度学年暦について ・今後の予定について

開催日時	開催場所	審議事項
平成 28 年 9 月 23 日 (金) 午前 10 時 30 分~午前 11 時 20 分	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」2階 会議室	【協議・報告等】 1 平成 29 年度共同化科目について 2 平成 29 年度共同化科目について 3 平成 28 年度大学改革推進等補助金(大学間連携共同教育推進事業)の交付決定について 4 「大学間連携共同教育推進事業」事後評価について 5 平成 29 年度三大学連携推進教養教育単位互換制度について 6 リベラルアーツセンターからの報告 7 教育 IR センターからの報告 8 その他 ・平成 28 年度報告書編集委員会について ・京都三大学教養教育共同化フォーラムについて
平成 28 年 10 月 28 日 (金) 午後 4 時 10 分~午後 4 時 50 分	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」2階 会議室	【協議・報告等】 1 京都府知事面談結果について 2 平成 28 年度後期共同化科目履修状況(暫定版)について 3 平成 29 年度新規共同化科目の調整状況について 4 教育 IR センターからの報告 5 京都三大学教養教育共同化フォーラム(11/19)について 6 本年度上半期の予算執行状況について
平成 28 年 11 月 29 日 (火) 午後 2 時 30 分~午後 2 時 50 分	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」2階 会議室	【協議・報告等】 1 平成 29 年度共同化科目(暫定版)について 2 平成 28 年度後期教養教育共同化授業の履修登録者の状況について 3 京都三大学教養教育共同化フォーラム(結果)について 4 リベラルアーツセンターからの報告 5 教育 IR センターからの報告 6 その他 ・「大学間連携共同教育推進事業選定取組全国シンポジウム in 金沢」の開催について
平成 28 年 12 月 20 日 (火) 午前 9 時 00 分~午前 9 時 55 分	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」2階 211講義室	【協議・報告等】 1 平成 29 年度共同化科目について 2 平成 28 年度後期試験教室配当(案)について 3 フォーラム・アンケート結果について 4 平成 28 年度活動報告書の作成について 5 リベラルアーツセンターからの報告
平成 29 年 1 月 30 日 (月) 午前 9 時 00 分~午前 9 時 55 分	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」2階 会議室	【協議・報告等】 1 平成 29 年度教養教育共同化科目受講案内の作成について 2 平成 29 年度教養教育共同化事業単位互換履修ガイドについて 3 第5回三大学教養教育運営協議会概要について 4 大学間連携共同教育推進事業フォローアップ報告書について 5 各センターからの報告 6 本年度の補助金予算の執行状況について 7 平成 29 年度共同化科目に係る大学間のデータ送付期限について
平成 29 年 3 月 10 日 (金) 午後 2 時 30 分~午後 3 時 55 分	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」2階 211講義室	【協議・報告等】 1 平成 29 年度予算(案)及び事業計画(素案)について 2 平成 29 年度の機構体制について 3 各センターからの報告 4 本年度の文部科学省事業予算の執行状況について ほか

□ リベラルアーツセンター会議 審議状況

開催日時	開催場所	審議事項
平成28年9月18日(日)	メール会議	【協議・報告等】 1 宿泊研修について ・宿泊研修の報告と課題や今後の対応等についての議論

開催日時	開催場所	審議事項
平成 28 年 12 月 14 日 (水)	メール会議	【協議・報告等】 1 29 年度開講科目について ・開講科目の確認、受講案内掲載内容の確認と追記訂正
平成29年1月17日(火)	メール会議	【協議・報告等】 1 科目名称および次年度以降の運営と体制について

□ 教育 IR センター会議 審議状況

日時	場所	審議事項		
平成 28 年 5 月 31 日 (火) 午後 6 時 00 分~午後 7 時 20 分	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」2階 会議室	【協議・報告等】 1 2015 年度 1 年次生アンケートについて 2 2015 年度教員アンケートについて 3 今年度の活動計画について 4 今年度授業アンケートの様式等について 5 その他		
平成28年8月2日(火) ~8月8日(月)	メール会議	【協議・報告等】 1 共同化科目担当者会議の日程と内容について 2 授業評価アンケートの集計方法について		
平成 28 年 8 月 24 日 (水) ~ 8 月 26 日 (金)	メール会議	【協議・報告等】 1 授業評価アンケートの集計結果(暫定版)の取り扱いについて		
平成 29 年 1 月 23 日 (月) ~1月 25 日 (水)	メール会議	【協議・報告等】 1 1年次生アンケートの実施について		
平成 29 年 1 月 26 日 (木) 午後 2 時 30 分~午後 4 時 00 分	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」3階 研究ゼミ室3	【協議・報告等】 1 各種アンケートの実施と集計の扱いについて 2 年度報告書と今後の課題について 3 資料集について 4 FD フォーラムについて 5 その他		

□ 京都学事始 打ち合わせ 審議状況

開催日時	開催場所	審議事項
平成 28 年 8 月 8 日 (月) 午後 4 時 10 分~午後 5 時 20 分	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」3階 研究ゼミ室2	【協議】 1 科目名の見直しについて 2 講義内容について

□ 共同化科目担当者会議 審議状況

開催日時	開催場所	審議事項
平成 28 年 10 月 31 日 (月) 午後 6 時 00 分~午後 8 時 35 分	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」1 階 106 講義室	【科目担当者からの報告】 1 各種アンケートの結果について 2 宿泊研修の報告と文系学生向けの理系科目の構築について 3 『経済 = 人間の生活の営み』から始まるもう一つの経済学の

□ 学会等参加一覧

日付	学会名等	参加者	用務の概要
平成 28 年 6 月 11 日	大学教育学会 「大学教育学会第 38 回大会」 (茨木市)	林哲介	ラウンドテーブル 12 「現代のリベラルアーツとしての理数工系科目 (STEM) の開発と教育実践のために」に企画者として参加、三大学共同化教養教育における理数系科目の実情と理念・課題について、報告を行い議論した。
平成 28 年 6 月 11 日	大学教育学会 「大学教育学会第 38 回大会」 (茨木市)	児玉英明	11 日にラウンドテーブル8「教養教育の本流3」の 企画者を担当した。12 日に個人研究発表「部会8 教養教育」において「教養教育の質保証と汎用的技能 - 現実主義の陥穽と批判的思考カー」を発表した。
平成 28 年 7 月 9 日 ~ 7 月 10 日	第3回 京都大学-稲盛財団合同京都賞シンポジウム (京都市)	藤井陽奈子	3 分野(バイオテクノロジー及びメディカルテクノロジー分野、数理科学分野、美術分野)の最先端あるいは現在注目されている研究者による講演やセッションを経て、分野を越えた「人間、そして生と死ー科学、哲学、芸術の面から考える」というテーマの全体討論があった。時代が求める研究について理解し、初年次教育、共同化科目の特に自身の手がける教育に活かせるような内容と討論の在り方を学ぶことができた。また、京都三大学の教養教育に関連する活動の内容や方法を思案していく上で、素材を提供いただいた。
平成 28 年 8 月 23 日 ~ 8 月 25 日	日本教育学会 「日本教育学会第 75 回大会」 (札幌市)	藤井陽奈子	研究者や学校教員、教育関係者との意見交換および情報交換を行った。主に、教育内容と方法論について様々議論するだけでなく、実践した際の生徒や学生の発話や様子をどのように捉え評価するのかを議論した。また、高等教育(特に教養教育)の学びで着目される主体的な学習の仕方が中等教育と初等教育でも活かされなければならないことを受けて、主体的な学びの論理とその実践の質について思考した。
平成28年9月16日~9月18日	日本教育社会学会 「日本教育社会学会第 68 回大会」 (名古屋市)	藤井陽奈子	研究者や教育関係者との意見交換および情報交換を行った。教育政策及び教育内容と方法論に関する理論を提示する中で、三大学で実践した取組を紹介した。授業における学生の発話や様子を踏まえ、学生の資質と学力をどのように評価しそれらの効果を捉えるのかについて議論した。特に、主体的な学びの論理とその実践の質をどう表現し示していくかについて思考した。
平成 28 年 12 月 3 日 ~ 12 月 4 日	大学教育学会 「大学教育学会 2016 年度課題研究集会」 (千葉市)	林哲介	ポスターセッションにおいて「京都三大学教養教育研究・推進機構における教養教育カリキュラムの具体像」の発表を行った。課題研究シンポジウム「STEM 教育シンポジウム」に企画者の一人として参加し、現代のリベラルアーツとしての理数工系科目の開発、教育実践について討論した。
平成 28 年 12 月 3 日 ~ 12 月 4 日	大学教育学会 「大学教育学会 2016 年度課題研究集会」 (千葉市)	児玉英明	3日にポスター発表「京都三大学共同化教養教育におけるカリキュラムの具体像」を担当した。
平成 29 年 3 月 4 日 ~ 3 月 5 日	大学コンソーシアム京都 「第 22 回 FD フォーラム」 (京都市)	林哲介	4日にシンポジウム「教養教育改革と現代社会」において基調講演を担当した。
平成29年3月4日 ~3月5日	大学コンソーシアム京都 「第 22 回 FD フォーラム」 (京都市)	児玉英明	4日にシンポジウム「教養教育改革と現代社会」においてコーディネータを担当した。5日にポスター発表「いま求められる教養教育―京都からの発信―」を担当した。
平成 29 年 3 月 14 日	東京大学 教養教育高度化機構シンポジウム 「教養教育×自然科学」 (東京都)	藤井陽奈子	「教養教育と自然科学」をテーマに、グローバルな課題に立ち向かう人材の育成や身近なことから学ぶ自然科学教育について情報提供頂き、教養教育への活用を情報交換する等して思索した。

平成28年度京都三大学教養教育共同化科目受講案内(抜粋)



学生のみなさんへ

京都三大学教養教育研究・推進機構

はじめに

京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学の京都三大学は平成26年度より、それぞれの教育理念を基本にしながら京都北山地域の特性を生かして共同することによって、飛躍的に充実した教養教育プログラムを実施することにしました。これは、これまで10年来、3大学が連携して教育や研究を充実・強化するために進めてきた検討を踏まえ、京都府と文部科学省の支援を得て実現することになったものです。

共同化する教養(リベラル・アーツ)教育では、科目群を拡充して選択の幅を広げ、学生のみなさんの多様な関心・学修要求に応えるように工夫しています。学生のみなさんには、様々な角度から総合的に物事を観察し的確に判断できる力や人としての豊かな感性を培うよう求めます。また、共同化によって専門や将来の志望の異なる学生同士や教員との交流を図ることができる条件を勉学や学生生活に活かし、下鴨・北山地域における新しい学生のライフスタイル、大学像が構築されることを期待しています。

I. 目指すもの

我が国の大学における教養教育は、戦後新制大学の発足以来一貫して、専門教育と並ぶ不可欠のものとして位置づけられてきました。しかしその在り方、システムや評価は時代によって変化し、社会からの要請や学生の受け止め方によって、ときには充実が求められ、また一方では形骸化を指摘されることもありました。現在の私たちは、経済のグローバル化による産業の空洞化、経済・社会の不透明・不安定化、少子高齢化、災害の巨大化、将来のエネルギー問題など様々の課題に直面し、ときには閉塞感を抱くこともあります。このような今の時代に、社会からは、眼前の利害や身の周りの空気のみで判断・行動するのでなく、主体的に考え行動し、多様な人々と連携・協同する豊かな感受性と高い倫理観を身につけることが求められています。私たちがとりくむ教養教育は、学生の皆さんが、高度な専門知識だけではなく学術の幅広い基礎的素養と科学的に思考する力を修得し、それらを基礎にして、文化や立場を異にする様々な人々と対話し議論する力や、書き、表現する力を育むことを目指します。

このような認識を踏まえ、京都三大学の共同化教養教育においては、第一に、時代が求める教養教育の課題を以下の3点に整理し、各授業科目に反映させます。

A. 人文・社会・自然諸分野の学術体系を俯瞰しながらこれらの基礎を幅広く学習し、学術への高い 関心を育てること。

現代社会を生きていく市民として、諸科学の基礎的知識を幅広く修得することが求められる。大学受験に偏重した教育等の影響による修得知識の偏りを改善することも望まれる。しかし、限られた時間で修得できる知識は多くない。諸学問体系のそれぞれがもつ特有の視点に接することによって、関心・好奇心を醸成する。

B. 世界の人々の多様な生き方を感受し、人としての豊かな感性や倫理観を拡張すること。

世界の多様な地域における人々の生活、歴史の様々な時代における人々の経験や思想など、社会における人の生き方、感じ方に触れ、それらを自己に投影することによって自らの生き方を思考し省察しながら、豊かな人間性と倫理観を培う。歴史、社会、文化、芸術等を通して、人としての価値を考察し形成する。

C. 日々社会に生起する種々の問題において、真理や正義を探求する議論に習熟すること。

日々生起する諸問題の多くは、必ずしも解が単一ではない。立場、経験、志向などの異なる多様な者が解を求め、何が正しく何が真実か、何を目指すべきかなどを議論し解決に向かう試みを通して、読み書き等のスキルを研鑽しながら、批判的検討や討論を遂行する力を養い、人とかかわるコミュニケーション力の向上を図る。

第二として、このような基本的な目的に加えて、京都三大学としての特徴を活かした教育を実現します。

- 1. 共同化科目の各教室では、将来の専門分野が異なる京都三大学の学生が混在して受講することによって、学修歴や志向の違いを越えた多面的な視点による学修や討論を実現します。また、上記課題Cに狙いをおいた少人数の「リベラルアーツ・ゼミナール」を設けます。
- 2. 伝統文化、芸術、街づくり、市民生活、地場産業やさらに自然環境など、京都に歴史的に生きている諸 財産やその現代における展開をとりあげ、京都という地の特色を諸側面から学びます。そして、この地域 のなりわいの理解を通して、これからの地域・街・生活・文化のあるべき姿を検討します。

Ⅱ. 実施の方針

京都三大学の共同化教養教育を運営していく組織として「京都三大学教養教育研究・推進機構」が設置されています。本機構のもとで、3大学それぞれから共同化に相応しい授業科目が提供され、また機構独自で工夫された特色ある科目が提供されます。これらの科目はすべて3大学の正規の授業科目として学生の自主的な選択に供されます。

提供される授業科目は、それぞれ上記の目的に沿って、A. 幅広い基礎的知識の修得、B. 多様な人間世界の事象に触れ人々の生き方を感受し思考する、C. 真理と正義に係る多面的な議論や論考に習熟する、の3つの性格があり、各授業が主としてどの性格をもつものかを示して、学生のみなさんの履修に供されます。みなさんには人文・社会・自然の3分野と共に、これらの性格で分けられた科目をバランスよく履修することが望まれます。そこではまた、これまでの学修歴による修得知識の偏りや狭さを改善することも期待されます。

教養教育のカリキュラム、授業のテーマ、内容や方法は固定的なものではなく、学修状況や授業の成果、みなさんからの要望等によって、常に改善・開発を図っていくものです。このため「機構」には「リベラルアーツセンター」と「教育IRセンター」の二つのセンターを設置し、カリキュラム等の改善・開発や学修の質評価等に係る調査・検討に取り組みます。これらの検討は、専ら教員の側のみで行うものではなく、みなさんの積極的な参加・協力が望まれます。学生のみなさんと教職員の協働によって、新しい豊かな学修フィールドの形成を図っていきます。

共同化科目の履修について

共同化科目とは

京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学の各大学が教養科目を相互に提供し、提供されたすべての科目を各大学が自大学の科目としている科目群です。

1 単 位

共同化科目は、各大学の正規科目であり、修得した場合の単位は、各大学の規定に則り付与されます。

2 授業日

下表のとおり、原則として<u>月曜日午後に開講</u>されます。月曜日が休祭日に伴う他の曜日への振替もありますので、注意してください。前後期とも最終週が試験日になります。

前 4月:11日、18日、25日 5月:2日、9日、16日、23日、30日 後 6月:6日、13日、20日、27日 7月:4日、11日、25日 8月:1日(試験日) 後 11月:7日、14日、21日、28日 12月:5日、12日、19日 平成29年 1月:10日(火)、16日、23日、3 2月:6日(試験日)	0日
---	----

3 授業時間

月曜日午後の3つの時限(コース)に行われます。(各授業科目の開講時限(コース)は、巻末の時間割を参照のこと。)

時 限 (コース)	3	4	5
時間	$12:50 \sim 14:20$	14:30 ~ 16:00	$16:10 \sim 17:40$

4 開講場所について

共同化科目は、原則として府立大学下鴨キャンパス敷地内の教養教育共同化施設「稲盛記念会館」にて開講されます。

5 履修の手続き

4~5頁の「平成28年度 授業科目の履修定員」などを参照の上、各大学において必要な履修登録の手続きを行ってください。

6 試 験

定期試験は、上記2に掲げた「試験日」に、それぞれ授業の時間割どおり実施します。試験に関して必要なことは、試験の前に別途お知らせします。

7 休講基準

共同化科目の授業について、暴風警報等が発令された場合など次のいずれかの一に該当する場合は授業 を休講とします。

- ①京都市又は京都市を含む地域に気象等に関する特別警報又は暴風警報が発令された場合
- ②京都市営バス及び地下鉄が全面停止の場合
- ③JR西日本(京都駅発着の在来線)、阪急電鉄(梅田 河原町間)、京阪電鉄(淀屋橋又は中之島 出町柳間)及び近鉄(西大寺 京都間)の4交通機関のうち3以上の運行が停止の場合

警報の解除又は交通機関の運行再開(以下「解除等」という。)に伴う授業の取扱いは次のとおりです。

- ①午前6時30分までに解除等となった場合…平常どおり授業を実施
- ②午前10時30分までに解除等となった場合…午後の授業を実施

休講及び授業実施のお知らせは、各大学からそれぞれの連絡方法によりお知らせします。

上記の基準は、共同化科目に適用されるものであり、各大学で開講される授業の休講基準は、大学ごとに異なる点がありますので、各大学の基準に従ってください。

(2)京都三大学教養教育共同化科目受講案内

平成28年度 共同化科目一覧

科	目群	科目名	担当教員	開講期	授業	目的 B	区分
_		哲学	エ・伊藤	後	Ô	- 1	
		比較宗教学	工・長岡	前	Ŏ	ŏ	
		宗教と文化	医·田中	後	Õ		
	1881 55	日本史	工·鬼頭	前	Õ	-	
	人間と歴史	東西文化交流史	エ・カーガスティン	後	0	0	
		アジアの歴史と文化	府・岡本	前	0	0	
		ヨーロッパの歴史と文化	府・川分	後	0	0	
		科学と思想	工・林	後	0		0
		ラテン語	医·松本	後		O	
人		西洋文化論	エ・山下太	後	0		
人間と文化		日本文学 [医·早川	前	0		
文		日本文学『	医・早川	後	0	_	
化	文化・芸術	日本近現代文学	工·高木	前	0	0	
25		西洋文学論	エ・山下大	前		0	
(25)科目		文芸創作論	医・藤田	後		0	
		美と芸術	工・三木順	前	0	0	
		日本近代精神史	工・伊藤	前	0	0	
		京都の歴史 I 京都の歴史 I	府・櫛木ほか 府・小林ほか	前後	00	0	
		京都の文学Ⅰ	府・赤瀬	前		0	
	京都学	京都の文学Ⅰ	府・赤瀬	後		0	
		京の意匠	工・並木	後		Ŏ	0
		英語で京都(※3回生以上)	機構・金澤	後		0	
	リベラルアーツ・	リベラルアーツ・ゼミナールVI (現代イスラーム世界の文化と社会)	機構・田村	集中·夏		0	
	ゼミナール	リベラルアーツ・ゼミナールVII (感性の実践哲学)	機構・桑子	集中·夏		0	0
		人文地理学Ⅰ	医·阿部	前	0	0	
		人文地理学Ⅱ	医·阿部	後	0	0	
	#주되쯤	社会学Ⅰ	府·玉井	前	0	0	0
	社会科学 の基礎	社会学Ⅱ	府·玉井	後	0	0	$\overline{\circ}$
	07至吨	政治学	工·竹本	後	0		0
		国際政治	府・依田	後	0	0	$\overline{\circ}$
		経済学入門	工·人見	後	0		
		現代の政治	府・依田	前	0		
		生活と経済	府·小沢	後	0		
		心理学	エ・大谷	前	0		
		発達心理学	医・小川	集中·夏	0	0	
,	人間と社会	現代社会と心	府·石田	後	0		0
間		現代社会とジェンダー	府・小沢ほか	前		0	0
کے		人権教育	工·杉本	後	0		0
<u>在</u>		現代教育論	工・塩屋	前前		0	
人間と社会(27科目)		食環境をめぐる国際社会と日本 環境と法	府・宗田ほか エ・鳥谷部	前後		0	0
27		環境とぶ 京都学事始 ―近代京都と三大学―	. <u>土 1 / 同せ</u> 配. 機構・宗田ほか	I_1医 前	9	Ψ.	8
Ē		京の産業技術史	工・山田	後		0	Ĕ
	京都学	現代京都論	府·大島	前		0	
		医史学	医・八木	前	0	-	
		リベラルアーツ・ゼミナール Ⅰ	. <u>== _ </u>	前・後		0	0
		(感覚で探る問題解決の方法) リベラルアーツ・ゼミナールⅡ					
		(現代社会に学ぶ問う力・書ぐ力) リベラルアーツ・ゼミナールⅡ	機構・児玉	前		0	0
	リベラルアーツ・ ゼミナール	(社会科学の学び方) リベラルアーツ・ゼミナールⅣ	機構・児玉	後		0	0
		(現代社会と映画製作)	機構・長坂	集中・夏		0	0
		リベラルアーツ・ゼミナールV (アメリカと中国はいま) リベラルアーツ・ゼミナールK		集中·冬		0	
		(経営哲学)(※2回生以上) 物理学 I	機構・児玉 府・春山	後前	0		0
層		初理子 I	工·三木定	前	0		
E		化学概論 I	工・石川	後			
然	自然科学	11子/収酬 I 生物学概論 I	エ・遠藤	前	0		
22	の基礎	生物学概論 I	工・遠藤	後			
八間と自然(22科目		生命科学講話		集中·夏	_	0	
		地球の科学	工・酒井	後	0		0
		. 29:00 22 EL 2	L=- 4941	1-12-	121	٠	12.

科	B	群	科目名	担当教員	開講期		目的 B	
		_	 人と自然と数学α	工・大倉	前		О	
			人と自然と数学β	工・塚本	後	0		C
			人と自然と物理学	エ・萩原、播磨	後	0		C
			生物学的人間学	医・小野ほか	前	0		
			意外と知らない植物の世界	機構・藤井ほか	後	0	0	
人			科学史	工・笠木	後	0	0	
間と	<u>_ </u>	間と	科子史 環境問題と持続可能な社会	エ・高月		0		C
人間と自然	🗆 📉	·科学	環境回歴と対域可能は44五 食と健康の科学		前	0		
				府・東ほか	前	-		-
(22 科目			キャンパスヘルス概論 時間生物学特論(※3回生以上(修	工・荒井	前 集中・	0	0	C
科目			古間生物学特調(※3回生以工(修) 士課程大学院生を含む。))	医・八木田	() () () () () () () () () ()	0		C
9			エネルギー科学	エ・林	前	0		C
			現代科学と倫理	府·岩崎	後			С
			京都の自然と森林	府・池田ほか	前	Ö		
	京	那学	京都の農林業	府・寺林ほか	後	0		
	ヷゔヺ	アニッ.	リペラルアーツ・ゼミナールVI			1		
		ナール	(製品の機能から科学を学ぶ)	機構・石田	後	0		C
숨	十74秒	18						
			リベラルアーツ・ゼミナールI	機構・藤井	前·後			C
(再	掲)		(感覚で探る問題解決の方法) リベラルアーツ・ゼミナール	036119 33671	133 12			_
(1)			(現代社会に学ぶ問う力・書く力)	機構·児玉	前		0	0
			リベラルアーツ・ゼミナールⅢ	機構·児玉	後		0	C
1100=			(社会科学の学び方)	1成1冊 : 元上	1/2		9	
	シルア- ミナー		リベラルアーツ・ゼミナールVII (製品の機能から科学を学ぶ)	機構·石田	後	0		C
(9	9科目)	リベラルアーツ・ゼミナール区	186.1# ID.T	241			
			(経営哲学)(※2回生以上)	機構·児玉	後	0		С
			リベラルアーツ・ゼミナール I	機構·長坂	集中		0	lc
			(現代社会と映画製作) リベラルアーツ・ゼミナールV		夏 集中·		_	
		集中	(アメリカと中国はいま)	機構・脇田	*\ \&		0	C
		開講	リベラルアーツ・ゼミナールVI	機構·田村	集中		0	lc
			(現代イスラーム世界の文化と社会) リペラルアーツ・ゼミナールVI	1001119 Ш13	夏			
			リハラルアーツ・セミテール (感性の実践哲学)	機構·桑子	集中· 夏		0	C
			[(M:E0) X & B 1)		1 2	_		_
			京都の歴史Ⅰ	府・櫛木ほか	前	О	0	Г
再掲)		京都の歴史Ⅱ	府・小林ほか	後	0	0	
1776	/		京都の文学Ⅰ	府·赤瀬	前	0	0	
			京都の文学Ⅱ	府·赤瀬	後	0	0	
			京の意匠	工・並木	後	0		C
	<u>= +0 ~-</u>		京都学事始 一近代京都と三大学一	機構・宗田ほか	前			C
	京都学 12科目		京の産業技術史	工・山田	後		0	
(12170	17					_	
			現代京都論	府・大島	前		0	
			医史学	医・八木	前	0	0	
			京都の自然と森林	府・池田ほか	前	0		
			京都の農林業	府・寺林ほか	後	0		
			英語で京都(※3回生以上)	機構·金澤	後		0	C
再掲			英語で京都(※3回生以上)	機構·金澤	後		0	C
203	生以上	向け	リベラルアーツ・ゼミナールIX	機構·児玉	後	0		lc
	開講		(経営哲学)(※2回生以上) 時間生物学特論(※3回生以上(修		集中·	_		
			士課程大学院生を含む。))	医・八木田	東丁	10		lC

担当教員(それぞれの略称は、科目の提供大学・機関を示します。) エ:京都工芸繊維大学、府:京都府立大学 医:京都府立医科大学、 機構:京都三大学教養教育研究・推進機構 授業目的区分(○は該当するもの、個は特に強調するもの) A:人文・社会・自然の諸分野の学術体系を俯瞰しながらこれらの基礎を幅広く 学習し、学術への高い関心を育てる。 B:世界の人々の多様な生き方を感受し、人としての豊かな感性や倫理観を拡張 する。 C:日々社会に生起する種々の問題において、真理や正義を探求する議論に習熟 する。

平成28年度 授業科目の履修定員

共同化科目について、下表のとおり科目ごとに科目定員が定められ、各大学の定員枠も設定されています。

履修登録は、各所属大学の日程にしたがって、各所属大学で行います。<u>希望者が多く各大学の定員枠を超える場合には、</u>大学ごとに抽選を行い、履修者を決定します。抽選の結果、履修できない場合もありますので、あらかじめご了承ください。

なお、皆さんの履修希望がより多く実現できるよう、履修登録の状況を踏まえ、各大学の定員枠を調整したり、科目定員を変更したりする場合があります。

履修登録の際には、前後に履修する授業に支障が出ないよう、また、安全に移動できるよう、共同化施設までの交通手段 や所属大学からの所要時間を十分考慮するようにしてください。

前期 授業科目の履修定員

科目名	担当教員	科目定員	うち工繊大	うち府大	うち医大
比較宗教学	工・長岡	174	87	58	29
日本史	工・鬼頭	99	50	33	16
アジアの歴史と文化	府・岡本	99	37	50	12
日本文学 I	医・早川	99	29	20	50
日本近現代文学	工・高木	99	50	33	16
西洋文学論	工・山下大	99	50	33	16
美と芸術	工・三木順	174	87	58	29
日本近代精神史	工・伊藤	174	87	58	29
京都の歴史 I	府・櫛木ほか	299	113	149	37
京都の文学 I	府・赤瀬	99	37	50	12
人文地理学 I	医・阿部	120	36	24	60
社会学 I	府・玉井	120	45	60	15
現代の政治	府・依田	99	37	50	12
心理学	工・大谷	196	98	66	32
現代社会とジェンダー	府・小沢ほか	120	45	60	15
現代教育論	工・塩屋	174	87	58	29
食環境をめぐる国際社会と日本	府・宗田ほか	120	45	60	15
京都学事始一近代京都と三大学一	機構・宗田ほか	99	33	33	33
現代京都論	府・大島	120	45	60	15
医史学	医・八木	204	58	39	107
リベラルアーツ・ゼミナールIa (感覚で探る問題解決の方法)	機構・藤井	30	10	10	10
リベラルアーツ・ゼミナール II a (現代社会に学ぶ問う力・書く力)	機構・児玉	30	10	10	10
リベラルアーツ・ゼミナール II b (現代社会に学ぶ問う力・書く力)	機構・児玉	30	10	10	10
物理学 I	府・春山	99	37	50	12
化学概論 I	工・三木定	99	50	33	16
生物学概論 I	工・遠藤	99	50	33	16
人と自然と数学α	工・大倉	120	60	40	20
生物学的人間学	医・小野ほか	204	61	41	102
環境問題と持続可能な社会	工・高月	99	50	33	16
食と健康の科学	府・東ほか	174	65	87	22
キャンパスヘルス概論	工・荒井	196	98	66	32
エネルギー科学	工・林	99	50	33	16
京都の自然と森林	府・池田ほか	174	65	87	22
◇夏期集中開講科目の履修定員					
リベラルアーツ・ゼミナールVI (現代イスラーム世界の文化と社会)	機構・田村	30	10	10	10
リベラルアーツ・ゼミナールVII(感性の実践哲学)	機構・桑子	30	10	10	10
発達心理学	医・小川	174	52	35	87
リベラルアーツ・ゼミナールN(現代社会と映画製作)	機構・長坂	30	10	10	10
生命科学講話	府・塚本ほか	設けない	. 0	. 3	. 0
時間生物学特論	,				4.5
(※3回生以上(修士課程大学院生を含む))	医・八木田	30	9	6	15

(4) 京都三大学教養教育共同化科目受講案内

後期 授業科目の履修定員

科目名	担当教員	科目定員	うち工繊大	うち府大	うち医大
哲学	エ・伊藤	174	87	58	29
宗教と文化	医・田中	99	29	20	50
東西文化交流史	エ・オーガスティン	174	87	58	29
ヨーロッパの歴史と文化	府・川分	174	65	87	22
科学と思想	工・林	120	60	40	20
ラテン語	医·松本	99	29	20	50
西洋文化論	エ・山下太	174	87	58	29
日本文学Ⅱ	医·早川	99	29	20	50
文芸創作論	医・藤田	120	36	24	60
京都の歴史Ⅱ	府・小林ほか	299	113	149	37
京都の文学Ⅱ	府·赤瀬	99	37	50	12
京の意匠	工・並木	99	50	33	16
英語で京都(※3回生以上)	機構·金澤	30	10	10	10
人文地理学Ⅱ	医·阿部	174	52	35	87
社会学Ⅱ	府·玉井	120	45	60	15
政治学	工・竹本	99	50	33	16
国際政治	府·依田	99	37	50	12
経済学入門	エ・人見	99	50	33	16
生活と経済	府·小沢	99	37	50	12
現代社会と心	府·石田	196	74	98	24
人権教育	エ・杉本	120	60	40	20
環境と法	工・鳥谷部	99	50	33	16
京の産業技術史	エ・山田	99	50	33	16
リベラルアーツ・ゼミナールIb (感覚で探る問題解決の方法)	機構・藤井	30	10	10	10
リベラルアーツ・ゼミナールⅢ (社会科学の学び方)	機構・児玉	30	10	10	10
リベラルアーツ・ゼミナールIX (経営哲学)(※2回生以上)	機構・児玉	30	10	10	10
化学概論Ⅱ	エ・石川	99	50	33	16
生物学概論Ⅱ	工・遠藤	99	50	33	16
地球の科学	工·酒井	99	50	33	16
人と自然と数学β	エ・塚本	120	60	40	20
人と自然と物理学	工·萩原、播磨	99	50	33	16
意外と知らない植物の世界	機構・藤井ほか	51	17	17	17
科学史	工・笠木	99	50	33	16
現代科学と倫理	府・岩崎	99	37	50	12
京都の農林業	府・寺林ほか	196	74	98	24
リベラルアーツ・ゼミナールVII (製品の機能から科学を学ぶ)	機構·石田	30	10	10	10

◇冬期集中開講科目の履修定員 リベラルアーツ・ゼミナールV (アメリカと中国はいま) 機構・脇田

担当教員欄の「工」、「府」、「医」、「機構」は、科目提供大学を示し、それぞれ京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学、京都 三大学教養教育研究・推進機構です。

京都三大学教養教育共同化科目受講案内 (5)

10

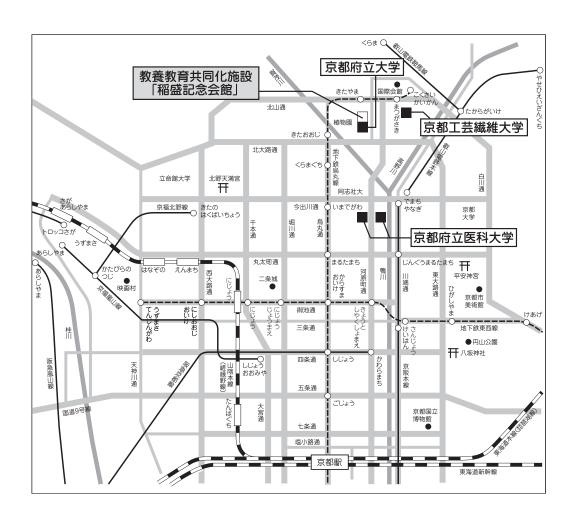
10

キャンパスガイド

共同化科目開講場所について

共同化科目は、原則として京都府立大学下鴨キャンパス敷地内の教養教育共同化施設「稲盛記念会館」で開講され ます。

受講者は、次ページ以降に掲載されている地図や交通手段などを参考にして、時間に余裕をもって移動できるよう 心掛けて下さい。





平成28年度 共同化科目開講時間割

前期

Ha	六刀				
提	供大学等	機構	京都工芸繊維大学	京都府立大学	京都府立医科大学
曜日·二	開講場所			·同化施設 盛記念会館)	
		リベラルアーツ・	日本近代精神史(伊藤 徹)	京都の歴史Ⅰ	
	3	ゼミナールIa	現代教育論(塩屋葉子)	(櫛木謙周ほか) 現代の政治(依田 博)	
	12:50~14:20	(現代社会に学ぶ 問う力・書く力)	生物学概論 I (遠藤泰久)	現代京都論(大島祥子)	医史学 (八木聖弥)
		(児玉英明)	環境問題と持続可能な社会(高月 紘)	物理学 I(春山洋一)	
月		京都学事始 一近代京都と三大学―	日本近現代文学(高木 彬)	京都の文学 I (赤瀬信吾)	日本文学 I (早川久美子)
	4	(宗田好史ほか)	美と芸術(三木順子)	7 (3/4///100)	
	4 14:30~16:00	リベラルアーツ・	化学概論 I (三木定雄)	社会学 I (玉井眞理子)	人文地理学 I (阿部美香)
曜	14.30 ~ 10.00	ゼミナール I a (感覚で探る問題解決の方法)	人と自然と数学α(大倉弘之)		生物学的人間学
		(藤井陽奈子)	キャンパスヘルス概論(荒井宏司)	食と健康の科学(東あかね ほか) 	(小野勝彦ほか)
		リベラルアーツ・	比較宗教学(長岡徹郎)	アジアの歴史と文化(岡本隆司)	
	5	ゼミナールIb	日本史(鬼頭尚義)	現代社会とジェンダー	
	-	(現代社会に学ぶ	西洋文学論(山下大吾)	(小沢修司ほか) 食環境をめぐる国際社会と日本	
	16:10 ~17:40	問う力・書く力)	心理学(大谷芳夫)	(宗田好史ほか)	
		(児玉英明)	エネルギー科学(林 哲介)	京都の自然と森林(池田武文ほか)	

後 期

1女	八				
提	供大学等	機構	京都工芸繊維大学	京都府立大学	京都府立医科大学
曜日・三	開講場所コース			· 同化施設 · · ·	
		リベラルアーツ・ ゼミナールⅡ	哲学(伊藤 徹)		
		(社会科学の学び方) (児玉英明)	東西文化交流史 (オーガスティン・ジョナサン)	 京都の歴史 I (小林啓治ほか)	
	3	意外と知らない 植物の世界	京の意匠(並木誠士)		
	12:50~14:20	(藤井陽奈子、松谷 茂ほか)	政治学(竹本知行)		文芸創作論(藤田佳信)
		リベラルアーツ・ ゼミナールVII	京の産業技術史(山田由希代)		
月		(製品の機能から 科学を学ぶ)	生物学概論Ⅱ(遠藤泰久)	国際政治(依田 博)	
		(石田昭人)	科学史(笠木雅史)		
		リベラルアーツ・	科学と思想(林 哲介)	ヨーロッパの歴史と文化(川分圭子)	宗教と文化(田中純子)
B7	4	ゼミナール I b	環境と法(鳥谷部壌)	京都の文学 I (赤瀬信吾)	ラテン語(松本加奈子)
	14:30~16:00	(感覚で探る問題 解決の方法)	人と自然と数学β(塚本千秋) 人と自然と物理学	社会学Ⅱ(玉井眞理子)	日本文学Ⅱ(早川久美子)
		(藤井陽奈子)	(萩原 亮、播磨 弘)	現代社会と心(石田正浩)	人文地理学 🛚 (阿部美香)
		英語で京都 (※3回生以上)	西洋文化論(山下太郎)	生活と経済(小沢修司)	
		(金澤 哲)	経済学入門(人見光太郎)		
	5 16:10~17:40	リベラルアーツ・ ゼミナールIX	人権教育(杉本弘幸)	現代科学と倫理(岩崎豪人)	
		(経営哲学)	化学概論 Ⅱ(石川洋一)		
		(※2回生以上) (児玉英明)	地球の科学(酒井 敏)	京都の農林業(寺林 敏ほか)	

集中開講

	リペラルアーツ·ゼミナールVI(現代イスラーム世界の文化と社会)(田村うらら)(8月11日 2~5コース、12日 1~4コース)	機構
	生命科学講話(塚本康浩ほか)(8月24日~26日 各1~5コース)	府 大
夏期	リベラルアーツ・ゼミナールVII(感性の実践哲学)(桑子敏雄)(8月29日~30日 各2~5コース)	機構
	リペラルアーツ・ゼミナール \mathbb{N} (現代社会と映画製作) (長坂 勉) (9月1~2日、9月8~9日 各 $3\cdot4$ コース)	機構
	時間生物学特論(※3回生以上(修士課程大学院生を含む。))(八木田和弘)(9月5日~6日 各1~4コース)	医 大
	発達心理学(小川恭子)(9月5日~7日 各1~5コース)	医大
冬 期	リベラルアーツ・ゼミナールV(アメリカと中国はいま)(脇田哲志)(12月26日 1~4コース、27日 2~5コース)	機構

28) 京都三大学教養教育共同化科目受講案内

京都三大学教養教育研究・推進機構 授業アンケート

[あなたの所属は			記力	しに際して	良いマ- は鉛筆かシ	ャー	プペンシ	ルを用い		-
	: 、次のうちのどれですか	'o	は)	肖しコムで	きれいに消	して	ください	١,		
京都府立大学	① 文学部	② 公共	共政策学部	3	生命環境	学部				
京都工芸繊維大学	④ 生命物質科学域	⑤ 設計	工学域	6) 造形科学:	或	(つ 先端和	斗学技術記	果程
京都府立医科大学	⑧ 医学科	⑨ 看護	養学科							
	① その他()					
I 京都府立大学生	は、所属学科もお答えく	ださい。								
文学部	① 日本・中国文学科	2	欧米言語:	文化学科	3 1	歴史学	科			
公共政策学部	④ 公共政策学科		福祉社会							
生命環境学部	⑥ 生命分子化学科		農学生命				世学科			
	⑨ 環境・情報科学科	1	環境デザ	イン学科	1	柒林科	4学科			
① 1回生 の 1回性	状況をお答えください。		4回生					- 1 4 1.	b /=	
① 1回生 7 この科目の出席 ④ ほぼ全て出席 ① ほとんど出席 7 この科目につい ④ 120分以上	状況をお答えください。 した(12回以上) しなかった(4回以下) で、1回あたり平均して ③ 60分以上	③ かな どのくら 30分以	り出席し いの授 第 上	た(9~1 ¹ に時間外 与	1回) (• 復	習)を「	していま	きすか。	
① 1回生 7 この科目の出席 ④ ほぼ全て出席 ① ほとんど出席 7 この科目につい ④ 120分以上 I この科目を受講	状況をお答えください。 した(12回以上) しなかった(4回以下) つて、1回あたり平均して ③ 60分以上 ②	③ かな どのくら 30分以	り出席し いの授 第 上	た(9~1 ¹ に時間外 与	学習(予習	•復 5	習)を「 4	していま	ますか。	
1 回生 7 この科目の出席 4 ほぼ全て出席 1 ほとんど出席 7 この科目につい 4 120分以上 1 この科目を受講	状況をお答えください。 した(12回以上) しなかった(4回以下) で、1回あたり平均して ③ 60分以上	③ かな どのくら 30分以	り出席し いの授 第 上	た(9~1 ¹ に時間外 与	学習(予習	•復 5	習)を「 4	していま	ますか。	
7 この科目の出席 ① ほぼ全て出席 ① ほとんど出席 7 この科目につい ② 120分以上 7 この科目を受講 次の各項目に5	状況をお答えください。 した(12回以上) しなかった(4回以下) つて、1回あたり平均して ③ 60分以上 ②	③ かな どのくら 30分以 ちました	り出席し いの授 第 上	た(9~1 ¹ に時間外 与	1回) 学習(予習(予習) (予習) (予習) (予習) (予習) (予習) (予習) (予習) (• 復	習)を「	していま	きすか。	思れたし
 1回生 この科目の出席 ほぼ全て出席 ほとんど出席 この科目につい 120分以上 この科目を受講次の各項目に5 (1) この科目や関 	状況をお答えください。 した(12回以上) しなかった(4回以下) で、1回あたり平均して ③ 60分以上 ② してどのような感想を持 段階で答えてください。	③ かな どのくら 30分以 ちました を学んだ	り出席し いの授 第 上	た(9~1 ¹ に時間外 与	1回) 「予習 (予習 (予習 (予習 (予習 (予習 (予習 (予習 (予習 (予習 (• 復	習)を 4 そう思う	して 3 ごちらとも	ま すか 。 2 あまりそう	思れなし
1 回生 7 この科目の出席 4 ほぼ全て出席 1 ほとんど出席 7 この科目につい 4 120分以上 7 この科目を受講 次の各項目に 5 (1) この科目や関 (2) この科目や関 (2) この科目や関	状況をお答えください。 した(12回以上) しなかった(4回以下) いて、1回あたり平均して ③ 60分以上 ② してどのような感想を持 段階で答えてください。 車する分野特有の視点や手法	③ かな どのくら 30分以 ちました を学んだ	り出席し いの授 第 上	た(9~1 ¹ に時間外 与	1回) 「予習 (予習 (予習 (予習 (予習 (予習 (予習 (予習 (予習 (予習 (• 復 5 強<	習)を 4 そう思う 4	ていま 3 言えない 3	ですか。 2 思わない う	思れない。
1 回生 7 この科目の出席 4 ほぼ全て出席 1 ほとんど出席 7 この科目につい 4 120分以上 7 この科目を受講 次の各項目に 5 (1) この科目や関 (2) この科目や関 (3) 世界の人々の	状況をお答えください。 した(12回以上)	③ かな どのくら 30分以 ちました を学んだ 得した	り出席し いの授 第 上	た(9~1 ¹ に時間外 与	学習(予習 ・ 一 では、 でも、と思う。 ()()()()()()()()()()()()()()()()()()()	• 復 5 强 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	習)を 4 そう思う 4	る 言えない 3 3 3	さすか 。 2 思わない ②	思わない(((
1 回生 7 この科目の出席 4 ほぼ全て出席 1 ほとんど出席 7 この科目につい 4 120分以上 7 この科目を受講 次の各項目に 5 (1) この科目や関 (2) この科目や関 (3) 世界の人々の (4) 自らの生き方	状況をお答えください。 した(12回以上)	③ かな どのくら 30分以 ちました を学んだ 得した	り出席し いの授 第 上	た(9~1 ¹ に時間外 与	プロ (予習 (予習 (予習 (予習 (予習 (予習 ()	• 復 5 強< 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	習)を 4 そう思う 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	3 ぎちらとも 3 3 3 3	2 思わない ② ② ②	思れない。
1 回生 7 この科目の出席 4 ほぼ全て出席 1 ほとんど出席 7 この科目につい 4 120分以上 7 この科目を受講 次の各項目に 5 (1) この科目や関 (2) この科目や関 (3) 世界の人々の。 (4) 自らの生き方。 (5) 現代社会が抱	状況をお答えください。 した(12回以上) しなかった(4回以下) で、1回あたり平均して ③ 60分以上 ② ② ② ② ② ② ② ② ②	③ かな どのくら 30分以 ちました を学んだ 得した	り出席し いの授 第 上	た(9~1 ¹ に時間外 与	プロ (予習 (予習 (予習 (予習 (予習 (· 復	習) を 4 そう思う 4 4 4 4 4 4	3 ぎちらとも 3 3 3 3 3	2 思わない ② ② ② ② ②	思れない。
1 回生	状況をお答えください。 した(12回以上) しなかった(4回以下) ない、1回あたり平均して ③ 60分以上 してどのような感想を持 段階で答えてください。 車する分野特有の視点や手法 車する分野の基礎的知識を修 多様な生き方に触れた を考え、高い倫理観を培った える問題への関心が高まった どを検索し、読解する力が高	③ かな どのくら 30分以 ちました を学んだ 得した	り出席し いの授 第 上	た(9~1 ¹ に時間外 与	学習(予習 (予習 (予習 (· ((((((((((習) を 4 そう思う 4 4 やや 4 4 4 4 4 4 4	3 ぎちらとも 3 3 3 3 3 3 3 3	2 思わない ② ② ② ②	思れない。
1 回生	状況をお答えください。 した(12回以上) しなかった(4回以下) で、1回あたり平均して ③ 60分以上 してどのような感想を持 してどのような感想を持 段階で答えてください。 車する分野特有の視点や手法 車する分野の基礎的知識を修 多様な生き方に触れた を考え、高い倫理観を培った える問題への関心が高まった どを検索し、読解する力が高 まった する力が高まった	③ かな どのくら 30分以 ちました を学んだ 得した	り出席し いの授 第 上	た(9~1 ¹ に時間外 与	学習(予習 (予習 (予習 (予習 (・ で (・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	· 復 5 強 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	習) を 4 そう思う 4 4 やや 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	3 ぎちらとも 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	2 思わない。 ② ② ② ② ② ②	思れない。
1 回生	状況をお答えください。した(12回以上)しなかった(4回以下) いて、1回あたり平均して ③ 60分以上 してどのような感想を持 してどのような感想を持 段階で答えてください。 連する分野特有の視点や手法 連する分野の基礎的知識を修 多様な生き方に触れた を考え、高い倫理観を培った える問題への関心が高まった との議論を経験できた	③ かな どのくら 30分以 ちました を学んだ 得した	いの授業 上 (こか。	た(9~1 ¹ に時間外 与	(予習 (予習 (予習 (予習 () (((((((((((((((((((· (a) (b) (b) (c) (c	習)を 4 そう思う 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	3 ぎちらとも 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	2 思わない。 ② ② ② ② ② ② ②	思すなし (((((((((((((((((((
1 回生	状況をお答えください。した(12回以上)しなかった(4回以下) いて、1回あたり平均して ③ 60分以上 してどのような感想を持 してどのような感想を持 段階で答えてください。 車する分野特有の視点や手をを考え、高い倫理観を培ったたる。 に表していまする力が高まったとの議論を経験できた べない領域を学んだという実	③ かな どのくら 30分以 ちました を学んだ 得した 感があっ	いの授業 上 (: か。	た(9~1 ⁻ 終時間外 与 3 0分末	(予習 (予習 (予習 (予 (((((((((((((((((((· (a) (b) (b) (c) (c	習)を 4 そう思う 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	3 ぎちらとも 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	2 思わない ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ②	思すない。
	状況をお答えください。した(12回以上)しなかった(4回以下) いて、1回あたり平均して ③ 60分以上 してどのような感想を持 してどのような感想を持 段階で答えてください。 車する分野の基礎的知識を修っる分野の基礎的知識を増ってたる。 を考え、高い倫理観を培ったたる。問題への関心が高まったとの議論を経験できたできたでない領域を学んだという実に	③ かな どのくら 30分以 ちました を学んだ 得した 感があってい	いの授業 上 (: か。	た(9~1 ⁻ 等時間外 ① 30分末 実感があっ	学習(予習 (予習 (予習 (予習 () () () () () () () () () () () () () (· ((((((((((習)を 4 そう思う 4 4 やや 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	3 ぎちらとも 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	2 思わない ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ②	思れない (((((((((((((((((((
	状況をお答えください。した(12回以上)しなかった(4回以下) いて、1回あたり平均して ③ 60分以上 してどのような感想を持 してどのような感想を持 段階で答えてください。 車する分野特有の視点や手をを考え、高い倫理観を培ったたる。 に表していまする力が高まったとの議論を経験できた べない領域を学んだという実	③ かな どのくら 30分以 ちました を学んだ 得した 感があってい 感が加してい の科目の	いの授業 上 (: か。	た(9~1 ⁻ 等時間外 ① 30分末 実感があっ	学習 (予習 (予習 (予習 (· (a) (b) (b) (c) (c	習)を 4 そう思う 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	3 ぎちらとも 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	2 思わない ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ②	~ 8

京都三大学教養教育研究・推進機構 1年次生アンケート

京都三大学教養教育研究・推進機構(2016年度)

]

]

三大学教養教育研究・推進機構 1年次生アンケート

(問題番号の後の*印は必須項目を表す. 大学間で統一する.)

このアンケートは三大学教養教育研究・推進機構の取り組みについての意見を集約するために授業アンケートとは別に行うもので す。ご協力をお願いします。

問 1. 三大学教養教育共同化科目(以下、共同化科目)の履修状況について答えてください。

問1-1. 履修登録の初めに第1希望として提出した科目数は何科目ですか。前学期・後学期別に答えてください。

問 1-1-1*. 前学期 (ただし集中講義を除く) [0.1.2.3]

問 1-1-2*. 後学期 (ただし集中講義を除く) [0, 1, 2, 3]

問 1-2. 実際に履修登録した科目数は何科目ですか。前学期・後学期別に答えてください。

問 1-2-1*. 前学期(ただし集中講義を除く)[0, 1, 2, 3]

問 1-2-2*. 後学期 (ただし集中講義を除く) [0, 1, 2, 3]

問1-3. 合否にかかわらず最終評価(試験やレポートなど)を受けた科目数は何科目ですか。前学期・後学期別に答えてください。

問1-3-1*. 前学期(ただし集中講義を除く)[0, 1, 2, 3]

問1-3-2*. 後学期(ただし集中講義を除く)[0, 1, 2, 3]

問2*. 履修登録時の抽選についてどう思いますか。[3. 現状でよい 2. どちらともいえない 1. できればなくしてほしい]

問3. <u>前学期・後学期いずれかに共同化科目を履修登録した方に</u>お聞きします。共同化科目の履修登録科目を選ぶとき、<u>以下</u>の問 3-1~問3-5 に挙げられているものは、それぞれどの程度役に立ちましたか。次の5段階で答えてください。(前学期・後学期いず れにも共同化科目を履修登録しなかった方は問6にお進みください。)

(5: とても役に立った 4: 役に立った 3: 少し役に立った 2: 役に立たなかった 1: 利用しなかった)

問3-1. 「京都三大学教養教育共同化科目受講案内」(緑の冊子)

問3-2 問3-1 で3~5と答えた人は、さらに問3-2-1~問3-2-4 についても答えてください。それ以外の方は問3-3 まで進んでく

[5, 4, 3, 2, 1]

問 3-2-1. 科目の概要 [5, 4, 3, 2, 1]

問3-2-2. 学生へのメッセージ [5, 4, 3, 2, 1]

問 3-2-3. 授業目的区分 [5, 4, 3, 2, 1]

問3-2-4. 上記問3-2-1~問3-2-3以外で役に立った部分があれば書いてください。[

問3-3 シラバス [5, 4, 3, 2, 1]

問3-4 京都三大学教養教育研究・推進機構の履修相談 [5, 4, 3, 2, 1]

問3-5 先輩や友人などの他の学生からのアドバイス [5, 4, 3, 2, 1]

問3-6 その他、役に立ったものがあれば書いてください。[

問4. 履修登録時に第1希望の科目を選んだ主な理由を、次の中から3つまで選んでください。

[1. 興味があったから 2. 必要だから 3. 学びがいのある科目と思ったから 4. 単位が取りやすそうだったから

5. 好きな分野だから 6. 知らない分野だから 7. 自大学提供科目だから 8. 他大学提供科目だから

]]

問5. 今年度履修した共同化科目の満足度を、科目ごとに5段階で表すとき、満足度の最高値と最低値を答えてください。

問5-1. 満足度の最高値 [5, 4, 3, 2, 1]

問5-2. 満足度の最低値 [5, 4, 3, 2, 1]

京都三大学教養教育研究・推進機構(2016年度)

問6*. 共同化科目の数や構成・内容についてはどう思いますか。

[4. 現状でよい 3. 科目の構成や内容を再検討してほしい 2. 科目数自体を増やして選択の幅を広げてほしい

1. その他[]]

問7*. 来年度、共同化科目を履修しようと思いますか。

[5. ぜひ履修したい 4. 履修したい 3. 履修するかもしれない 2. わからない 1. 履修しない]

問8. <u>前学期・後学期いずれかに共同化科目を履修登録した方に</u>お聞きします。共同化科目の履修を通じて、他大学の学生と話す等の交流の機会がどの程度あったかを、学期ごとに答えてください。(のべ数で、履修日かどうかも問いません) (前学期・後学期いずれにも共同化科目を履修登録しなかった方は問10にお進みください。)

問8-1. 前学期 [4. 7回程度以上 3. 3~6回程度 2. 1~2回程度 1. なかった] 問8-2. 後学期 [4. 7回程度以上 3. 3~6回程度 2. 1~2回程度 1. なかった]

問9. 共同化科目受講のために教養教育共同化施設「稲盛記念会館」を利用した方にお聞きします。

問9-1. 建物や設備に対する満足度を5段階で答えてください。

[5. とても満足 4. やや満足 3. どちらともいえない 2. やや不満 1. とても不満]

問 9-2. 共同化科目受講日に自習室を利用しますか。 [5. ほぼ毎週 4. 2週に1回程度 3. これまで数回程度 2. 利用したことはない 1. 自習室を知らなかった]

問 9-3. (工繊大のみ)共同化科目履修のために京都工芸繊維大学から「稲盛記念会館」へ移動している方のみ答えてください。 それ以外の方は、問 10 に進んでください。

問 9-3-1. 通常の交通手段は何ですか。 [1. 自転車 2. 徒歩 3. バスまたは地下鉄 4. その他]

問 9-3-2. 通常、共同化科目の履修後工芸繊維大学へ向かいますか。 [1. はい 2. いいえ]

問9-3-3.2つのキャンパスで受講することについて、感想や改善点を自由に書いてください。

問10. 自由記述欄(その他、意見や要望があれば書いてください)

以上です。ご協力ありがとうございました。

京都工芸繊維大学の科目ナンバリングの導入に向けた進捗状況

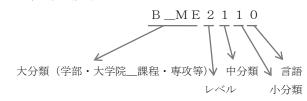
京都工芸繊維大学の科目ナンバリングの導入に向けた進捗状況

文部科学省は、日本の教育制度の国際通用性を高める観点から、科目ナンバリングの導入を全国の大学に対して数年前から政策誘導を行ってきました。平成24年8月の中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて~生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ~」においては、教育課程の体系化を図る方策として、科目間の関連や科目内容の難易を表現する番号をつける(ナンバリング)など、教育課程の構造を分かりやすく明示する工夫が必要である、と謳われています。

これらに対して、京都工芸繊維大学では、科目ナンバリング制度の導入について平成 26 年度から検討を 開始しました。

本学が導入する科目ナンバリングシステムの概要は次のとおりです。

(1) ナンバリングの形式



本学のナンバリングコードは、「学部、大学院の別と課程・専攻等」を示す英字(上記の「B_ME」の部分)と「レベル、学問分野、使用言語」を示す4桁の数字(上記の「2110」の部分で構成します。

これらのコードのうち、英字部分の "_ (アンダーバー)"以前の最初1文字を「学部・大学院のコード」、アンダーバー以降を「課程・専攻等コード」、これら2つを合わせたものが「大分類コード」となります。

また、4桁の数字は1桁目からそれぞれ、授業のレベルを示す「レベルコード」、学問の分類を示す「中分類コード」と「小分類コード」、そして授業で使用する言語を示す「言語コード」としています。

(2) ナンバリングコードの意味

① 大分類コード

ます。

大分類コードは、カリキュラムの実施主体/区分を示すコードになります。具体的には学部・大学院等の実施主体およびカリキュラム編成上の区分(課程、専攻、または学問上の区分)になります。

コードは英字で、最初の1文字は当該科目を開講する学部・大学院等を示すものとなり、次のとおり区分します。

・学部…「B」 ・博士前期課程…「M」 ・博士後期課程…「D」 その後に "_ (アンダーバー)"を付けて、課程・専攻・コース等または学問上の区分を設定し

例 人間教養科目・・・・・・・・ L I (Liberal Arts)

② レベルコード

レベルコードは、当該科目の授業レベルを示すコードで、専門性の程度や他の科目との順序性、 受講に必要な前提知識の有無等を参考にして付番するものとします。

```
1000番台:全学共通科目(語学上級や高年次対象科目を除く基礎的な内容の科目) 学部専門導入科目(新入生対象のゼミ・セミナーなど)
2000番台:全学共通科目(語学上級、発展的な内容の高年次対象科目) 学部専門基礎科目および課程専門科目(基礎的な内容の科目)
3000番台:学部専門基礎科目および課程専門科目(発展的な内容の科目)
4000番台:学部専門科目(卒業研究関連科目、下履修不可の4年次専門科目、大学院と同時開講している科目)
5000番台:大学院(博士前期課程)の専攻共通科目および専門科目の内、学部生が履修可能なもの(基礎的な内容の科目)
6000番台:大学院(博士前期課程)の専攻共通科目および専門科目の内、学部生が履修不可のもの(発展的な内容の科目、研究指導科目)
7000番台:大学院(博士後期課程)専攻共通科目、専門科目(研究指導科目を含む)
9000番台:その他(教職専門科目、学芸員科目、レベル分けができない科目)
```

授業科目の配当年次とレベルは一致するものではありません。(4回生対象科目であっても、 学部専門科目は3000番台であったり、全学共通科目であれば2000番台となります。)

また、海外の多くの大学と同様の授業レベルの表記($1000\sim4000$ 番台が学部、 $5000\sim7000$ 番台が大学院)としているため、海外から来る留学生または本学から海外の大学に留学する学生にとっても、授業のレベルを比較しやすいものとなっているなど、他の大学との共通性も考慮したものとなっています。

③ 中分類・小分類コード

中分類・小分類コードは、当該科目の学問分野を示すコードとなり、これは課程・専攻など授業の実施主体である大区分毎に付与する必要があります。

各教育課程(大区分毎)の中で、学問分野を中分類・小分類(それぞれ0から9までの数字で表示)で設定し、当該科目が体系化したカリキュラムの中で、どのような位置づけにあるのかを示します。小分類は授業科目と一致するものではなく、同じ分野に位置づけられる科目は、同じ中分類コード、同じ小分類コードとなります。

④ 言語コード

本学が、スーパーグローバル大学創成支援事業に採択されたこともあり、その国際化に向けた 取り組みの一環として、外国語による授業科目がナンバリングコードから判別できるよう、当該 科目で使用する言語を示す「言語コード」を設定しています。

因みに、大学院に設置されている国際科学技術コースに対応した科目の言語コードは、1の「英語で行う授業」もしくは、2の「受講者に応じて日本語または英語で行う授業」となります。

- 0:日本語で行う授業
- 1:英語で行う授業
- 2:受講者に応じて日本語または英語で行う授業(状況に応じて使用言語を変更する)
- 3:英語以外の外国語で行う授業
- 4:その他 (例えば受講者に応じて日本語またはドイツ語で行う授業など)

京都工芸繊維大学 科目ナンバリング分類表(学部の人間教養科目および大学院の専攻共通科目)

中分類名称 コード						課程 4年		
中分類名称コード	T							
中分類名称コード								
中分類名称コード	1				3			
中分類名称コード								
	小分類名称 コード	10	00	20	000	30	000	
		工芸科学基礎【0】	KITスタンダード【0】					
	1. 工芸科学入門		学習・キャリア戦略論【0】					
	1. 工五日子八日	科学と芸術の出会い[0]	. In to the Park					
		地球環境論【0】	人権教育 [0] 環境と法 [0]	環境マネジメント【0】				
			情報セキュリティと情報倫理【0】	28 SE (11.27.21 FO)				
	2. 科学技術と環境・倫 理	生命倫理と環境倫理[0]	テクノロジー論【0】					
			現代科学と倫理[0]					
		***********************************	***** *****************************	- W				
		ものづくりと生命物質科学【0】	<u>ものづくりと生命物質科学</u> 【0】	産学連携ものづくり実践【0】				
	3. ものづくりと技術戦	ものづくりと設計工学【0】	ものづくりと設計工学【0】					.
	略	ものづくりと造形科学【0】	ものづくりと造形科学 【0】					
		伝統産業工学【0】	ものづくり加工実習【0】					
工芸科学教養科目		実践ユニバーサルデザイン [0]						
上云件子製養科目		リーダーシップ基礎 I -地域連携 プロジェクト【0】	リーダーシップ基礎 Ⅱ -プロジェク トマネジメント【0】		ベンチャー企業経営学[0]			
	4. リーダーシップと経 営戦略							
	III TAKHD	知的財産経営論[0]						
			リーダーシップ実践 Ⅱ【0】		-			
		京のサスティナブルデザイン【0】	京の意匠【0】	京の伝統工芸-技と美【0】	京のまち【0】			
			京の知恵 伝統産業の先進的ものづくり[0]	京の伝統工芸-知と美【0】	英語で京都【0】			
			宗教と文化【0】 京の産業技術史【0】		-	-		
	5. 京の伝統文化と先	京都の文学Ⅰ【0】	京都の農林業【0】					
	端	京都の歴史 I【0】	京の生活文化史【0】					
		現代京都論【0】	京都の文学Ⅱ【0】					
		京都の自然と森林【0】 京都学事始-近代京都と三大学【0】	京都の歴史Ⅱ【0】					+
		77. m 7 77. m 22.177. m 22.177. L 22						
		人文地理学 [[0]	人文地理学Ⅱ【0】					
			社会学 I [0] 政治学 [0]					+
	1. 社会科学の基礎		国際政治【0】					
			経済学入門【0】					
		心理学【0】	憲法【0】					
		現代教育論【0】	憲法 [0] 生活と経済 [0]					+
			現代社会と心【0】					
		現代社会とジェンダー【0】						
	2. 人間と社会	医史学【0】						
		発達心理学 [0] 食環境をめぐる国際社会と日本[0]						
		日本史【0】 アジアの歴史と文化【0】	東西文化交流史【0】 歴史学【0】					
	3. 人間と歴史		ヨーロッパの歴史と文化[0]					
			科学と思想【0】					
			哲学【0】	舞台芸術論[0]				
. 基本教養科目		比較宗教学【0】 西洋文学論【0】	宗教と文化【0】 西洋文化論【0】					+
金でが返げ口	4. 文化•芸術		ラテン語【0】					1
		日本文学 I【0】	文芸創作論【0】					
		日本近代精神史[0]	日本文学 I [0]		-	-		1
		物理学 I【0】	化学概論Ⅱ【0】		+	-		+
			生物学概論 I 【0】					
	5. 自然科学の基礎	化学概論 I [0]	地球の科学【0】					
		生物学概論 I【0】						
		生命科学講話【0】 人と自然と数学α【0】	人と自然と数学β【0】	時間生物学特論【0】				+
		食と健康の科学【0】	人と自然と物理学【0】	PATRICIA TO TANK EAS				
	6. 人間と自然・科学	生物学的人間学【0】	科学史【0】					
			意外と知らない植物の世界【0】		+	-		
					<u> </u>	 		+
		リベラルアーツ・ゼミナール I【0】						
		リベラルアーツ・ゼミナール Ⅱ【0】	リベラルアーツ・ゼミナールⅢ【0】					
			リベラルアーツ・ゼミナール Ⅴ【0】	I				. 1
	7. リベラルアーツ・ゼミナール						l l	
	7. リベラルアーツ・ゼミナール	リベラルアーツ·ゼミナールⅧ【0】	リベラルアーツ·ゼミナールⅧ【0】					
	7. リベラルアーツ・ゼミナール		リベラルアーツ·ゼミナールⅧ【0】					
:. 体の科学	7. リベラルアーツ・ゼミナール	リベラルアーツ・ゼミナールVII【0】 リベラルアーツ・ゼミナールVI【0】	リベラルアーツ·ゼミナールⅧ【0】		健康体力科学【0】 生涯スポーツ【0】	(生体機能論) (スポーツパイオメカニクス)	(運動機能学)	

留意事項1. 修士課程の専攻共通科目である「高等教育セミナー」については、H27年度シラバスにおいて人文・社会・自然分野に分類できるもののみ掲載した。(掲載していないものは、高等教養セミナー1、2、6,7、8,005科目。)

- 7. 下線を付した科目については、前後学期に同一の科目を開講しているもの。
 3. 括弧書きの科目は他課程専門科目あるいは専門基礎科目であり、それぞれAB(応用生物学課程専門科目の大分類コード)またはSB(専門基礎科目の大分類コード)から始まるナンバリングのいずれかが適用される。
- ※【】の中の数字は、言語コードの案を示します。(大学院に設置されている国際科学技術コースに対応した科目の言語コードは、1の「英語で行う授業」もしくは、2の「受講者に応じて日本語または英語で行う授業」となります。)
 - 0:日本語で行う授業
 - 1:英語で行う授業 2:受講者に応じて日本語または英語で行う授業(状況に応じて使用言語を変更する)

 - 3: 英語以外の外国語で行う授業 4:その他(例えば受講者に応じて日本語またはドイツ語で行う授業など)

		大分類 🛚 専攻共通科目の人	て系・高等教養セミナー、自然科学	KIT大学院科目など		大分類 凵 専攻共通科目	
			修士課	程 2年		博士記	果程 3年
		3					3
400	00	50	100	60	100	7	000
		ジェロントロジー入門 (超高齢社 会のユニバーサルデザイン)【0】		「ものづくり」総合プロデュース論【0】		IGP知的財産権特論【1】	プロジェクト・マネジメント特論【1】
				IGP知的財産権論【1】 産業創出論【1】	実践プロセスデザインⅡ【0】	産業創出特論【1】	ベンチャーラボ特別演習【0】
				実践プロセスデザイン I [0]			
		テックリーダー演習 I【0】					
		テックリーダー演習 Ⅱ【0】					
		京の伝統工芸-知 美 技(課題 解決セミナー1)[2]		伝統産業特論【2】			
			高等教養セミナー3【0】 高等教養セミナー5【0】				
			M 0 3/2 = - 2 - 2 - 2 - 2				
		制作思想【2】	比較文学特論【0】			言語文化情報学【0】	現代思想論【2】
		宗教文化論【2】	高等教養セミナー89【0】			11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11	50170107000 2-2
		高等教養セミナー13【0】	高等教養セミナー10 [0] 高等教養セミナー11 [0]				
			高等教養セミナー12【0】 高等教養セミナー14【0】				
			高等教養講義【0】				
	(卒業研究(応生))			生体行動科学特論【2】	バイオメカニクス特論 【2】		応用運動生理学【2】

京都府立大学の教養教育におけるテーマ別学習のモデル(平成29年度学生便覧掲載予定)

■ テーマのある学習

多くの科目から構成される教養教育において、目的をもった学習を進めていくために は、自らの興味・関心、専門課程での学習や将来の進路などを見据えた、テーマ性のあ る学び方が大切です。以下に示したテーマを参考にして、自分自身の教養学習のテーマ をもつようにしましょう。

★ テーマ別学習のモデル

テーマ別学	経習モデルとして、以下のとおり9主題が設けられている。
テーマ	テーマのねらい
A 京都学	一千年余ものあいだ都であった京都の歴史・地理、伝統や文化、自然や産業、まちづくり
	などについて多面的に学ぶことを通して、京都に対する理解を深めるとともに、各人がこれ
	からの京都を構想していくビジョンの基礎形成として位置づける。
B 環境共生	「環境」という用語が、生産から消費にいたる人間生活のあらゆる局面におけるキーワー
	ドとして捉えられるようになって久しい。「共生」という用語も、本来の生物学的使用の限
	定を越えて人間の社会活動を律するキーワードとして捉えられるようになってきた。環境と
	共生という二つの言葉を単につなげたのではなく、様々な分野の講義を学習することによっ
	て「環境共生」という用語を自ら定義づけることを狙いとしている。
C 文学と文	ボーダレス化、多文化社会化する現代にあって、私たちは自らの言語や文化に対する理解
化	を深めるとともに、異文化圏の言語・文化への正確かつ共感的に理解し受容することがます
	ます重要になっている。古今東西の文学はこうした理解を促す一助となることから、授業を
	契機にして多くの文学作品に接してほしい。
D 歴史と地	現代ほど私たちの歴史観が問われる時代はないであろう。政治・経済・社会といった諸相
域	のもつ現代的課題のどこをとってみても歴史的視点を欠いては解明や解決にはいたらない。
	自らの国や地域をよく理解し、現代をよりよく生きる上で、現在に至る人間の多様な歩みの
	事実そのものを真摯に学んでほしい。
E 現代社会	高度情報化社会・大衆化社会・ポスト産業化社会などと形容される現代社会は、人類がか
	って経験したことのない速さで変化している。日本では少子高齢化や階層の二極化が進み社
	会問題が次々と生起しているが、このなかで私たちは主権者、市民としていかに生きるのか、
	現代社会の仕組みやあり方を学ぶことを通して考えてほしい。
F 人間科学	現代という未曾有の転換期において、解明・解決が待たれる人間の諸問題は複雑多岐にわ
	たっている。それを解きほぐすためには、人間の行動や社会、教育に関する諸科学の総合的
	協力研究が重要である。ここでは「人間とは何か」という根源的な問いを含んだ学際的・総
	合的な認識の形成を目的とする。
G 生命と自	生命現象と生命現象に関わる自然科学、例えば物理学、化学を総合的に学ぶことで、生命
然	を自然科学の観点から学ぶ素養を身につける。また、生命に関わる倫理的および哲学的な問
	題点を学ぶことにより、多角的な観点から生命現象を捉えられるような素養を身につけるこ
	とを目的としている。
н くらしと	身近な暮らしのなかの生命科学に関する事柄を学習することにより、現代社会に生きるた
生命	めに必要な生命科学に関する知識を身につけることを目標としている。あわせて、身近な自
	然環境と人間の暮らしについての知識も身につける。
I 自然と産	太古より、人間は自然の資源を利用して生活を営んできた。この生活の営みは、産業革命
業	以降、産業と云う形で自然(天然資源)を大量に消費するに至った。自然の恵みはどこまで
	享受してもよいのか?現代の生活(産業)は自然を破壊しないと成立しないのか?21世紀
	をリードしていく諸君に、この難問に取り組んでもらいたい。

テーマ	<u>修モデルコース科目一覧 <i>斜作</i></u> 1回生	2回生	3回生	4回生
A 京都学	京都の歴史 I 京都の歴史 I 京都の歴史 I 京都の文学 I 現代京都論 京都の東部地域創生 京都の農然と 京都の自然 京の産業技術史(エ) 近代京都と三大学(機) 京都の経済	地域創生フィールド演習 和漢比較文学概論 I 和漢比較文学概論 I 京都文化学概論 I 京都文化学概論 II 京都文化学概論 II 欧米から見た京都 京都学・歴彩館ゼミ(ゼ)	英語で京都(機)	
B 環境共生	京野菜を栽培する(ゼ) 環境問題と持続可能な社会(エ) 環境共生論 京都の農林業 京都の自然と森林 京都の自然 環境論(機)	現代の環境問題 環境共生フィールド実習 I 環境共生フィールド実習 I 環境経済学 地域社会学 森林の科学 植物生態学 応用昆虫学	環境社会学	卒業準備科目
C 文学と文化	美と芸術(エ) 西洋文化論(エ) 西洋文学 I (医) 日本文学 II (医) 日本文学 II (医) 日本立現代文学(エ) 文芸創作論(医) 食文化原論 和食文化協論 茶の湯と伝統文化 宗教と文化(医) ラテン語(医)	日本の文学と文化 I 日本の文学と文化 II フランス語圏の文化とジャポニスム(工) 日本文学概論 I 日本 主学概論 II 日本語学概論 II 中国文学史研究 II 中国文学史研究 II 較米の文化と社会 II 欧米の文化と社会 II 欧米言語文化史 I a 欧米言語文化史 I b	映画で学ぶ英語と文化映画で学ぶドイツ語と文化	(「飛翔なからぎ講座I」、「飛翔
D 歴史と地域	ヨーロッパの歴史と文化 アジアの歴史と文化 東西文化交流史(エ) 日本史(エ) 人文地理学 I(医) 人文地理学 I(医) 医史学(医)	日本史概論 日本文化史概論 東洋文化史概論 東洋文化史概論 西洋文化史概論 日本美術史 I 日本美術史 II 地域考古学 I 自城地理学 人文地理学	民俗学概論 西洋美術史 I · Ⅱ 東洋美術史 I · Ⅱ	なからぎ講座Ⅱ」)
E 現代社会	環境と法(工) 生活と経済 経済学入門(工) 国際政治 社会学 I 社会学 I 人権教育(工) 現代社会とジェンダー 現代社会と映画製作(ゼ)(機) アメリカと中国はいま(ゼ)(機) 現代イスラーム世界の文化と社会(ゼ)(機) 現代社会に学ぶ問うか・書くカ(ゼ)(機) 社会科学の学び方(ゼ)(機)	現代社会と法 日本国憲法 人権論 I 市民参加論 法律学概論 I 経済学概論 社会学概論 行政法 I 地域福祉論 教育行政学	社会保障論 I 社会保障論 II 社会政策論	

テーマ	1回生	2回生	3回生	4回生
F人間科学	心の健康	人間生物学	障害者福祉論 I	
	哲学(工)	哲学概論 I	障害者福祉論Ⅱ	
	日本近代精神史(工)	倫理学 I	環境社会学	
	比較宗教学(工)	教育学概論 I	<i>発達心理学 I</i>	
	現代社会と心	教育学概論Ⅱ	2221	
	心理学(工)	心理学概論 I		
	発達心理学(医)	生涯学習論 I		
	現代教育論(工)	生涯学習論 II		卒業準備科目
	現代科学と倫理	教育心理学		耒
	生物学的人間学(医)	青年心理学		平 二
		月午心垤子		/ / / / / / / / / / / / / / / / / / /
				枓
	感性の実践哲学(ゼ)(機)	障害児(者)教育論		⊣ 目
G生命と自然	物理学Ⅰ	F-24 60	時間生物学特論(医)	
	物理学Ⅱ	医学一般		(「飛翔な
	化学 I	生命の分子化学		71€ ¥110
	化学Ⅱ	基礎化学		<i>∓</i> 33
	化学概論 I (工)	基礎生物学		
	化学概論Ⅱ(工)	基礎物理学		からぎ講座
	生物学 I	基礎数学		b 1
	生物学Ⅱ	森林植物学		₹
	生物学概論 I (工)	地球環境学		講
	生物学概論 Ⅱ(工)			座
	地球の科学(工)			I
	生命科学講話			بّ ا
	意外と知らない植物の世界(機)			_
Hくらしと生命	スポーツ科学	人間工学	食品機能学	飛
	食と健康の科学	バイオテクノロジー		翔
	おいしさの科学とデザイン			な
	000 0000111107711	医学概論(医)		
	食環境をめぐる国際社会と日本			ĥ
	情報の科学			ぎ
	キャンパスヘルス概論(工)			謙
	現代の食糧問題			本
	現代の長種问題 科学史(エ)	色彩学	環境保全型農業論	からぎ講座Ⅱ』
	付子史(エ) 人と自然と物理学(エ)	巴彩子 動物分子情報学	環境体主坐長耒珊 森林計画学	
I 自然と産業	人と日然と初理子(エ) 数学 I			
	数字Ⅱ 数学Ⅱ	果樹園芸学		
		木材組織学	有機工業化学	
	人と自然と数学α(エ)	森林植生学		
	人と自然と数学 β (エ)	経営哲学(ゼ)(機)		
	エネルギー科学(工)			
	製品の機能から科学を学ぶ(ゼ)(機)			

⁽エ) = 京都工芸繊維大学 提供科目 (医) = 京都府立医科大学 提供科目 (機) = 京都三大学教養教育研究・推進機構 提供科目 (ぜ) = リベラルアーツ・ゼミナール

京都三大学教養教育共同化フォーラム「今、求められる教養教育-京都からの発信-」

※ ◆開会あいさつ

○京都府立大学学長 築山 崇

皆さんこんにちは。交響楽団のみなさんは会場から出てしまわれましたので、お礼が言えなくて申し訳なかったのですけれども、これまでにも何度かこの推進機構の主催するシンポジウムなどで演奏をしていただいています。そう申しますのは、正確な数字は忘れてしまったのですが、30年以上前になると思うのですが、三大学の学生たちが集ってオーケストラを結成して演奏活動を始めたという背景があります。今回の教養教育の共同化も三大学によるものですけれども、はるかに先輩と言いますか、伝統ある三大学の連携のかたちということで、一つのシンボルとして出ていただいているものです。今日も開会を飾っていただいて、本当によかったと思います。

それではあらためまして、本日のフォーラムに お越しの皆様方に、今日は紅葉のピークにもあた り、京都市内の交通混雑なども予想される中、遠 方からもお越しの方もこちらにはいらっしゃると 思います。本当にありがとうございます。

そして、私からは三大学を代表してということで、工芸繊維大学の古山学長もお越しですので、 僭越ではございますが、機構からの指名でありま すので、簡単にあいさつ申し上げたいと思います。

この三大学による取組は、国立、府立と設立者の異なる大学が協力し合って、新しいかたちと内容で教養教育を切り拓いていこうとするもので、非常に先進的と申しますか、チャレンジングなものであったわけですけれど、その分、この間も何度か全国の大学関係の皆様を中心に、教養、あるいは教養教育ということに関心をお持ちの方々にご案内を差し上げて、研究会を開催させていただいております。

その回によっては、三大学の関係者よりも、むしろ遠方からお越しいただいた方の方が多い時も何度かありました。教養教育を今日これからどう展開・発展させていくのかということに対する、大学関係者を中心とする皆様の関心の高さを、私たちは肌で感じてきた次第です。

それから、三大学の連携は教育だけではなく、研究その他にもまたがっておりまして、すでに十数年の歴史を持っております。今回の教養教育共同化の事業につきましては、平成24年度から文部科学省の大学間連携共同教育推進事業というかたちで、5年間かなりのボリュームの助成を受け

ながら、新しい取組として3大学が相互に連携して、共同の教育事業の展開をしていこうとしてきたものです。事業の準備過程では、文科省としての事業の趣旨にもかなった取組であるという評価もいただき、今日まで展開してまいりました。助成事業としてのスタートが平成24年度で、今年が最終年度、5年目ということになっております。

そして、この大学間連携共同教育推進事業の5年間を一貫するテーマが「時代が求める新しい教養教育」であり、最終年度の平成28年度には、教養教育の「京都モデル」を全国に向けて発信するという目標の下に取り組んでまいりました。今日がその発信の最も重要な機会でございます。

今日、この会場は、教養教育共同化のための施設ですが、建設にあたっては京都府の格段の支援をいただき、さらに事業の趣旨をご理解いただいた稲盛和夫様からも大きなご支援をいただいて、稲盛記念会館という名称になっております。3大学の学生が、文字通り一堂に会して学び合える条件も整い、この施設はちょうど2年になりますけども、事業が進められてきたという経過です。

私自身は平成24年度のスタートの時期に運営の責任者として関わらせていただきましたので、もう早、5年目を迎えることに感慨深いものがあるわけなのですけれど、その感慨の中には、この間、京都工芸繊維大学、そして府立医科大学、本学の先生方、あるいは各大学の教務を中心とした職員の方々の本当に多大なご努力、ご尽力があって今日があるということがあります。

最初に申しましたけれども、国立と公立、単科、あるいは小規模総合大学、そして医科大学と、それぞれ大学の形態、個性が異なりますので、一堂に会して共通の授業をするということになりますと、この施設はもちろんなのですけれど、科目の設定の仕方、あるいは学年暦、年間の授業のスケジュール、そういったことや、評価や試験の方法など、非常に細かい多岐にわたる調整も必要でございました。

時には果たして調整が間に合うのだろうかと、お互いに心配しあった時期もありましたが、幸い先生方、職員の方々のご尽力で間に合わせることができ、平成26年度から文字通り、新しいカリキュラムで三大学の学生が教養を深める場を得ているということでございます。

今日はこの後、基調報告を二つ予定しております。教養教育共同化の推進機構のもと、教養教育の内容を深め開発していく拠点であるリベラルア

ーツセンターと、同時にそこにおける教育の質をきちんと評価し改善につなげていくということで、教育 IR センターの二つを設けて進めてまいりましたけれども、それぞれのセンターから、この4年、あるいは5年間の取り組みの詳細について報告がございます。

併せて、たくさんメニューが並んでおりますけれども、三大学の学生が集まり、学び合う中から生まれてきた貴重な成果について、何よりも、学生さんたちの口から直接お話が聞けるということになっており、本当にうれしく思います。

我々教員はそれぞれの思いで一生懸命取り組んできているのですが、学び手である学生の感性、知性を通して語ってもらえると、また違った景色が見えてくるということもありますので、学生さんたちのプレゼンテーションから、教育にあたっての新鮮な手掛かりを得ていけるものと大いに期待もしておりますし、その内容を大事にしていきたいと思います。

三大学共同の教養教育の運営にあたっては、各分野でご活躍の外部の皆様のご意見をいただくかたちをずっと採ってきているのですけれども、本日はご多忙のところ、同志社大学から圓月先生にお越しいただいて、全体の講評をいただくということにもなっております。事業も報告も多岐にわたりますので、恐縮ではございますが、先生のご意見を楽しみにしている次第です。どうぞよろしくお願い致します。

それでは、今日、このフォーラムが、今の時代・世界が求める教養の新しい中身、見方等についての理解を深め、その価値を確かめあう機会となることを切に願って、私からのあいさつとさせていただきます。

本日は、長時間になりますが、どうぞよろしく お願い致します。

文部科学省高等教育局大学振興課 大学改革推 進室長 井上睦子様から開催に当たり、メッセー ジを寄せていただきました。

本日、大学間連携共同教育推進事業フォーラム「今、求められる教養教育-京都からの発信-」が開催されますことに、心からお慶びを申し上げます。

まず、本日のフォーラム開催に当たり、代表校である京都府立大学や連携校の教職員の皆様の日

頃の御尽力に敬意を表しますとともに、京都府をはじめ、関係機関の皆様方におかれましては、日頃より本事業に対して、御支援御協力をいただき、深く感謝申し上げます。

文部科学省では、それぞれの大学が教育の質向上に取り組むことはもとより、それぞれに異なる強みを持つ大学が連携を深めることにより、多様かつ質の高い大学教育を学生に提供することが重要であると考えております。そのため、平成24年度に開始した「大学間連携共同教育推進事業」では、国公私立の設置形態を超え、地域や分野に応じて大学間が相互に連携し、社会の要請に応える共同の教育・質保証システムの構築に取り組む約300校が参加する49プログラムに対して支援してまいりました。

皆様が取り組まれた「時代が求める新たな教養教育の京都三大学共同(モデル)推進事業」では、国立と公立という設置主体の違いをこえて、個性豊かな三大学がそれぞれの伝統と特徴、強みを生かしながら、共同で教養教育科目の体系化にチャレンジし、学生の多様なニーズに応え、豊かな人間性を涵養することができる教育モデルが構築され、着実に成果を上げてこられたと認識しております。

そして、京都府と京セラ株式会社の稲盛名誉会 長の多大な御支援により、教養教育共同化施設と して「稲盛記念会館」が建設され、皆様の取組を 強力に推進して下さいました。ここに改めて敬意 を表しますとともに、感謝申し上げます。

皆様方の取組では、学年暦の統一、活発なFD や公開研究会等の開催による理念の共有、三大学 教養教育運営協議会による評価体制の整備が評価 されました。これは、関係者の皆様のこれまでの 御努力の賜物です。

本事業は、今年度で最終年度を迎えることとなりましたが、代表校である京都府立大学をはじめ連携校の皆様におかれましては、この5年で築かれた成果をさらに発展させ、今後も取組を実施していただくとともに、積極的に情報発信を行い、全国の大学等へ波及するよう取り組んでいただくことを心から期待しております。

最後に、御臨席の皆様におかれましては、今後とも本取組に対して力強い御支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、関係各位の一層の御研鑽と御尽力により、この取組が益々の充実・発展を遂げられますことを祈念し、挨拶と致します。

₩ ◆基調報告 1

「教養教育共同化-何をめざすか」 ○リベラルアーツセンター長 京都府立大学教授 石田昭人

ご紹介ありがとうございました。皆さんこんにちは。私は、現在リベラルアーツセンター長を仰せつかっておりますが、実は、私がリベラルアーツセンター長を拝命しましたのは割と最近でして、共同化には最初から参画してきたものの、ずっと、次にご登壇なさいます大倉先生と一緒に教育IRセンターで質保証を担当してきました。文科省の事業では申請書に書いたことは全てやり遂げなければならないわけで、最終年度に向けてやり残したことは石田に全部任せれば何とかなるだろうということだったのかもしれませんが、私も仰せつかった以上は微力ながら努力をしてきたつもりです。

さて、本日お話する内容を考えるためにプログラムを見ておりましたところ全体の経緯に関する報告がないことに気付きました。このフォーラムには学外からも多数ご参加いただいております。そこで、5年間をざっと振り返ってみる必要があると思ったわけですが、皆さんに本事業の全体像を手っ取り早くご理解いただくために私は一体何から話せばいいのか考えあぐねた末に一つ浮かんだのはこれでございます。いきなりこいつは何を話し始めるのかといぶかしがられるかも分かりませんが、私の研究をちょっと紹介させていただきます。

私は、ぴかぴかの金の板の上に分子を並べて、 集めて機能をつくるという研究をやっているので すが、皆さん、この「自己組織化」という言葉は どこかでお聞きになったことがあるかもしれませ ん。この金の板を分子の溶液にじゃぶんと漬けま すと、それだけで分子が自分で勝手に集まってき れいに並んでくれるのです。並べる分子は抗体で す。抗体というのは私達の体に外敵が入って来た ときに取り付いて守ってくれる分子ですが、この 抗体の根元のところにプライマーという DNA の 根っこになるようなものをくっ付けたものをずら っと並べるわけです。

しかし、並べただけでは何も起こりません。これは当たり前で、エネルギーを与えてやることが必要なのです。このときレーザー光を裏から当てることが鍵になるのですが、私は、この方法でかれこれ 20 年ぐらいご飯を食べているわけです。

レーザー光で与えられたエネルギーでここが温まりまして、酵素が働きはじめ、DNA の根っこから DNA がうにょうにょと生えて来るのです。しかも、この外敵の粒子がくっ付いたところだけから DNA が生えてくる。一体こんなことが何の役に立つのか。この写真のこっち側だけが何かぼおっと光っています。実はこれは外敵、大腸菌のモデルなのです。これが大腸菌 1 個についてーつずつ光っている。光っているスポットをカウントすればうまくすると大腸菌 1 個だけでも検出できるわけです。病原性大腸菌やノロウィルスはわずか 10 個程度で発症しますから、この研究は秋の国際会議で発表した際に非常に受けました。

実は、この研究は最初の構想から実際の装置づ くりから実験までこの女子学生がたった一人で全 部やったのです。本当にできる子で、堀川の探求 科を出ているのでもともと非常に賢い子なのです けど、なにしろ負けん気が強い。これは、9月に あった国際学会の写真ですが、400人ぐらい観 衆がぎっしり入っているホールで、みんなうなず いて聞いているのです。つまり、観衆を味方に付 けることができた。それだけの力があるのです。 実は始まるまでは半泣きだったのですが、終わっ てからはこのようにドヤ顔ですね。この子は研究 もできるのですが、それだけではありません。私 はこれまで何百人という学生さんを見てきました が、これほど健気な子を見たことはありません。 今日はインターンシップに行っていてここには居 ないのでちょっと裏話をしますが、弟さんがずっ と重い病気で入院していて、お父さんも体調が悪 い。だから、家計を支えるために一生懸命バイト をやっていて、土日も午前中と午後3時まで実 験をやって、それから夜遅くまでバイトに出てい ます。あまりに健気なので、別の国際会議でハワ イに連れて行ってやって、そこでもこのように立 派に発表できて、これはご褒美にトロピカルカク テルで乾杯しているところです。

このように、学生さんと一緒に夢を見て挑戦させる。ぎりぎり手が届くぐらいのところの目標を見せてやると、ものすごく燃える。それで、成功体験を与える、このサイクルを次々と廻すわけです。彼女は先週、日本化学会の学会でも発表したのですが、これも非常に高く評価されたらしいです。最優秀賞を狙っているみたいですけど、何とか取らせてやりたいと思っています。

さて、一体何で私がイントロダクションとして こんな研究の話をしたか、種明かしをしましょう。 私の研究をまとめますと、金の膜という「場」をつくって、そこに分子を置いてやると分子が「自ら集まって」きます。そこに、エネルギーを与えると DNA が「自ら育って」夢のような応用ができる。これでもうおわかりでしょう。実は、この三大学の共同化教養教育も全く同じことをしていたということに私は気付いたわけです。

この稲盛記念会館という「場」で三大学の学生さん達が肩を並べました。そうすると自然に集団ができてきます。自己組織化するわけですね。しかし、それだけでは駄目なのです。そこに、ほんのちょっとエネルギーを与えてやる必要が是非ともあったのです。その役割はもちろん私達教員です。私達がエネルギーを与えてやると学生たちが自ら育つ力が湧き上がってくる。そして、夢を見て、挑戦し、実現させる底力が育ってくる。教養は底力ですからね。私達三大学の教職員が力を合わせれば、このプロセスを実現できる新しい教養教育を実現できるに違いない。私達はそう信じて、これまでやってきたわけです。

実は、教育だけではなく事業本体も全く同じだ ったのです。三大学はこの事業に向けて一つの場 に結集しました。先ほど学長からご説明がありま したように、私たちは長い年月をかけて、色々な 準備を重ねてきたわけなのです。そういった積み 重ねを基にして、三大学が一つの場に結集したの です。そして、これが大事ですね、エネルギー、 つまり先立つものがないと絶対に動けません。学 長の先生方が一生懸命動かれて、大きな事業予算 を取ってきてくださった。そこに私たち教職員が 努力というエネルギーをさらに注ぎ込んで、求心 力が生じてきた。努力という分子がお互いに寄っ てきて集合化したわけです。これによって、求心 力を持つ教育システムが動き始めました。御蔭様 で既存の教育をはるかに超える新しい教養教育が 実現しつつあります。事業期間の終了を迎え、い よいよここから後はどうしようか、ということを 考える時が来たというわけですね。

さあ、それでは具体的な内容の説明に入りましょう。

まず、これまでの経緯をこのスライドでざっとご説明致しましょう。先ほど学長からお話がございましたように、平成24年がスタートでした。私達は初めの一歩を踏み出したわけです。平成24年から平成25年にかけては、まず枠組みをつくらないといけません。枠組みづくりは正直大変でした。現学長を中心にやってこられたわけな

のですけど、これはもう、本当に大変な作業でした。いざスタートを切ったのは平成 26 年です。そして、経験が出てきました。その経験値を元に毎年フィードバックを行い、そして今年、いよいよ将来が展望できるようになってきたというわけです。

では、それぞれのステップをもう少し詳しく見ていくことにしましょう。

初めの一歩なのですけど、これは文科省への予算の申請と採択です。これについては現学長にちょっと恨み言の一つも言いたくなるのですけど、申請書の中にはあまりにきれいで盛り沢山の工程表ができておりまして、何しろ申請書というのは一種の契約書ですから、書かれていることは何としても全て実施しないといけないわけです。正直申しまして、私達実務を担当する者にとって、それは非常に大きな重荷でした。

とはいうものの、私はこの工程表ができていた からこそ事業が実現できたのではないかと思うの です。もし、これがなかったらこの共同化は実現 できていなかったのではないかとさえ思われます。 なにしろスタート時期が決まっているので、限ら れた時間の中でなんとか具体化する必要に迫られ たのです。これは、ある意味ラッキーでして、も し、時間が十分にあり過ぎたら議論が散漫になっ てしまって、「前向きに検討」を繰り返すばかり で膨大な時間を要してしまったり、最悪、実現で きなかったのではないかとさえ思われます。しか し、この限られた時間の中で三大学の教員と事務 職員のみなさんが何回も何回も議論を繰り返しま した。時として非常に激しいやり取りもあったわ けですが、それは決して後ろ向きのものではなか った。私達は常に前を向いて必死で取り組みまし た。そこは、皆さんの一体感があったのです。一 つの事業を一緒にやっていこうという強い一体感 があったからこそ、実現できたわけなのです。

しつこいようですけど、ゼロからスタートしたのではこの事業は多分実現できなかったでしょう。 長い年月をかけて検討を重ねてきた蓄積がありました。共同化のポートフォリオがちゃんとあったわけです。ただし、その方向性は定まってはいませんでした。ちょっと言葉が悪いですけど、当然三大学それぞれの思惑や立場がありました。しかし、共通する部分も多く存在したわけです。三大学の学生のために新たな教養教育をつくるという強い目的意識を根底で共有できたからこそ準備ができたと言えましょう。バラバラの分子を金の膜 の上に置いてやって集合化させると、自らきれい に揃って並ぶことで高い機能が出せるようになる のと同じというわけです。

しかし、いざ新しい教養教育を創れと言われましても、一体何をしたらいいのか、何から始めたらいいのか、そこが問題です。実際、最初の頃、よく会議で出てきた言葉は「一体どうしたらいい?」、「何から始めたらいい?」だったと思います。

まず、それを考えるためにはとにかく勉強しないといけません。そのために、公開研究会を何回も開きました。フォーラムも開きました、他大学の視察も行いました。フォーラムでは昭和女子大の坂東眞理子先生、劇作家で演出家の鴻上尚史さん、そしてジャーナリストの池上彰さんに来ていただきました。こういう著名な方をお招きしてお話をお聞きし議論する、そして概念を練り上げていく、ということを積み重ねていったわけです。

こうやって、どんどん準備を進めていきました。 その結果、ぼんやりと理念や目的が浮かんできた のですけど、今度はそれを明確に言葉にしないと いけません。これには色々な議論がありました。 何しろ、教育において理念は一番大事なものです。 それは揺らいではいけませんし、ぶれてはいけま せん。そして、長い間通用しなければなりません。 先を見越して創らなければならないのです。しか も、学生さんに分かりやすくなければいけません。 というわけで、色々と議論を重ねまして、この A、 B、C、三つの理念を決定したわけです。

「A. 人文・社会・自然諸分野の学術体系を俯瞰しながらこれらの基礎を幅広く学習し、学術への高い関心を育てること。」とにかく関心がないと駄目ですからね。これがやはり一番大事だということです。そしてグローバルに目を向けて「B. 世界の人々の多様な生き方を感受し、人としての豊かな感性や倫理観を拡張すること。」さらに、「C. 日々社会に生起する種々の問題において、真理や正義を探求する議論に習熟すること。」いくら自分で思っていても第三者にアピールする、議論する力がないといけません。履修案内の中ではこの A、B、C の 3 つの理念と各科目の関連が◎や○で明記されていて、学生にわかりやすく工夫されています。

さて、理念ができまして、いよいよ今度は具体 的な枠組み、つまり科目のデザインをしなければ なりません。各大学からどのような科目をどれだ け提供するかを考えていったわけです。この科目 提供についても色々と議論があったわけですけど、 大学の規模に応じて科目を提供していくことにな り、基本の比率は3:2:1になるのですが、平成 28年の数字で工繊大が30、府立大が21、医大 が 11 となっています。こういうふうに各大学か ら科目を提供致しました。しかし、新しい教養教 育を創るわけですから、やはり看板になるような 代表的な科目が不可欠です。「京都学」、そして「リ ベラルアーツ・ゼミナール」、この二つが看板に なる科目です。京都学というのはいわゆる地域学 ですね。京都という絶好の地で、地域に根ざした 学問を新しく創っていこうというわけです。リベ ラルアーツ・ゼミナールというのは、その名の通 り、先ほどの理念のCで、学生達が議論の中で 教養を身に付けていくという趣旨です。だから、 議論を一番大切にしていて、少人数で実施し、経 験と力量のある教員が受け持ちます。このリベラ ルアーツ・ゼミナールですが、最初は人文系と社 会、いわゆる文系だけだったのです。しかし、理 系の内容も必要だということで、27年度から、 これは私がやり始めたのですけど、自然科学系の ゼミナール学科を一つ作りました。全体の科目数 ですが、平成 26 年度は 68 科目だったのですけ れども、今年度は74科目にまでに育っておりま す。また、スライドには書き忘れてしまったので すけど、「英語で京都」のような高学年のための 科目も準備しております。これは非常に興味深い 試みで、いずれ代表科目に育ってくれるだろうと 期待しています。

さて、このように説明しますと、「なんだ、大 したことはない、このくらいのことはさっさとで きてしまったのではないか。」と思われるかもし れません。しかし、ここに至るまでには大変な苦 労がありました。先ほど学長がちょっと申し上げ ましたように、まずカレンダー、つまり学年暦を 合わせる、これ自体が本当に大変なことだったの です。なぜなら、それまで三大学はそれぞればら ばらにやってきたわけですし、そもそもカレンダ 一というのは、それぞれの大学の専門教育を含め た体制で一番都合がいいようにできていたわけで す。その一番都合よくできていたのを一つに合わ せなければなりません。教養を合わせるというこ とは、当然ですが専門教育も合わせることを強い られるということになります。したがって、この カレンダーを合わせるということは、いやもうそ れは大変でした。

カレンダーの次に問題になるのは、時間割です。 共同化教育を何曜日に設定したらいいのかから議 論したわけです。それから、科目の登録方法。こ れも期限やシステムの整合、さらには定員をオー バーした場合の抽選方法など色々な問題がありま した。さらに難しかったのは試験。試験も日程と か、やり方とか、どうすればいいか。特に医科大 学の場合は追試験や再試験が制度化されているの です。当たり前の話で、人の命を預かるのに、い い加減に理解してもらっては困ります。そのため 非常に厳密な追試験の制度というのがあるのです。 医大生に対してはその保証をどうするのか、他の 大学の学生にはどうすればよいのか、決めなけれ ばなりませんし、各大学の専門教育と整合が取れ ないといけません。成績の評価についても三大学 で成績の評価がトリプルスタンダードなんていう のは絶対に許されません。分野も学力も異なる学 生達の成績評価を一つのスタンダードでやらない といけません。このように、全体の整合を取ると いうのはなかなかに大変な作業でした。

実はスタートしてから一番怖いのは制度に矛盾が生じないかでした。途中で制度上の不備が露呈したりということになると、これは大変なことになりますから一切の齟齬は許されません。この準備を何とかスタートまでに間に合わせなければならなかったわけです。われわれはもちろんそうですけど、それぞれの制度を作りあげて一つ一つ不備をチェックする作業に当たられた事務の方々のご苦労というのは大変なものだったのです。

次の大倉先生の話をちょっと先につまみ食いしてしまうのですが、「教育の質保証」というのも非常に大切なことです。これもシステムを 1 からつくってやらないといけなかったわけですが、これについては後ほどご説明がありますけども、教育 IR センターが主導して構築しました。質保証の関係では「科目担当者会議」というものを実施することにしました。共同化科目の授業担当者を一堂に会しまして、そこで議論をする。それによって、課題の洗い出しをして、その共有を図り、合わせて解決策を考えていくわけです。さらに、いわゆる FD ですけども、教育方法の洗練を図りました。

この科目担当者会議は最初のうちは直面している課題や当座の改善が主な論点だったのですけど、回を重ねる毎にだんだんと共同化教育が何を目指すかにシフトしてきたと思います。そういう雰囲気が醸成できるようになってきましたので、元々教育 IR センター主催だった科目担当者会議をリベラルアーツセンターと共催するようにしまして、

最近では、高学年の教養教育をいったいどうやって具体化すればいいのか、新たな科目をどう創っていったらいいのか、そういった議論ができるようになってきました。特筆すべきは、常勤の教職員だけではなく、非常勤の先生方も積極的に参加してくださっていることです。それは、私達にとって大きな喜びであると同時に、不可欠なことだと思います。

さて、いよいよスタートですが、共同化の授業は平成26年度の前期にスタートしました。しかし、その時はまだこの稲盛記念会館ができていませんでした。だから、わざわざ他の大学へ交通費を払って出向いて授業を受けてくれるのだろうかという、非常に大きな不安がありました。ところが、予想以上に受講登録数があったのです。これは私達にとって非常に嬉しいことでした。学生達の大きな期待を実感できたからに他なりません。

いよいよこの稲盛記念会館が完成しまして、本当の「場」ができました。26年度後期からは三大学の学生たちが一堂に会して受講することができるようになったわけです。これも蓋を開けて見るまでは非常に怖かったのですが、リベラルアーツ・ゼミナールとか京都学といった私達が苦労して用意した看板科目は、いずれもアンケートで高い評価を受けることができました。

このように、順調なスタートを切ることが出来 たので、私達は少しずつ学生主体の方にかじを切り始めました。最初は、理念や制度を構築すると ころにエネルギーをいっぱい注いでいたのですけ ど、だんだんと学生主体の方へシフトしていく、 かじを切っていくということを試み始めたわけで す。それの端緒となったのは「京都学事始」の展 覧会、そしてシンポジウムです。こういったこと をやって、学生さんを巻き込んでいくようにした わけです。

さて、一応順調にスタートを切ることができたとはいうものの、後ほど紹介があると思いますが、学生アンケートの結果などを分析しますと、色々な課題が出てきました。まず、定員です。人気があって教室からあふれてしまう、科目の登録の抽選からあぶれてしまう、受けたいのに受けられない、こういった不満が明らかになってきたので、これを迅速確実にフィードバックする体制を確立していったわけです。おかげで、定員や抽選制度については平成27年、28年、それぞれ格段の改善をみることができました。しかし、この共同化教育の本来の趣旨である「マスプロ教育の排除」

と、人気のある講義に対する学生の受講希望をどのように整合を取っていくのかについては、今後考えていかなければならない課題の一つであると思います。

昨今の文科省の事業では必ずかなり早い時期に中間評価がなされ、それによって以後の補助金の大幅な見直しが行われます。本事業におきましてもスタートを切って間もない段階から中間評価を見据えた準備を行いました。教職員一同、一生懸命準備をしまして、特に事務の方々は大変なご苦労だったわけですが、中間評価に備えることができました。また、この事業では外部評価を重んじていて、そのための運営協議会を設けています。今日は専門委員をお願いした圓月先生においでいただいておりますけども、圓月先生にも大変なご苦労をお掛けしまして評価報告書を書いていただきまして、御蔭様で文科省からA評価を得ることができたわけです。関係教職員一同、まさに胸をなで下ろす思いでした。

さあ、展望に移りましょう。ここからの主題は 「学生主体を目指して」です。やはり、教育は学 生さんが主役ですからね。まず第一弾として、学 生が主役のシンポジウムを開催しようということ で、「人・サル・植物の関係から知の源流と未来 を探る」というものを開催することにしました。 イントロで申しましたように、エネルギーをちょ っとだけ与えてあげる、つまり、最初のお膳立て だけはやってあげて、後は学生の力を信じていく わけです。まず、機構の藤井先生が6月から7 月にかけて、リベラルアーツ・ゼミナールの受講 生を中心にメンバーを集めてくれました。非常に うまくいきまして、各大学からちょうど7名ず つ集まりました。初顔合わせがあったのは、確か 8月、暑い盛りだったと思います。センター長で ある私が最初にアジテーションをやってメインテ ーマを決めました。これは最初のミーティングの 写真です。これには私も本当にびっくりしました。 顔を見たこともない学生たちが自然に集まってグ ループを作っている。議論させたら白熱の議論が 止まらないのです。この後、サブテーマをグルー プごとに考えていくわけですが、時間がオーバー するから、そろそろまとめてくれと言うぐらいす ごい議論でした。本当に初対面でよくこれだけや るなあとつくづく感心しました。学生さんの可能 性を信じてあげないといけないということを一番 最初に申しましたけど、学生達のこの姿には本当 に驚かされるとともに、嬉しさがこみ上げてきま

した。この話をしましたら、京大総長の山極壽一先生と府立植物園名誉園長の松谷茂先生が快くアドバイザー・ゲストコメンテーターを引き受けてくださいまして、その話を聞いた学生達は喜び勇んでフィールドワークに入って行ったわけです。ここから後の指導は機構の藤井先生が全てやってくれました。これは当日の写真ですね。これはグループ毎の発表ですね。これはサルのお面をかぶって寸劇をやっています。非常に素晴らしい発表でした。こっちの写真はパネルディスカッションですね。山極先生や松谷先生と対等に議論する学生達の姿は見ていて惚れ惚れしました。後からこのメンバーの発表があると思いますが、こういうシンポジウムをやったわけです。

次に、今度は学生達が自ら新入生歓迎の講演会をやりたいと言い出しました。最初に話を聞いた時、私は正直これは無理だと思っていたのです。いくらなんでもあの内田樹先生が相手にしてくれる訳がないと思っていたら、びっくりです。なんと、直接頼みに行ったら快諾してくださった。中心になってくれたのは3人か4人か、そういう少人数だったのですけど、いずれもリベラルアーツ・ゼミナールの受講生でした。これで改めてリベラルアーツ・ゼミナールの教育効果がいかに大きいかを実感できたわけです。ご指導に当たられた児玉先生、林先生はやっぱり力量が私とは全然違うなという感じですね。さすがだと思いました。

もう一つ、これは申請書にしっかり書かれてお りました合宿研修を実施しなければならないとい うことで私の責任でやらせていただいたのですけ ども、綾部市の山の中に「水源の里」という限界 集落があるのですが、ここへ行って、地域の抱え る課題を実感して何とか対策を立てようというこ とをやってみました。学生達 17 人を連れて行き ました。この公民館でこの区長さんや綾部市の課 長さんからいろいろお話を聞いて、実際に山の中 に栃の実拾いに出掛けて行ったわけです。栃の森 のスケールの大きさと美しさに圧倒されまして、 学生たちは帰ろうとしないのです。もう時間がき ているから帰らなきゃと言うのに、全然帰ろうと してくれません。こんな感じで、もう夢中になっ て栃の実を探して拾っている。私もあれほど美し い森は初めて見ました。「もののけ姫」に出て来 るような、そんな感じです。これは源流の水を飲 んでいるところですが、これがもうものすごくお いしい。そして、公民館に帰って、こうやってト チの実を集めて重さを量っています。ただ、もち ろんきれい事だけではないのです。実際にはもの すごく大変な暮らしぶりがあって、それを何とか するということを夜に考えたわけです。これは栃 の森の次に訪れた黒谷の和紙会館ですが、ここで も、美しさだけではなくて、和紙づくりが抱えて いる課題を実感する。この専務の方が詳しく説明 してくださいました。工繊大にはデザインの学生 さんもおりますので、興味津々で聞いております。 こういう課題を持ち帰って、それぞれ胸に秘めて、 夜にディスカッションしたわけです。こうやって 個別にディスカッションをして、最後に一人一人 が発表をする。ここでも私は本当に学生さんを見 直しました。一人一人、真剣に、しかも面白いア イデアを考えて発表できたのです。例えば、あの 和紙でランタンをつくって、雪がものすごく降る ので、雪祭りをやったらどうかと。夜にこういう ランタンをつけたら絶対に人がくるだろう。そう いうのをやれないかとか。そういったことを一人 一人が提案しました。綾部市の課長さんも非常に 興味深く聞いてくださったわけです。学生達のア イデアをここ限りで終わらせずに何とか具体化で きればなあと思っているわけです。

以上が、私達が取り組んで来たことの御紹介で す。こういったことを半ば夢中でやってきたわけ ですが、いよいよ次に何を目指すのかを改めて考 えなければなりません。当然ながらこれはなかな か難しいことなのです。具体的なことを考えるの はむしろ楽だと思うのです。例えば、高学年の教 養教育ですが、これはもう皆さん興味を持ってお られますし、重要性はよく分かっているので具体 化するのはそれほど難しくはないでしょう。また、 文系の学生さん対象の理系科目についても、これ は私がやろうと思っているのですが、実験を含め て何とかできないかと思っています。こういった ことを具体的に考えるというのは、むしろ簡単で しょう。しかし、何を目指すのか、もう一回根底 から理念を議論すべきではないかと私は思うので す。その際に、私達自身が教養というものの重要 性を再認識する必要があるのではないでしょうか。 ここがやはり一番重要なことなのではないでしょ うか。やっている本人が一番肝心だと思うのがこ こです。だって、私達が「教養ぐらい」とか思っ ていたのでは学生さんが乗ってくるわけがないで す。なにしろ、この私達の世代というのは教養教 育を「パンキョー」と呼んで一番バカにしていた 張本人ですからね。学生さん達を乗せるには、私 達自身が興味津々で、目を輝かせて、時間を忘れ

て飛び込めるようなことをやっていかないといけないのではないでしょうか。そのためには理念をもう一回探す必要があるのではないかと私は考えています。

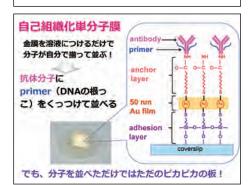
さらに、私は「学生さんたちの可能性を過小評価しない」、これが一番重要だと考えています。ただし、「学生の自主性に任せる」という、この言葉は私が一番嫌いな言葉でして、イントロで紹介したように、いくら金の板をじゃぶんと溶液に漬けるだけで分子が集まってくるといっても、それだけではやっぱり駄目なのです。工夫が要る。ちょっと鼻薬を効かせてやらないとあの実験は絶対にうまくいかないのです。あの女子学生は、そこをものすごい苦労をして、やっとのことであれだけ大きな成果を出したのです。放っておいたって絶対にできない。エネルギーを与えていかないといけない。新しい教養教育を創ることにおいて、それはまさに私達の責任であるわけです。

偉そうなことをずらずらと言いました。最後に 強調したいことは、先ほど学長が申し上げました ように、本日私がご報告しました成果はこれまで の三大学の学長、特に一番中心になられた副学長 の方々、機構の歴代センター長、機構の教職員、 非常勤を含めた各科目担当者、三大学の事務担当 者をはじめ、共同化に関係していた全ての皆さま の大きなご努力の賜だったということを改めて強 調しておきたいと思います。特に、事務職員の方々 には本当にご苦労を掛けました。何しろ、私達教 員は「こんなことをやりたい」と言いたいことを 言えばいいのですが、その後の尻拭いがどれだけ 大変だったことか。先ほどの合宿研修はもちろん、 何回ものシンポジウムの度にそれこそ背中から脂 汗を流してやってくださったわけです。もちろん、 事業開始に至るまでの文科省との折衝や中間評価 の準備も大変な仕事でした。本当によくやってい ただいたと思います。改めて深く感謝いたします。

雑駁な話で恐縮でございますが、以上を私の基 調講演とさせていただきます。 京都三大学教養教育共同化フォーラム 「今、求められる教養教育-京都からの発信-」

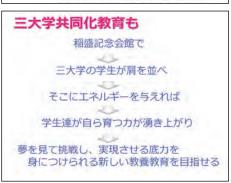
基調報告1 「教養教育共同化 – 何をめざすか」

リベラルアーツセンター長 京都府立大学大学院生命科学研究科教授 石田昭人

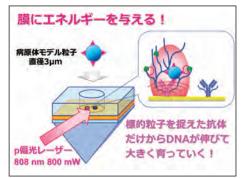




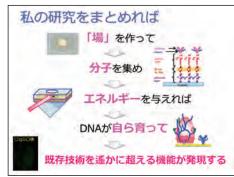


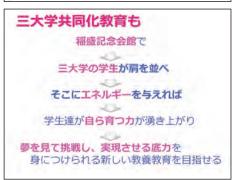












三大学共同化事業も

三大学が一つの場に結集して

過去の蓄積と新たな知力を集め

予算と努力を注ぎ込めば

求心力をもつ教育システムが動き始め

既存の教育を遙かに超える 新しい教養教育が実現する

① 経緯

それぞれの年度を一言で表現すれば

24年 はじめの一歩

25年 枠組みづくり

26年 スタート

27年 フィードバック

28年 展望「主役は学生」

② はじめの一歩

(2) 目標の共有

「0」からのスタートではなく、三大学には

「共同化のボートフォリオ」があった

三大学にはこれまで個別に多くの可能性や具体的な計画が 検討され蓄積されていた

当然、三大学にはそれぞれの立場と思惑があったわけだが、 共通する部分が多く存在した。

「三大学の学生のために新たな教養教育を創る!」 という強い目的意識を根底で共有できた!

③ 枠組みづくり

(1) 理念・目的の決定

- A. 人文・社会・自然諸分野の学術体系を俯瞰し ながらこれらの基礎を幅広く学習し、学術へ の高い関心を育てること。
- B. 世界の人々の多様な生き方を感受し、人とし ての豊かな感性や倫理観を拡張すること。
- C. 日々社会に生起する種々の問題において、 真理や正義を探求する議論に習熟すること。

③ 枠組みづくり

(2) 科目のデザイン

28年度 講義65科目 + リベラルアーツゼミナール9科目 = 74科目

看板となる代表科目

「リベラルアーツゼミナール」 (人文2社会6 自然1) 「京都学」

その他の科目

大学の規模に応じて科目を提供

工織大 30 府立大 21 府立医大 11

12 28征度

三大学共同化事業も

三大学が一つの場に結集して

過去の蓄積と新たな知力を集め

予算と努力を注ぎ込めば

求心力をもつ教育システムが動き始め

既存の教育を遙かに超える

新しい教養教育が実現する

② はじめの一歩

(1) 文科省への予算申請と採択

行程表が出来てしまっていたため、短期間の準備を強いられた ⇒ これはある意味ラッキー

限られた時間で具体化する必要に迫られた

もし、時間が十分あったら・・

「前向きに検討」を繰り返すばかりで膨大な時間を要した

or 最悪、実現できなかったかも

三大学の教員と事務職員が会議を繰り返し、必死で取り組んだ ⇒ 責重な経験であり、強い一体感を酿成できた!

② はじめの一歩

(3) 理念の構築

24年度~25年度にかけて、目標を具体化すべく、三大学の 議論にもとづいて理念を構築

ますは勉強し

公開研究会、フォーラム、他大学の視察を実施

坂東眞理子 氏

「共屈する力、削造する力 時代が必要とする教養」(24年度)

鴻上尚史氏

「不安を乗しめ! - 教養教育がはぐくむ社会認識の方法-」(25年度)

油上影氏

「「教養の時代」がやってきた」(25年度)

③ 枠組みづくり

(2) 科目のデザイン

26年度 講義61科目 + リベラルアーツゼミナール7科目 = 68科目

看板となる代表科目

「リベラルアーツゼミナール」 「京都学」

その他の科目

大学の規模に応じて科目を提供

工織大 30 府立大 21

府立医大 11

機構 12 28年度

③ 枠組みづくり

(3) 実施体制の構築

学年曆 時間割

科目登録

試験

成績評価

三大学の専門教育とも整合

一切の齟齬は許されない

③ 枠組みづくり

(4) 担当者会議の実施

教育の質保証 教育IRセンターが主催

課題の洗い出しと共有 解決策の導出 教育方法の洗練

当座の改善から 「何をめざすか?」への転換

両センターの共催へ

高学年教養教育の具体化 新たな科目の創出

④ スタート

26年後期

稲盛記念会館が完成

三大学の学生が一堂に会して受講



④ スタート

26年後期

学生アンケート結果 教育IRセンター

定員、科目登録抽選法etc.に課題

フィードバック体制の確立

⑤ フィードバック

中間評価





6 展望

学生が主役のシンボジウムを開催 27年11月8日

「人・サル・植物の関係から知の源流と未来を探る」

6月 メンバー集め 各大学から7名ずつ

8月 初顔合わせとメインテーマ策定 9月 グループ毎のサブテーマの策定

~10月 フィールドワークとまとめ

機構・原井准教授が指導

④ スタート

26年前期

稲盛記念会館が未完成

わざわざ他大学へ出向いて受講しなければならない

予想以上の受講登録数!

学生達の大きな期待を実感できた!

④ スタート

26年後期

稲盛記念会館が完成

三大学の学生が一堂に会して受講

リベラルアーツゼミナール、京都学etc. が 高評価を得る

「京都学事始」展覧会・シンポジウム

理念構築から「学生主体」へ舵を切る

⑤ フィードバック

定員、教室配当、科目登録抽選法etc.の課題

27,28年度でそれぞれ格段の改善

マスプロ教育排除の理念と現実の調和etc.にどう対処?

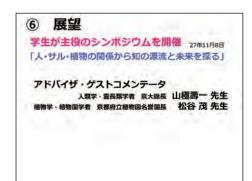
⑥ 展望

「学生主体」を目指して

6 展望

学生が主役のシンボジウムを開催 27年11月8日 「人・サル・植物の関係から知の源流と未来を探る」

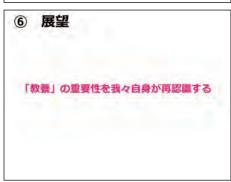










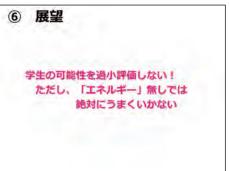












強調しておきたいこと

本事業の成果は全て、これまでの三大学 学長、副学長、機構の歴代センター長、 機構の教職員、そしてこれまで三大学の 共同化に関係してきた全ての常勤・非常勤 教職員の皆さんの大きなご努力の賜

※ ◆基調報告 2

「教養教育共同化-質保証をめぐって」

○教育 IR センター長

京都工芸繊維大学教授 大倉 弘之

こんにちは。大倉と申します。

はじめに

私は京都工芸繊維大学で、この問題にいろいろ 関わるようになりまして、結構長くなるのですけ ど、先ほどの石田先生は最後紹介いただきました ように、IR センターでずっと一緒にやっており まして、苦楽を共にした同志のような感じでいま す。先ほどからお話を聞いておりますと、石田先 生は本当に何でもおできになる方で、私の分も含 めて全部話をしてもらえばいいのになと、さっき から思っておりました。

私は、教育 IR センターからということで、質 保証に関わる部分について、いろいろ苦労してき た考え方とか、そういうことも紹介しながら、京 都モデルといっても、色々課題もある。そういう ことも含めて、お伝えしたいと思っております。 全体の流れ

さて、質保証ということはいったい何なのかと いうことから出発しました。それから共同化。私 はこの機構が始まる前から少し関わっておりまし て、その辺も少し。文科省事業も最終年度ですの で、その後を考える意味では、もっと原点に振り 返ることも必要かなと思っております。それから、 具体的にどういう取り組みをしてきたのかという ことです。お手元に資料的なものをスライドから 抜粋してお配りしております。

自己紹介

最初に、私は数学を専門としておりまして、石 田先生のような面白い話をいま紹介できないので すけど、この2012年から、機構の運営委員とい うかたちで関わってまいりました。ちょうど 2 年前からセンター長を仰せつかりました。実は、

1986年に工繊大に赴任しました。そのころは、 私は一般教育等というころに所属していたのです けども。ちょうど 1991 年ですから、5 年後くら いに設置基準の大綱化ということで、一般教育と いうものがなくなって、機械システムというとこ ろに所属することになります。

「質保証」を振り返る

質保証という言葉が出てきたのは 2000 年頃で す。小泉内閣が大体 2001 年ころから 5、6 年間。 いろいろ規制緩和の流れがあって、大学の設置に ついても、それまでは事前審査が非常に厳しくて、 なかなか大学を作りにくかったのですけど、株式 会社立大学なんかも可能になる。そういう、設置 については簡素化しようと。その代わり、アウト カム評価、事後評価をちゃんとやりましょうとい う形に転換した時期がこの頃です。そのころから 質保証としての認証評価というようなことが、「学 校教育法」が改正されて、法律的に義務付けられ た。そういうかたちで転換してきたわけです。

私は、大綱化以降、当時の機械システム工学科 に分属しました。ちょうど JABEE (Japan Accreditation Board for Engineering Education) というのが 1999 年頃に始まってい ます。Accreditation というのは、認証という か認定というか、こういう考え方。何となく質保 証という考え方自体が、アメリカの訴訟社会と言 われる中で、高い学費を払っている顧客に、どう いう質の教育を与えるのかという仕様書というか、 シラバスのような契約書のようなものを示せとい うような考え方。多分にアメリカ的な文化という 感じを受けておりました。工繊大は早くから JABEE に対応をしていて、私が機械システム工 学科に所属していたとき、その認定に深く関わっ てしまうのですけど、その話は今日は致しません。

「保証」とは

ただ、そのころ、「保証」という言葉がいろい ろと一人歩きするのです。私が理解しているのは、 誰が誰に対して何を保証するのかということでは、 教育を提供する大学側あるいは設置者が、教育を 受ける学生、あるいは教育を受ける権利を持って いる国民に対して保証する。それで、何をという のは、提供する教育の質を保証するという内容だ と思うのです。ところが、例えば、私が数学会な どに出ると、工学系の集まりなんかもありまして、 ちょうどその頃、色んなところで JABEE とかを やって「大変だな」という話が色々ありまして、 そういう中で、「品質保証」という言葉に急に入 れ替わったりするのです。ちょっと違和感を持っ ていたのですけども、要するに大学の提供する教 育の品質保証と言って、言い方が変わっただけな らいいのですけど、何となく、卒業認定試験をや らないといけないぞとか、そういう方向に行くの です。特に工学系だと、何となく学生を社会とか 企業に送り出すというイメージがありますので、 学生一人一人を製品であるかのように、証明書を 貼り付けて送り出すみたいな、どうもそういう意 識があるのではないか。ちょっとそれは違うだろ うというふうに思っていました。そういう議論に なるとどうしても、検定試験だとか何だとかいう ことで、質をどう高めるのかという議論がなかな か出てこないという違和感をちょっと持っており ました。

そこで、特に教養教育ということと、三大学が連携するという状況の下で質の保証をどう考えたらいいのかということですけど、「不断に教育の改善を図っていく仕組み」のことというぐらいのスタンスで、何となく緩く考えた方がいいのではないか。今でもそういうふうに思ってやってきております。

共同化の歴史

共同化についてなのですけど、実は、この文部科学省事業で機構ができる前、これは私も知らない時期なのですけど、2005年ですから、もう11年以上さかのぼって、連携の話が始まっているのです。この2005年のときには中間まとめというものがあって、これが今に至るまで一つの基本になっております。今後もこれは合意事項として効いてくるだろうと思います。そして、2006年頃から私は関わっているのですけど、単位互換による共同化ということが2007年度からスタートします。しかし、実際には単位互換はなかなか受講してくれないのです。色々な経緯を経て、各大学でどのくらい提供したらいいかという、先程の30科目、20科目、10科目という提供科目の

枠組みだとか、やっぱり「京都学」ということが可能なのじゃないかとか、こういうような考え方が2010年頃から出ています。それから時間割。工繊大生はどうしてもこっちに来なくてはいけない。その頃から、この建物の話が出てきておりましたので、時間割のゾーニングをしないと大変じゃないかという話もこの頃から出ていました。この辺は、その後大体実現して行きます。

それで、いまの文部科学省の事業ということで機構が発足しまして、2014年度から授業が開始します。この辺は先ほどの石田先生の話の通りでございまして、稲盛記念会館が後期から開いて、文字通りこの取り組みが始まったということでございます。

教養教育共同化の考え方(中間まとめ)

先ほどの中間まとめのときに、どういう内容の合意事項があったのかということなのですけど、二つ柱があって、多様な関心、要求に応えるということ。総合的な判断ができるという、そういう人間性の涵養とか。それから交流とかいうのがテーマです。ちょっと長いので、少し縮めて。こういうような感じでまとめますけども。交流というのは、このころからずっと言われております。

その後、機構が発足してから、先ほど石田先生が紹介された教育目的の A、B、C というものを掲げてやってきました。これは、質保証ということを考える上では、何を目的にするのかということがはっきりしていないのに保証なんてできないわけですから、この根幹に当たるものです。授業科目区分という形で、各科目がこれらのどこに力点を置くのかということも授業案内に載せております。さらに、これも繰り返しになりますけど、リベラルアーツ・ゼミナールなどの特色ある科目を立ち上げる。「京都学」以外にも新しいものができております。

機構の構成

質保証という仕組みとして見ると、これはちょっとポスターから取ってきたのですけど、ここに二つのセンターがあって、運営委員会には、各大学から副学長が1名ずつ参加。教員が2名ずつ。事務職員がサポートで入っています。それに機構の専任教員、特任教員。事務局を京都府の方から支えていただいております。それから、外部評価機関として、運営協議会というものにずっと見守っていただいている。また、この施設というものが、これを成立させている非常に重要な条件で、京都府、稲盛さんのおかげで、こういう非常にい

い条件の下でこういうことができているというわけです。

質保証の仕組み

具体的な仕組みについて見ていきます。これは 先ほどから言いましたように、各大学で質保証と いうものは義務付けられているわけです。だから、 アンケートだとか FD とかをやっていない大学は、 おそらくないと思うのです。しかも、認証評価を 定期的に受けないといけない。そうなっています。

それに対して、機構として教養教育の質保証を どう考えたらいいのか。色々考え方があると思う のですけど、特に各大学の保証という場合には、 あらゆることがあって、例えばトラブルがあった ときに、やはり権限を持った人が責任を持って対 処するような側面もあるでしょう。だけど権限を 振るって何かをやるようなそういう質保証を機構 でできるかと言えば、機構というのは特に権限を 持っていないですから、ちょっとふさわしくない。 色々なアンケートの在り方でも、この辺の考え方 によって変わってくるわけです。そういう一例を 具体的に後でちょっと紹介していきます。

それと、リベラルアーツセンターと教育 IR センター。この二つの役割分担という形で分かれていますけれども、色々連携を取りながらやる。分担しているのだけど、実はなかなか分けがたい内容ではないかということもあるのです。それから、先ほどありました外部評価機関として運営協議会がある。

質保証の取り組み

具体的な取り組みなのですけども、これも先ほど石田先生がおっしゃいましたように、これは別にIR センターということではなくて、機構全体として準備段階から大学を挙げて学年暦の統一ということで、とにかく 15 回の授業と試験日を保証する。こんなことは各大学単位での質保証の話の中では出るはずがないわけです。当たり前のことですから。だけど、ここから連携の質保証が始まっているわけです。これも大変だったという話が先ほどありました。

また、取り組みというよりは条件として、この施設の存在がある。なかなかこういうことも得がたいことである。チャンス。ありがたい環境を与えていただいていると思います。

その上で、具体的な取り組みとしては、履修状況の調査。やはり三大学の学生がどう受けているのか、また、抽選の問題とか、ちょっと後で紹介します。

次に、授業アンケート。これも各大学が授業アンケートをやっているのですけど、それを統一したようなものを作るとすれば、お化けみたいなアンケート用紙ができるのではないかとか、いろんな議論があったのです。結局、そういうものと被らないような形で、後で具体的に見ていただきますけども、機構としての教育目的に絞った割とコンパクトなアンケートを並行してやるという形にしました。

それから、1年次生アンケート。2年生以降も受けるのですけど、一応毎年、1年生が通過していくので、年度末に一斉にウェブ方式のアンケートをやって、経年変化を追跡していくということにしております。

さらに、何と言っても担当者会議。これは先ほど石田先生からも紹介がありましたけども、後でもうちょっと詳しく紹介をします。担当者が集まって、色々意見交換しながら進めていくという、それとそれを補完する教員アンケートというものでスタートしてきましたし、いま進めているということです。

そこで、担当者会議ですが、これは実際に共同化実施前にも3回開かれておりまして、共同化が始まった2014年に、前期と後期の間位で、つい最近も20日ほど前にありました。そのときは20人くらいの参加でしたけど、科目の中で苦労していることとか、赤裸々に悩みが語られる。そういうことを共有して、お互いコメントを出したりとか、そういう空間ができております。

次のティーチング・ポートフォリオ。これは、科目担当者に、特にアンケートなどをどういうふうに活用して改善しているかということを科目ごとに、書いていただいています。一斉にやるということではなくて、お願いできる方から順番にお願いして、報告書の中にずっと綴っていくという形で記録を蓄えていっております。

各種の研究会は、色々開きました。教養教育の 質保証なのだけども、中身のどういう質を保証す るのか、そちらが問題なのです。常にこれを考え 続けないといけないということだと思うのですけ ど、そういうことをやってきました。

最後に、報告書には、以上のものを記録して発 信するという役割があります。

履修状況

さて、履修状況です。提供大学が定員枠を設けるというのが一つの特徴になっております。実際には、事務局が登録の事務をやりますので、抽選

の状況などを把握できるのですけど、最初のスタートのときは、提供大学の学生の定員が50%で、残りは入学定員(大体入学定員が、大雑把に言って、工繊大が600、府大が400、医大が200ですから、3:2:1の割合です)に比例して按分する。ただ、最初の年度の前半はこの施設がありませんでしたので、提供大学が80%ということでした。交流率というのは、提供大学以外の履修者数を、全履修者数で割った比率。例えば工繊大で言うと50%だと、この1割くらいが実は府大が提供している科目とか、医大が提供している科目を受けているというような。これは全体としての平均値ですけども、こういう形で、だんだん上がっています。履修数もだんだん上がっています。

これはやっぱり、最初の年度はスムーズにスタートさせるということで、定員枠をつくったら、その中で各大学が埋めて、あふれたら第2希望とかに回していくという形でしたが、どうしもて空き定員がかなり出て、さすがに不満もたくさん出まして、次年度からは、空き定員を再配分しました。これで改善したのですけど、今年はさらに改善をして、毎年改善を重ねてきております。たくさん受ければいいのかという問題はあるのですけども、何と言っても、学生が積極的に受けて、順調に滑り出した。たくさん受けてくれているということは、この取り組みとしては非常に喜ばしいことではないかと思っております。

授業アンケートの概要

授業アンケートについて、ちょっとだけ紹介し たいと思います。これはさっきも言いましたよう に、各大学のアンケートと並行して、特に先ほど の教育目的のA、B、Cなどに焦点を当てた設問 を用意しておりまして、結果は担当教員にフィー ドバックするということです。これは全体の集計 シートですが、科目ごとに集計したものを各教員 にフィードバックして、実際には、科目の平均と 全体の平均が赤と青で並んで出るようなものを各 担当教員に返して、改善に役立てていただくとい うことにしております。設問の中にAとかBと かCという教育目的に関係するような設問を入 れておりまして、この辺も答えにくいので変えた 方がいいという意見もないわけではないのですけ ど、一応こういう形で担当教員にフィードバック して、改善に生かしてもらっているという姿です。

1年次生アンケートの概要

1年次生アンケートというのはさっき話したように、年度終了時に1年生を対象にする。2年生

以上は対象にしないのですけど、これは母集団を確定するという意味でこのように絞って、今後の経年変化を追跡していこうということです。2年生以降は、各大学の専門科目がありますから、各大学で考える方がいいのではないかということを思っています。

実は、ウェブ・アンケートだと1割くらいしか解答率が上がらないという話もあって、恐る恐るやったのですけど、ケータイに通報してもらうシステムとかを活用して、大体3割くらいの回収率を得ております。

いくつか特徴的な結果について少しだけ見ていきます。この部屋は大体200人規模の教室ですけど、極端なマスプロ教育を廃するということで、定員枠を設けて、交流ということも意識してやるのですけども、初年度は空き定員の再配分をしなかったということもあって、非常に抽選に対する不満が多かった。こんなことを聞かない方がいいんじゃないかという意見もあるのですけど、やっぱり、改善を図ったことで、容認する意見が増えていることに反映しているのではないかと思っております。

受講案内というのは、いま皆さんのお手元にもこういう冊子があると思うのですけど、こういうものを学生に配っています。先ほどの ABC の区分なんかを科目ごとに印を付けて、それからいろんな科目の学生へのメッセージとか、そういうものも含めて履修の参考にしてもらうことにしております。

シラバスなど、これは先ほどから言っておりますように、ある種の契約書みたいなものですが、これは当然よく活用されています。

履修相談というのも始めておりまして、細々とではあるけども、だんだん認知度が上がってきているのかなと。

また、何と言っても、口コミの情報が、経験が重なるごとに増えているのかなと。この表を見ると、逆にガイダンスのときに、先輩の学生に紹介してもらうようなことが有効なのではないかということがちょっと見えてきたりします。

科目数とか、こういうことも聞いております。 学生間交流。先ほどから交流ということを言っ ておりますけども、いろんな科目があって、必ず しも交流ということを、その科目の中でどうして もやらないといけないとは言えないと思うのです けど、3割くらいの学生が何らかの形で、これは 履修を通じてですが、交流の実感を持っていると いうことが見て取れます。教員の意見などを見ると、交流は学生の自主性に任せればいいのではないかという意見も結構あるのです。それはその通りだと私も思うのですけども、科目によっては、色んな背景を持った学生が集まった教室が実現するわけですから、特に教養教育ですと色んな視点を大事にする。そういうことをやる一つのチャンスがあるということで、その科目の中で三大学の学生がいるということを積極的に取り入れているような科目もあります。そういうことが期待もされているということです。できる科目ではやってみて欲しい。

共同化施設の満足度ですけども、かなり高いものがあります。しかし、結構不満もある、実は皆さん、この教室、椅子が固定式になっています。これは結構グループ学習とか、そういうことをやっていく流れも背景にありまして、そういうことをやるにしてはやりにくいということで、教員の方からも結構意見があります。しかし、出来立ての建物をいきなり改修というわけにもいかないので、今後の課題だなと思っています。実は、設計図なども見せてもらっていたのですけど、そんなことに思い至りませんでして、やっぱり後になってそういうことがあるのだなと。今後こういうことを最初から考えた方がいいということです。

自習室の利用なんかも調べています。

最後に、工繊大の人は、どうしてもここに通って来ないといけない。やっぱり、その交通手段がどうなっているのかということは、交通安全のこともありますし、ウオッチしていかないといけないということです。自転車の利用率など、大体こういう傾向が安定していっているのかなと。

担当者会議の概要

ここで,担当者会議について。これは最初の始まる前の年度に3回やって、実は、最初は50人くらいの参加でした。新しい取り組みで何が起こるのか、自分たちの大学の学生は知っているけども、残りの他大学の学生は知らないので、やっぱり恐る恐るといいますか、皆さん集まった。ここで、ABC も含めて、共同化の理念とか目的を確認し合って、ここから出発しております。やっぱり、担当者会議というのは、これからとっても重要な役割を果たしていくだろうと思っております。

自然科学系の担当者会議。これは実は教養教育の科目として数学の科目を立ち上げたので、その設計図みたいなものを紹介して、色んなご意見を

いただいた。こういう自然科学系の科目を考える 会を持ちましたし、人文・社会科学関係のそうい うものも積み重ねた上で共同化の実施に至ってお ります。授業が始まってからは、前期と後期の間 くらいのときに、1年に1回くらいのペースでや っております。また、京都学は別枠でやられてい ます。

昨年でいいますと8月に、テーマ「多様な背景を持つ受講生とともに創る授業」を掲げて、理系と文系という意識を持った学生が多いし、理系の学生が文系の科目を取る、逆に文系の学生が理系の科目を取るときの色んな問題など、そういうことを意見交換しました。 つい最近、特にテーマは設けませんでしたが、去年からリベラルアーツセンターの共催ということで、同じ目的を持った取り組みですので、これをやっております。

感じてきたのは、この集まりは熱い議論ができる。先ほども言いましたように、赤裸々に悩みを語り合うような空間にもなっていまして、稀有な空間ではないかと思っております。これが共同化科目全体を育てていくコミュニティーとして今後、育てていって欲しいなと思っております。ここは可能性がある。

教員アンケートの概要

教員アンケートというのは、担当者会議を補完するものとして毎年メールでやっているんですけど、大体こういうような五つの設問です。こういう成績評価に関する、具体的にいろんな工夫もしているよというような、具体的記述を書いてもらったものを皆さんに配って、共有してもらうということ。ここには中身はないのですけど、これぐらいの項目があって、それから、ちょっと違う意見なんかも出ているという比率です。

例えば、成績評価にどんなタイプの工夫をしているかということを、われわれが類型化して整理したもの。やっぱり、グループ・ワークとか、グループ・ディスカッションが結構多いです。私も100名規模で数学の科目をやっているので、グループ・ワークをやっています。

それから、フィードバックなどについてです。 **ティーチング・ポートフォリオ・授業研究**

後は、先ほどから言っておりますようにティーチング・ポートフォリオとして科目の改善の記録を残していく。ポートフォリオですから。今年はまたいろいろ新しく書いていただける方を募っているところでございます。

IR センター主催の公開研究会

公開研究会なのですけど、当初から、質保証と いうのは何を保証するのかという中身を、随分 IRセンター主催の公開研究会で問うてきました。 2回目はアンケートの理論みたいなものなのです けど、その次のコンピテンシー型というのは、あ る意味、批判的に見ているのすけども、いわゆる ジェネリック・スキルのようなものをいかに効率 よく学ぶかとか、そういうことを数値的に捉えて 評価すると、何となく質保証をやっているような 感じにはなるのですけど、そんなことだけでいい のかと。そういうことに還元しない方がいいとい うことなどを学んできております。さらに、高度 教養教育という高学年・大学院の教養教育のこと だとか、長崎大学の事例だとか、自然科学と数学。 実は、このお二方(小笠原正明氏、鈴木寛氏)に は、ここには書いていませんけど、非公開でナン バリングのことなどもいろいろ教えていただきま して、工繊大はそれを十分活用させていただいて、 ナンバリングをこれから始めるようでございます。 最後に、今年の2月に質保証フォーラムという 形で、学術会議で教養教育の質保証に取り組んで いただいている藤田英典先生を招いて集大成的な 内容のフォーラムを開きました。

おわりに

ここまでが、皆さんにお配りしているところなんですが、最後に、時間がなくなってきたので、皆さんのプリントにはないところですが、最後にどうしても言い残したい、一番大事なことかもしれません。

質保証とは何かがよく分からないなというところから出発したのですけど、それを分かりきったことにしないで、何なのかということを問い続けてきたということだと思うのです。

それは中身である教養教育は非常に多様で、あんまり教えすぎない方がいいということもあったりするわけですから、やっぱりそういうことを常に問い続けないといけない。だから、質保証という在り方も問い続けないといけないのではないかと。

リベラルアーツセンターと IR センターという 二つの設計できたのですけど、中身を考えると結 局同じ目標を持っている。分担の部分もあります けど、密接不可分の役割を果たしていると思いま す。

担当者会議というのは先ほども申し上げました。 機構の取り組みというのは、全体が質保証の取り組みになっているのだということです。何か質 保証となると IR センターがやってくださいみたいな話が時々あって、ちょっと違和感を感じていたのですけど、そうではないのだと思っております。

コンソーシアム京都との関係について。特に研究会なども必ず共催の形を取っていただくことで、そのルートから全国に発信することもできて、いろんな交流も進んだということ。

関連学会、私はよく知らないので、大学教育学会しか挙げておりませんけども、これを機会に私もこういうところに参加しました。参加してみると、いろんな知見がある。知ることによって本当に授業をすぐ改善することができる。そういう知見がいっぱいあるのです。

文部科学省事業の最終年度に当たって、関係者の皆さんのご努力によってここまできたわけですけども、どうしても最後に言っておきたいのは、この教育学会の経費も、この経費から私が行かせていただいたということもあるのですけども、それよりも、これを誘っていただいたのは実は、専任教員の方。

先ほどから司会をしていただいているリベラルアーツセンターの藤井先生、教育 IR センターの児玉先生は本当に彼らの人脈とか、学会とのつながりを生かして、いろんな企画を作り出してくれました。もちろんリベラルアーツ・ゼミナールの学生の評判もいい。

私の個人的なことで申し訳ないのですけど、来年定年退職を迎えますので、何となく申し送りみたいな話になっているわけですけど。そんな年に教育 IR センター長というのは気が重かったのですけど、児玉先生とか、藤井先生と一緒によい仕事ができたと。そういう機会を与えていただいたことを大変ありがたかったと思っております。

こういう事業がなかったら、こういうことは実現しなかったし、もちろん石田先生のようなスーパーマンの努力もなければできなかったことなのですけど、一応こういう形で何とかここまで来ました。この後は、各大学がどういう覚悟でやっていくのかということだと思います。

ご清聴ありがとうございました。

文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」

京都三大学教養教育共同化フォーラム

今、求められる教養教育 ―京都からの発信-

教養教育共同化

質保証をめぐって

大倉 弘之 京都三大学教養教育研究・推進機構 教育 IR センター長 (京都工芸繊維大学)

2016年11月19日 at 福盛記念会館

自己紹介

大倉・弘之 京都工芸職維大学 基盤科学系 専門分野:数学/確率論/確率解析学 2012 年 9 月より 京都三人学教養教育研究・推進機構 運営委員(教育 IR センター) 2014 年 4 月より 同機構 教育 IR センター長

「保証」とは

誰が誰に対して: 教育を提供する大学・設置者が 教育を受ける学生・国民に対して 何を : 提供する「教育の質」を

「品質保証」?

中身が問題

質をどう高めるのか

質保証システムとは、不断に教育の改善を図っていく仕組みのこと

教養教育共同化の考え万 (中間まとめ)

教養教育共同化にあたっての視点・目標」 ①共同化によって教養カリキュラムの選択幅を拡大し、一大学では 対応できない学生の多様な関心・教育要求に応え、様さまな角度か ら総合的に物事を観察し適格に判断できる能力と豊かな人間性の酒

養をはかる。 ②共同化によって三大学の学生・教員の交流をはかり、下鴨・北山地 域における新しい学生のライフスタイル、大学像を構築する。



● はじめた

- ●「質保証」とは

 - 「質保証」の歴史「質保証」の考え方
- 教養教育共同化
 - 共同化の原点を振り返る京都三大学教養教育研究・推進機構
- 質保証の仕組み
 - 質保証の取組の概要
 - 履修状況と履修方法の改画

 - ・ 授業アンケート・ 1 年次生アンケート・ 共同化科目担当者会議

 - 教員アンケートティーチング・ボートフォリオ
 - 各種研究会

「衝保証」を振り返る

1991年 設置基準の大網化 2004年 事前規制から事後評価への転換(認証評価制度施行)

この頃 工臓大では JABEE 認定が始まる (JABEE=Japan Accreditation Board for Engineering Education, 1999〜) 高分子学科:2002–2008、機械システム工学科:2005–現在

共同化の歴史

2005年2月 3大学連携協議懇談会 その後、計5回の「検討会議」を経て 2005年9月 「教養教育共同化の考え方(中間まとめ)」 (3大学連携権進協議会教養教育共同化部会)

2006年3月 3人学迎携推進協議会「教養教育部会」 2007年度 単位互換による教養教育の一部試行開始

2007 年度 単位互級による教養教育の一部成日開始 2010 年7月 3 大学連携推進協議会教養教育部会 その後、同部会、WG等で 各大学擅供料日の検討。「京都学」の企画、時間割ソーニング、社C 2012 年に文材省「大学師連携共同教育推進事業」に採択 2012 年 9月に京都三大学教養教育研究・推進機構が発足

2014年4月から教養教育共同化科目開設 当初の半年間は、各科目提供大学の校舎で実施 2014年9月に共同化施設(稲盛記念会館)竣工

教養教育共同化の考え方 (中間まとめ)

「教養教育共同化にあたっての視点・目標』 ①選択幅の拡大、多様な関心・要求に応える、豊かな人間性 ②学生・教員の交流、新しい学生のライフスタイル、大学像

京都三大学教養教育研究・推進機構発足後

教育目標(授業科目区分)

- A 人文・社会・自然諸分野の学術体系を俯瞰しながらこれらの基
- 礎を幅広く学習し、学術への高い関心を育てる B 世界の人々の多様な生き方を感受し、人としての豊かな感性や
- 倫理観を拡張する C 日々社会に生起する種々の問題において、真理や正義を探求す る議論に智熱する

特色 リペラルアーツ・ゼミナール、「京都学」etc.

質保証の仕組み

各大学 既存の質保証システム (認証評価、アンケート、FD等)

+ 教養教育研究・推進機構としての質保証 リベラルアーツセンター (カリキュラム企画・研究) 教育 IR センター (質保証企画・研究)

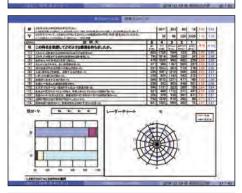
外部評価 運営協議会 (有識者、自治体、大学及び関係機関)

質保証の取組

- 15 回の授業と試験日の保証(学年暦の統一)等
- 共同化施設の存在
- 腹條状況調査と腹條方法の改善
- 授業アンケート (機構版)
- 1年次生アンケート
- 救員アンケート 共同化科目担当者会議 共同化科目実施前: 2013.9.25, 11.26, 12.12, 共同化科目実施後: 2014.10.1, 2015.8.5, 2016.10.31
- ティーチング・ポートフォリオ (授業改善報告書)
- 各種研究会
- 年度報告書

授業アンケートの概要

- 各大学の授業アンケートとは別に、共同化科目ごとに実施、 マークシート方式
- 機構の教育目標 (A, B, C) に焦点を当てた設問
- 担当教員にフィードバック

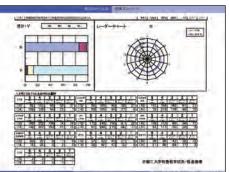


IA	この科目の出席状況をお答えください。 A DESPTABLE TO THE STATE OF THE STAT				
V	この科目について、1回系たり中間にてどのくらいの授業特配が学習(予管・体管)をしていますか。 4、120分以上3、60分以上2、30分以上1、30分無調				
VI	この科目を受講してどのような感想を持ちましたか。				
(1)	この科目や関連する分野特有の視点や手法を学んだ	Λ			
(2)	この科目や問題する分野の基礎的知識を修得した	A			
(3)	世界の人々の多様な生き方に触れた	D			
(4)	自らの生き方を考え、高い倫理報を述った	D			
(5)	現代社会が抱える問題への関心が高まった	1			
(6)	文献・資料などを検索し、健解する力が高まった				
(7)	レボートを書く力が高まった	> (
(8)	論理的に思考する力が高まった				
(9)	受賞生や動資との提詢を経験できた				
(10)	自大学では学べない環境を学んだという実施があった				
(11)	教員との双方向のやりとりがあり、授業に参加しているという実際があった				
	課題やホテストなどのため、課業時間外でこの特別に来てる時間が多かった				
(13)	成績評価の方法や基準が明らかにされていた				
	授業内容に発発されて、間違分野をより深く学びたいと思った。				







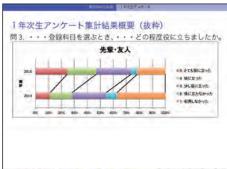


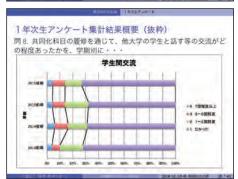
1年次生アンケート概要

- 2015年度 [2014年度] 後期試験終了時
- 1年次生を対象 今後は経年変化を追跡
- web アンケート (ただし 2015 年度は医大は紙ベースで実施)
- 全対象者 1,221 名 [1,260 名]
- 412件 (33.7%) [363件 (28.8%)] の回答

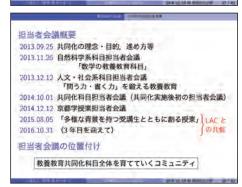










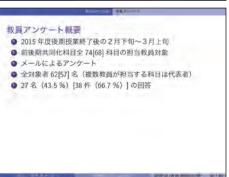










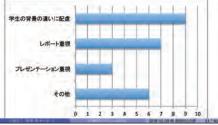


- (1) 共同化科目の成績評価について、配慮されたこと、工夫された ことがあれば、お答えください。
- (2) 三大学の学生交流について、何か配慮されたこと、工夫された ことがあれば、お答えください。
- (3) 学生へのフィードバックについて、何か工夫されたことがあれ ば、お答えください。
- (4) 教養教育共同化施設について、お気づきの点があれば、お答え ください。
- (5) 共同化科目の取組全般について、ご意見があれば、お答えくだ

教員アンケート集計結果概要(抜粋)

(1) 共同化科目の成績評価について、配慮されたこと、工夫されたこ

とがあれば、お答えください



教員アンケート集計結果概要(抜粋)

(3) 学生へのフィードバックについて、何か工夫されたことがあれば、お答えください。

全体へ事後振興 リアルタム指導 個人へ事後指導 その他の工夫

IRセンター主催の公開研究会等

2013.07.26 公開研究会「教養教育の両機築とカリキュラム・ポリシー 一『問う力』を育てる教養教育の実践―」(講師:東谷 護氏)

2013.09.10 公開研究会「学生調査の理論と調査票の設計」(講師: 谷田川ルミ氏)

2013.10.15 公開研究会「コンピテンシー型教養教育の問題と再構築 の指針 ―高等教育の質保証をふまえて―」 (講師: 杉原 真晃氏) 2013,12.16 公開研究会「アクティブ・ラーニングスタジオを活用し

た教養教育 一東京大学駒場キャンパスを事例にして一」 (講師: 林 一雅氏)

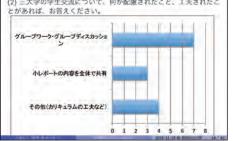
2014.03.17 公開研究会「理工系大学における高度教養教育への視座」 (講師: 吉永 契一郎氏)

- 「質保証」とは何かを問い続けてきた (分かりきったことにしない)
- 教養教育とは何なのか (「保証」する中身) を問い続けてきた
- リベラルアーツセンターと IR センターの役割は密接不可分
- 担当者会議が共同化科目全体を育てていくコミュニティ
- 機構の取組の全体が頻保証の取組となっている
- 大学コンソーシアム京都、関連学会(大学教育学会等)との連携 文部科学省事業の機能年度に当たって
- 専任教員の果たした役割は非常に大きかった



教員アンケート集計結果概要(抜粋)

(2) 三大学の学生交流について、何か配慮されたこと、工夫されたこ



ティーチング・ポートフォリオ (授業改善報告書)・授業

研究が報告書に掲載された科目

2014年度 「心理学」「現代社会とジェンダー」「エネルギー科学」 「現代社会に学ぶ問うカ・書くカ」「人と自然と数学 n.」 「リベラルアーツゼミナール〜社会科学の学び方」

2015 年度 「京の意匠」「京都の歴史」「文芸創作論」 「リペラルアーツゼミナール〜級性の実践哲学」 「リペラルアーツゼミナール〜社会科学の学び方」 「人と自然と数学』」「人と自然と物理学」「物理学」

IR センター主催の公開研究会等(続き)

2014.08.11 公開研究会「教養教育における学習コミュニティ型カリ キュラム ―長崎大学の教養教育改革を事例にして―」(講師: 山地 弘起氏)

2015,02.19 公開研究会「リベラルアーツとしての自然科学カリキュ ラム」 (講師: 小笠原 正明氏) 2015.03.19 公開研究会「リベラルアーツとしての数学カリキュラ

多様な学修背景・学修目的を持った受講生とともに―」(講 師:鈴木寛氏)

2016.02.06 教養教育賃保証フォーラム「現代における市民性とは何 か —日本学術会議の分野別参照基準を参考にして—」(講師: 藤田 英典氏、伊藤 徹氏、塚本 千秋氏)

ご清聴ありがとうございました。

◆三大学学生プレゼンテーション

- 1 人間と自然科目群 「意外と知らない植物の 世界」
- ○野﨑亮祐(エ・①) 野□裕志(エ・①) 和田雄次郎(エ・①)

○野口 それではこれから発表させていただきます。京都工芸繊維大学応用科学系1回生の野口と、和田と、野﨑です。よろしくお願いします。

○**野口** 私たちは、「意外と知らない植物の世界」 という講義について紹介していきたいと思います。

その紹介の手順として、まず講義についての説明をし、その講義を通して学んだこと。そしてその講義の課題と、それに対する提案。そして最後に、教養教育への提言をしたいと思います。

まず講義の内容ですが、こちらが「意外と知らない植物の世界」のシラバスとなっております。この黄色く塗られている部分が、いままで僕たちが受けてきた授業で、植物園でのフィールドワークを中心に、植物園でできる教育活動についても考えてきました。そしてこれから、薬効成分のある植物の観察や、熱帯植物の観察、そして動物と植物の関わり合いや、植物の生き抜く戦略についても学んでいきます。

いままで僕たちが学んできた、受けてきた授業について、もう少し詳しく説明したいと思います。 こちらが植物園でのフィールドワークの様子です。 画面左下の写真が、松谷先生から植物についての説明を受けているところで、 画面右上の写真が、発表に向けての植物の資料集めをしている場面、そして画面右下の部分が、教育活動を考える上でグループワークを行っている様子です。

ここで僕たちが学んできた植物について、少し紹介したいと思います。

まずこの画面左側の植物ですが、平安時代に香水として使用されていたフジバカマというキク科の植物です。そして画面右側の植物ですが、徳川家の家紋である葵紋のモデルとなっていて、現在、京都三大祭りの一つである葵祭のときに、かんざしとして使用されているフタバアオイというウマノスズクサ科の植物となっています。

そしてほかにも、このような花を観察しました。 京都府立植物園の温室で観察できるアリストロキ ア・サルバドレンシスというウマノスズクサ科の 植物です。皆さん、この写真を見て何かに似てい るとは思わないでしょうか。(「スターウォーズの テーマ」が流れる)この曲を皆さん、ご存じでしょうか。そうです。あの「スターウォーズ」に出てくるダース・ベイダーに似ているということで有名な植物です。

ここに挙げたのは、ほんの一部の植物ですが、ほかにもさまざまな植物について学んできました。そして、植物園でのグループワークを通して、自分自身が興味関心を持った植物についてプレゼンテーションを行い、また、植物園でできる教育活動についての発表をグループで行いました。
○和田 次に、講義を通して学んだことを話したいと思います。

一つ目として、協調性と表現力の向上が見られたと思います。具体的にはグループで共通の課題について考えることにより協調性が向上し、また、各自興味を持った植物について発表およびグループ課題について発表することにより、表現力の向上が見られたと思います。

二つ目として、五感で感じる学習の重要性について学びました。いままで、高校までの勉強では、教科書や資料集などといった無機的なものを使ってでしか学習をしてきませんでした。しかしフィールドワークを通して、触ったり、聞いたり、食べたり、嗅いだり、また、見たりすることによって、いつもとは違った面から植物を見ることもできました。

また、よりよい講義にするために、講義の課題、 それに対する提案も考えました。

一つ目の課題として、この授業が後期授業しかなく、後期授業といえば、10月から2月なのですが、季節ごとの植物が観察できないという課題があります。それに対する提案としては、前期にも授業を行うことにより、四季にわたる植物の観察を可能にしたらいいと思います。

二つ目として、解説はなされていますが、もっと植物について知ることができるのではないかと考えました。その提案として、白紙などの冊子を配布し、事前学習として植物を調べてくることにより、植物についてより深く知ることができるのではないかと考えました。

○野崎 そしてわれわれは、この講義を通して、大学の教養教育とはどうあるべきかについて考えました。企業が現在求めている能力と照らし合わせて紹介したいと思います。

まず第1番目に、発表する場の提供が必要だと考えています。その理由としては、発表の機会を多く学生に与えることによって、コミュニケー

ション能力が育まれ、社会進出を大きく促進できると考えているからです。

二つ目には、自主的な学習への転換が必要だと考えています。理由として、確かに専門科目においては座学が有効に働く場合もありますが、教養教育においては、こちらの画面にあるフィールドワークのような、学生主体の学びの形式を採ることによって、主体的行動力を育むことができ、それが将来、社会に役立っていくと考えているからです。

三つ目に、文系学生と理系学生の意見交流の場が必要だと考えています。その理由として、文系理系、お互いの考え方をお互いが獲得し合うことによって、ものごとを多角的に捉えることができるようになり、それが課題解決力につながると考えているからです。

つまりわれわれの意見をまとめておくと、教養教育とは、将来、学生が社会に出て行く際に必要なスキルを身につける教育であるというふうに考えています。

以上で発表を終わらせていただきます。ご静聴、 ありがとうございました。

2 人間と文化科目群 京都学「京都の歴史 I」 ○岡村篤(府・①) 菅原滉平(医・①)

○**岡村** それではいまから三大学共同科目、京都学のゼミである「京都の歴史」についての紹介を始めたいと思います。僕は京都府立大学生命環境学部農学生命科学科1回の岡村篤です。

○**菅原** 私は、京都府立医科大学医学部看護学科 の1回生、菅原滉平です。

○**岡村** それでは、講義についてどういうものなのか説明させていただきたいと思います。

この講義では、京都の原始時代から中世までの、 比較的に古い時代についての文化や災害、地理的 な歴史を学び、いまの京都がどのように形成され てきたかということを考えます。

この講義は3人の先生によるリレー講義で、3人×5回の計15回、各5回目の授業ではテストがあります。

この講義の途中で行われるクイズ形式の問題は とても面白く、学生に人気がありました。

この講義の受講生は 297 名という非常に多い 人数で、とても人気のある講義だと言うことがで きると思います。

僕たちなりに人気の理由を考えてみたのですが、

新入生歓迎会などで行われる履修登録の相談会において、多くの先輩がお薦めされるからだと思います。僕たちも先輩たちのお薦めを受け、二人とも京都の南部でいままで学んできたので、京都市内についてよく知りたいなと思い、この講義を選択しました。

続いて、授業の具体的な内容について話していきたいと思います。

○**菅原** 実際に講義のなかで取り扱われた山城地域の前方後円墳と、前方後方墳の分布について少し紹介させていただきます。

自分も含めて、山城地域から大学へ通う学生も 多く、知っていたり、訪れたことがある古墳も少 なくなくて、大変興味を持ちました。

これが分布図です。古墳時代は3世紀から7世紀とされています。それを前期、中期、後期と分割すると、その時期につくられた古墳を色分けしたら、順にこの図の青、赤、黄と図に表されます。これを通して、地域社会の構造を復元することができます。

こちらが都出比呂志さんによる古墳の階層構造です。そもそも古墳とは、有力者のお墓であって、かたちと規模の違いによって、その力の大小を表しています。この階層から、前方後円墳が最も有力であるものの墓だと簡単に分かります。

○**岡村** 続いて、京都の土地について話していき たいと思います。

京都の通りというのは条坊制になっていて、条は縦の通り、坊は横の通りを表しています。通りには「油小路」や「塩小路」など、「小路」という名のついた通りがあります。この「油」や「塩」といったものは、通りでよく扱われていた商品の名前であります。条坊制の道で仕切られた土地、こういう区画なのですが、この区画は町といわれていて、1町は120メートル×120メートルで構成されています。

1 町は 32 個に分けられていて、その一つの部分を戸主(へぬし)と呼びます。1 戸主はこの教室よりも少し大きい 15 × 30 メートルになっていて、昔の位の 3 位以上の役人の人は、1 町はもらえたといいます。

通りの中心を通っている朱雀大路は、いまの千本通であり、いまではあまり若者には知られない 通りではありますが、昔はとても栄えていたそうです。

そして朱雀大路を境に設けられた右京、左京は、ここにある大内裏から見て右京、左京と分けられ

ていて、東側にある左京の方から発展していった といわれています。いまの京都を見ても、東側の 方が栄えていると思います。

○**菅原** 最後に講義を通してですが、私たちはいままで京都で育ってきて、学んできて、ワードとしては知っているのですが、あまり深く知らなかったりして、知っていそうで知らないことが多く学べて、驚くことも多くありました。

また、京都という地域で学んでいますので、自然と興味を持つこともできました。また、通学時など、普段過ごすなかで、京都にある場所に出向くことができまして、より関心を高めることができました。これらによって知識、好奇心、自発性を、この講義を通して育むことができたと思います。またこれも教養教育課程においてとても重要な三本柱だと、私たちは考えました。

簡単ではありましたが、以上で終わります。ご 静聴ありがとうございました。

3 人間と社会科目群 京都学「医史学」○坂田苑子(医・③)

○坂田 それでは「医史学」についての発表を始めさせていただきます。私は京都府立医科大学医学部医学科3回生の坂田苑子と申します。

まず、医史学の授業について説明します。次に 医史学を学んで感じたこと。最後に教養教育にお いて医史学を通じて学ぶべきことについて述べた いと思います。

この授業の受講者は、ほとんどが医大生だということもあって、平成28年度は受講生が合わせて120人と、人気の講座となっております。

医史学では、京都における医療の歴史を系統的に講義しています。また、医療技術や制度、手法など、また、思想的背景も含めて学ぶものになっています。さらに私たちがどのように疾病を対処してきたかの歴史を学ぶことによって、文化としての医の本質を知ることが、この授業の目標です。

授業では、古代医療、中世医療、近世医療、近 代医療を時代ごとに学びます。授業の形態は講義が中心ですが、適宜参考資料を使用します。資料では、このスライドに載っている絵のような、当時使われていたものなどを見ることができます。

この絵について少し説明しますと、これは江戸時代に使われていたもので、足の部分にツボの場所が描かれているのですが、これはこのツボを押すと、こういう疾患に効くとか、そういうふうな

対応が、この書籍には書いてあります。

この絵を見るとお分かりになると思いますが、おなかのなかに胎児が描かれていますが、すごく曖昧で、あとは乳房の位置もものすごく、実際とは違うように描かれているので、この資料だけでも医学の歴史や発展を感じられるのではないかなと思います。

また授業中、先生は、単語しか板書をなさらないので、授業を聞きながら、自分で文章をつくってノートを取って、歴史の流れを頭のなかでつくることが必要になります。

次に、私が医史学を通じて学んだことですが、 医学は純粋な自然科学というだけではなくて、人 と向き合って発達してきた学問なのだなというこ とを感じました。

また、現代の医療は非常に多くの人々の功績の 上に成り立っていて、私たちが現代の先進医療を 享受できるのは、先人の方たちの努力のおかげで あるということを実感しました。

最後に、教養科目において、医史学を通じて学ぶことの意味合いについてお話ししたいと思います。この医史学は、医学に関わる授業ということで、医大と府立大、工繊大の学生さんに、それぞれ分けてお話ししたいと思います。

医大生に対しては、専門課程に入る前に、医学の科学的側面だけではなくて、医の歴史について学ぶことで、人類にとって疾病との戦いは永遠のテーマであり、人との関わりのなかで医学は発達してきたということと、そして現代の医療と昔の医療の姿は大きく懸け離れていたのだということなどを実感するのは、非常に有意義ではないかなと思います。

また、府立大生や工繊大生の方に対しては、この授業を通じて医の歴史の一端に触れていただき、たとえ医学と直接関係がなくても、各専門分野で学んだ知識を生かしていただければよいのではないかと思います。

以上で医史学についての報告とさせていただきます。ご静聴ありがとうございました。

4 リベラルアーツ・ゼミナール I 「感覚で探る 問題解決の方法」

- ○神田隼也 (府・③)、清瀧康太朗 (府・③)
- ○神田 それでは発表を始めさせていただきます。 京都府立大学生命環境学部、神田隼也と。
- ○清瀧 清瀧康太朗です。タイトル「リベラルア

ーツ・ゼミナール I 感覚で探る問題解決の方法」 で発表させていただきます。よろしくお願い致し ます。

○神田 よろしくお願いします。

○清瀧 画面のとおり発表させていただきます。○神田 まず、リベラルアーツ・ゼミナール自体の説明をさせていただきます。

三大学教養教育科目には三つの形式がありまして、講義形式、フィールドワーク形式、そしてゼミナール形式があります。リベラルアーツ・ゼミナールは、その名のとおり、ゼミナール形式の授業です。この授業では、学生少人数で討論、発表を行い、学生が主体となって授業が行われます。 ○清瀧 次に、リベラルアーツ・ゼミナール I についての説明を致します。

リベラルアーツ・ゼミナール I では、具体的な日常における身近な問題について、その原因と解決策を導き出すことを目的としていました。

まず、自らの身近な問題を取り上げ、中間発表を挟み、討論、調査分析を行い、自らで解決案を出し、講義で発表致しました。講義終了後はリポートを提出致しました。

〇神田 次に、リベラルアーツ・ゼミナール I の特徴です。リベラルアーツ・ゼミナール I は、先ほども説明したとおり、ゼミナール形式で行われるため、学生主体となって行われます。また、三大学の学生、文理が合同、また、学部学科が異なる学生も参加します。

また、ゼミナール形式ですが、かしこまりすぎない空気のなかで、自ら問題提起、原因分析、発表を行うので、個性を出すことができます。

こちらが授業風景の写真です。皆さまからご覧になりまして左側の写真が、感覚で探るということで、卵を触っている写真です。また、右側の写真は討論の様子です。

○清瀧 次に、リベラルアーツ・ゼミナール I で学んだことと、その成果をお話し致します。

異なる価値観を持った人たちと交流することで、 自分とは異なった考えを聞き、そして受け入れる ことができました。

また、事柄、今回では、自分の身の回りですが、 それを分析し、問題を発見すること。その問題を 自分の感覚を持ち、他者の意見を踏まえ、論理的 に解決する方法を学びました。さらに自ら発表し、 他者の発表を聞くことで、画面の使い方、興味の 持たせ方を学ぶことができました。

○神田 では、リベラルアーツ・ゼミナール I を

よりよいものにするために、次のことを提案致します。2回の発表の際、それぞれにおいて他人の発表を評価票の形式で評価致しました。

その際の形式としまして、従来のものは発表のできを評価し、意見がもしあれば書くというものでした。それを今後は、評価をチェックするだけに留まらず、よい点、改善点、また、解決案をしっかりと書くということを提案致します。

これは例えば、説明として、聞き取りにくいということを言われた場合、なぜ聞き取りにくいのか。例えば声が早すぎる、それか声が小さすぎるなどの問題点を具体的に書くということです。

()清瀧 その改善案を実行することで養われる姿勢や能力についてお話し致します。評価する側は漫然と、よくないで済ませず、声が小さい、早日など、具体的な根拠を示し、相手を納得させる力

また、相手の立場に立ち、発表者が取り上げた問題や、声が小さいなど、発表自体の問題に対する解決案を思考することで、問題解決シミュレーションとなり、解決能力をさらに身につけることができます。

が身に付きます。

評価される側は、声が小さいならば大きくする、早口ならゆっくり話すなど、改善がしやすいです。また、自らの問題点について別の解決案を取り入れることができます。

ここまでのことを踏まえまして、僕たちの思い と致しましてはゼミ形式を増やして、です。

○神田 最後に、大学教育への提言を致します。 今回のリベラルアーツ・ゼミナール I を受講致し まして、こちらの五つの能力が身についたと思い ます。

教養教育を主に受講する 1、2回生の間に、こうした能力をもっと身につけるために、より多くの選択肢のなかからゼミ形式の授業を増やしていっていただきたいと思います。ですが、現状では、教養教育でゼミ形式の科目は少ないように思われます。ですから、このような力を、また、姿勢を養うために、あらためまして、ゼミ形式を増やしてくださいということを述べさせていただきます。以上で発表を終わります。ご静聴ありがとうご

5 学生シンポジウム 「人・サル・植物の関係 から知の源流と未来を探る」

○伊藤あかね(エ・③)

ざいました。

○伊藤 では、発表を始めさせていただきたいと 思います。こんにちは。京都工芸繊維大学応用生物学課程3回生の伊藤です。私からは、三大学協同で行った学生シンポジウムへの参加を通して感じたことなどをご報告させていただきます。

発表項目はこのようになっております。

それではまず、シンポジウムの概要について、ご説明致します。本シンポジウムは2015年11月8日に、こちらの稲盛記念会館にて開催されました。教養プログラムの一環として、京都府立大学、京都工芸繊維大学、京都府立医科大学の三大学の学生が集まって、人とサルと植物、この三者の関係性に着目しながら、知とは何かについて考えました。

目的としましては、学生自らがテーマを設定し、そのテーマに沿って見いだした課題を解決することで、問題解決能力を育成するというものです。私たちは知の源流を探り、人、サル、植物の関係について考えるという全体テーマに基づき、各グループで設定したテーマに沿って知を定義し、フィールドワークやインタビューなど、既存のメディアだけに頼らない方法で調査を行いました。

また、シンポジウムでは、コメンテーターとして京都大学総長の山極先生と、京都府立大学客員教授ならびに京都府立植物園名誉園長である松谷先生をお招きして、全グループの発表後に先生方を交えてパネルディスカッションを行いました。

続いてグループでの活動について、お話しします。AからDまでの四つのグループに分かれて、それぞれがテーマを設定し調査を行いました。こちらに示しているのが、各グループが設定したテーマになります。

私が活動していた D 班というのが、こちらの 高山における環境の変化と適用の連鎖 - 比叡山を 通してヴィルンガ山地の未来を考えるというテーマを設定しました。

こちらが各グループの研究概要になります。ご覧いただいていますように、各グループがさまざまなテーマで調査を行いました。ここでは時間の関係上、私が活動していた D 班の活動についてお話ししたいと思います。

私たちのグループは、知を環境に適用する能力 というふうに定義しました。ここでの環境の意味 として、身近な山である比叡山に着目し、人とサ ル、植物の関係性について考えることにしました。

山に着目した理由としまして、人が環境変化の原因となった具体例であるということがあります。

加えて、世界の山々が抱える課題について広く 調査を行うなかで、アフリカのヴィルンガ山地が 複数の課題を抱えているという事実を知りました。 この現状を踏まえて、比叡山の現状と照らし合わ せながら将来を予想し、人とサル、植物が調和の 取れた関係を築いていくための具体的な解決策を 模索しました。

この調査の一環として、比叡山のフィールドワークを行いました。ここでは実際に生息する動物 や植物を調査し、また、比叡山延暦寺の管理部主事である武円超氏に、比叡山のかつての姿や現在の様子、また、現状から想像される未来に関してお話を伺いました。

実際に訪れることで、本やインターネットを通して間接的に知るのではなくて、直接目で見て、 どのような植物や動物が生息しているのかを知る ことができました。

インタビューを通して大きな成果が得られたと感じていた私たちでしたが、ここで一つ問題が生じました。あとで気づいたことなのですが、資料として撮ってきた写真は、このような比叡山の自然を写したものばかりで、肝心のインタビューの様子を撮り損なっておりました。それだけではなくて、誰がフィールドワークに行ったのか、調査した人物を収めることを失念しておりまして、このように手だけが写っているという状況になってしまいました。

その結果として、もう一度比叡山に行くことになりました。こちらがもう一度お伺いしたときに撮影したものです。ちゃんと収めることができました。

こちらの写真です。左側のシカの写真は武円超 氏が撮影したもので、資料としていただきました。 右側は比叡山を写したものになります。かつて比 叡山にはサルの群れが多く生息していたのですが、 現在はシカが増えてしまって、サルはいなくなっ てしまったというお話でした。

また、比叡山の境外林は、そのほとんどが、かつては自然林だったのですが、現在では約9割が人工林になっておりまして、このいまの状態を、かつてのような自然林に戻すことは、もうほぼ不可能であるとおっしゃっていました。

では最後に、今回の活動を通して学んだことについて、お話ししたいと思います。今回、フィールドワークやインタビューを通して、直接情報を得ることの重要性に、あらためて気づくことができました。

インターネットが普及している昨今は、第三者に直接話を聞くことによって生きた情報を得るという体験がなかなかできるものではありません。特に私たちのような若い世代は、人に尋ねるというよりも、常に情報が錯綜しているインターネットに答えを求める傾向にあります。

自分の足で直に情報を得ることによって身近な話題であるという意識を持つことができますし、また、得られた情報に対して、より現実味を感じることができると思いました。そのような意味において、直に情報を得るということは非常に重要であると言えます。

また、このシンポジウムを通して、学生が求める大学教育について考えを深めることができました。ここ数年は特に、私たち学生にはコミュニケーション能力や問題解決能力が求められていると感じています。しかしながら、これらの能力を向上させる機会がなく、また、能力を高めるために具体的にどうすればよいかということを学ぶというのも、これまでありませんでした。

今回の活動は、そうした能力を高める絶好の機会であったと思う一方で、大学教育において、このようなプログラムが非常に重要であり、専門教育とは別に学生が必要としている教育であるということを、痛切に感じました。

私は大学初年次教育の一環として、コミュニケーション能力や問題解決能力を高められるような参加型の講義が必要であると考えます。参加型の講義において、学生には自ら課題を設定し、自らの足で情報を集め、仲間と協力しながら解決策を模索するという力が求められます。

そういった活動は、その後の研究活動において 必須のスキルだけではなくて、このような力や姿 勢というものを身につけることにつながると思い ます。人材育成を担う大学にとっても、スキルを 身につけたい学生にとっても、このような参加型 の講義は重要な役割を果たすのではないでしょう か。

ご報告は以上になります。ご静聴ありがとうございました。

- 6 学生による新入生歓迎講演会「なぜいま民主 主義が問われるのか?~若者に求められる批 判的思考力」
- ○杉山東洋(府・②)
- ○杉山 皆さんこんにちは。京都府立大学文学部

欧米言語文化学科 2 回生の、杉山東洋と申します。本日は、今年の 4 月に開催されました内田樹講演会について、新入生歓迎講演会の報告というかたちで発表させていただきます。よろしくお願いします。

まず、こちらのポスターですが、4月18日、 思想家であり武道家でもある内田樹先生が三大学 に来るということが書いてあります。このポスタ ーは、僕がパワーポイントでつくりました。手づ くりでつたないものですが、先生と何度も推敲を 重ねつくったものです。

内田樹先生は、フランス思想とアメリカ思想の専門家でありながら、合気道の師範でもあるという異色の人物です。彼の著書『街場のアメリカ論』や『街場の戦争論』、『属国民主主義論』などでは、鋭い切り口から明快な論理が展開されており、日本とアメリカの関係や原発問題などについて、中学生から老人でも、するりと分かるような内容が書いてあります。僕自身、高校生のときに、内田樹先生の『下流志向』を読んで、この人に憧れていました。

そんな先生の話を生で聞き、そしてそのあと、 集まった人たちで討論をしながら、先生に質問を 投げかけるという形式の講演会をするということ は、憧れの思想家、内田樹先生を、さらに自分の 手で行うということは、まさに夢のような企画で した。

しかしそれはなかなか簡単なことばかりではありませんでした。学生の手と足でつくられた自主企画。この講演には、僕ともう一人の京都府立大学公共政策学部公共政策学科の北野史也先輩で行った、さまざまな努力の末に行われました。

北野史也先輩は、僕が大学に入学する前、1回生のときから一から企画書を制作し、三大学共同化の事務局や、府立大学学長へ申請、さらに内田樹先生のご自宅に向かい、先生の交渉を一人で行われました。

僕はといえば、ポスターを作成したり、当日までに内田先生とメールで打ち合わせをするということがありました。

こうしてまとめてみますと、とてもスムーズに 事態は進行したかのように見えますが、実際、多 くの失敗があり、例えば僕は、内田樹先生の部屋 へ行ったときに、内田樹先生の持っているあまり のパワーと熱気に圧倒されて、しどろもどろに本 の感想を言うことしかできず、とても苦い思い出 となりました。 また、その下にある報知活動の例と致しましても、なかなか初動が遅かったこともあり、いくつかの大学や記者クラブなどでは、報知が十分になされなかったこともありました。しかしながら、自分たちでできる範囲で広報しようと思い、Twitterを利用した広報活動や、学内の生協の掲示板に働き掛けなどをしました。

そうした活動のなかで、不安もありましたが、 当日を迎えることになります。そうしますと、当 日の雰囲気はとてもよいものでした。老若男女が 自由に交流しており、例えば奈良県からいらした 教師の方や、退職なされたご夫婦、また、一人で 来られた高校生のお嬢さんなどがおり、そうした 人たちが自由に、いまの社会についての不安や楽 しみなど、時には笑いを交えながら交流して、そ の交流から出た疑問を内田先生に投げ掛けるとい うかたちで講演会は進みました。

この写真は、講演会のあとに撮ったものです。 真ん中右側が内田樹先生、そしてそのさらに右側に立っておられるのが北野史也先輩です。そして 内田樹先生の左側にいるのが私であり、私の左側 にいるのは、同級生で放送部所属の、司会を務め てくださった渕上紫乃さんです。

こうした、全てを学生の手でつくり上げた講演会は、失敗と成功、そのどちらも経験することとなりました。

そしてそのような場を提供してくださった教養 教育への私の思いを、最後に語りたいと思います。

私は、教養教育の継続を心から願っています。それはなぜなら、教養教育が1年や5年、10年といった短いスパンで効果を出すものではないからと思っているからです。先ほど石田先生は、学生はエネルギーを与えられれば動き出すとおっしゃられていましたが、全ての学生がエネルギーを与えられて動き出すとは限らないと僕は思っています。場合によっては、まったく動かないこともあるし、マイナスの効果を生むこともあるかもしれません。

しかしながら、三大学で行われる多種多様な科目に、多種多様な人材が組み合うということは、確実性はないにしても、未知の可能性を秘めていると僕は思っています。

そして、「未知」の「未」という字は、僕は「未来」の「未」だと考えています。確実性はありませんが、先ほどの石田先生のお話の例にもありましたように、とてもすごい効果を生むこともあると思います。

ですから、教養教育の「教養」という言葉は、これまでの、個人の現実主義的な気品を高めるものという意味ではなく、未来へつなぐ、新しい、生涯にわたった教育のスタート地点になると僕は思っています。そうしたことを考えさせてくれた教養教育に僕はとても感謝しています。

この僕の発表が、これまでの教養教育への恩返 しとなり、今後の教養教育の継続に寄与すること を、強く願っています。

これで僕の発表を終わります。ありがとうございました。

7 綾部市での宿泊研修

○金子倫敦 (府・②)

○金子 こんにちは。非常に緊張しておりますけれども、いよいよ最後ということで。京都府立大学森林科学科2年生の金子倫敦と申します。非常にまだまだ未熟者ではございますが、なにとぞよろしくお願いします。ありがとうございます。

では、宿泊型研修についてのご報告をさせていただきます。

まず合宿研修の概要から説明させていただきます。2016年9月15日と16日、ちょうど夏休みのころに、京都府綾部市にて行われました。参加者は京都府立大学、京都府立医科大学、京都工芸繊維大学から、合計で20名ほどの参加をしていただきました。

研修の目的です。一つ目は、山間部における農林業の現状の把握。二つ目は、三大学の学生同士での交流。この二つを目的に行われました。

では、この合宿研修の成果について、お話しさせていただきます。可能性を信じること。これを学んだことが成果と言えます。

では、このことについてお話しする前に、合宿 研修の流れについてお話しさせていただきます。 研修 1 日目。私たちは綾部市の古屋という集落 に行きまして、そこで村長さんのお話を聞いたあと、先ほど石田先生からお話がありましたように、山に入り、トチの実を拾うことを体験しました。 本当に非常にきれいな景色で、水も飲めますし、心が動かされるような山でした。

それから黒谷という地域に移動しまして和紙づくりを体験し、夜はワークショップで、一人一人が集落の抱える問題点の解決方法を発表しました。

研修2日目です。古民家の見学。綾部市というのは古民家が非常に多くて、それの見学を行い

ました。そして民宿の見学も行いました。それから、ご存じの方はいらっしゃいますね。綾部市から発祥したグンゼという大企業があるのですが、そこの資料館、グンゼ資料館の見学を行い、みんなで仲よく昼食を食べました。非常においしかったです。

さてでは、可能性を信じること。このことについてお話しさせていただきます。まず、どのようにして、この可能性を信じることというのを学んだかといいますと、研修1日目の村長さんのお話からです。

古屋という集落は12年前、限界集落に指定されました。集落に住んでいる人間はたったの5名。男性はこの村長さん1名。女性は4名。全員が70歳以上の高齢者。まさに限界集落でした。その12年前当時は閉塞感、絶望感、諦めに満ちあふれていた村で、訪れる人もおらず、家族もみんな町に出てしまいました。そんな町でした。

それがいまでは、先ほどのトチの実拾いのツアーを企画したり、トチの実を使った特産品を販売したりで、年間3千人もの人間が村に訪れる、そのような集落になっています。村おこしに成功したと言えるでしょう。

僕はこの村長さんに質問しました。なぜ村おこしができたのか。村長さんは、しばらく考えました。言葉に詰まっておられるようでした。そして泣き出しました。涙を流しました。初対面の、自分よりも何十歳も下の人間を相手にして、普通は泣きますか。なかなか泣かないと思います。僕はそれでも涙を流される姿に、すごく衝撃を受けました。

泣きながら、徐々に、詰まりながらも語り始められました。一人が怖い。社会とのつながりが断たれることが怖い。自分の村が廃村になることが怖い。

それまでは、例えば村が、村おこしでやってきたこと。トチの実、特産品の紹介など、古屋のことをすごく生き生きと語っておられたのです。でも、この「一人が怖い」という話をされたとき、すごく弱々しく見えたのです。僕はそのギャップに衝撃を受けました。

この「一人が怖い」というところからなのですが、一人は怖いからこそ、例えば年齢。70歳以上の女性しかいない。例えば環境。山のなかにありアクセスが悪い。そういう、できない理由ばかり探すんじゃなくて、自分たちに何ができるのか、自分たちに何が残されているのか、自分たちの可

能性を探し、それを見つけ、信じ、行動する。そういう考え方に切り替えられたそうです。僕はこの話を聞いて、本当にこの話が心に焼き付きました。

なぜこれが成果と言えるのか。この、可能性を信じることというのは、これから先の僕の大学生活、そして大学生活を終えて社会に出てからの生活において、すごく大きなパワーを秘めていると思ったからです。

では次に、この宿泊型研修の今後について少しお話しさせてください。僕は三大学の学生の、より盛んな交流が求められるのではないかと思いました。参加した人たちみな、この研修から必ず何かを感じたはずです。それだけ意義のある研修でした。でも、やはり少し、合宿が終わってから、三大学の学生間での交流というものが、あまりなかったのではないかという印象を受けています。

ではどうすればよいかといいますと、合宿の前後で交流し合う。合宿前であれば、研修内容について予習する。合宿後であれば、自分たちが何を学んだのかを、あらためて発表し合う場。それを、報告書というかたちももちろんあるのですが、報告書だけではなくて、学生同士でそれを発表し合う。そういう場をつくれば、もっともっとよりよい研修になるのではと思いました。

最後になりますが、僕はこの研修は本当に価値 のあるもので、もっともっと可能性を秘めている ものだと思います。ですから、今年で終わらせる のではなく、毎年毎年継続して行いたいですし、 その企画を先生方に任せるのではなく、自分たち 学生で主体的に何か創造していく、つくっていく ということをしていけたらいいなと思います。

僕からは以上です。ご静聴ありがとうございま した。

※工=京都工芸繊維大学、府=京都府立大学、 医=京都府立医科大学。丸数字は学年。





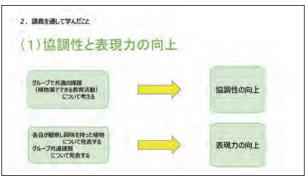
















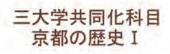












京都府立大学 生命環境学部 農学生命科学科 1回 岡村 篤 京都府立医科大学 医学部 看護学科 1回 菅原 滉平



京都の歴史Ⅰの紹介

• 京都の原始時代から中世までの比較的古い時代の歴史

・京都が形成される基盤を考える

・3人の先生によるリレー講義

講義中のクイズ

人気の高い講義

·条坊制

·右京·左京

身が不満計り変から、原田 実際のあけばの、原田 変形の場合・変数 を行うな場合・変数 がいうます。 支金布度田川 能でいるまでの東部は他の変換 能ではなっていて、原田 能ではなっていて、東田 を認めて使えるでの東部は他の変換料を中心には、様本が 手が取りを使える。 最大のような またのまります。



講義を通して

- 知っていそうで知らないことが多い
- ・京都という地域で学ぶので自然と興味を持つ
- ・京都にある場所に出向くことでより関心が高まる



知識、好奇心、自発性

医史学

京都府立医科大学 医学部 医学科3回生 坂田苑子

目次

- 1. 医史学の授業の紹介
- 2. 医史学を学んで
- 3. 教養教育における医史学のありかた

1. 医史学の授業の紹介

- 受講者...計120人(平成28年度)
- ・京都における医療の歴史を系統的に 講義する 医学技術や手法だけでなく、制度や 施設、思想的背景も含む
- 私たちがどのように疾病を対処してきたかの歴史を学び、文化としての医の本質を知る



- 古代医療、中世医療、 近世医療、近代医療を 時代ごとに学ぶ
- ・講義が中心であるが、 適宜参考資料を使用した



2. 医史学を学んで

- ・医学は純粋な自然医学ではなく、人と向き合って発達する 学問である
- 現代の医療は非常に多くの人々の功績の上に成り立っており、私たちが現代の先進医療を享受できるのは先人たちの努力のおかげである

3. 教養教育における医史学のありかた

・医大生に対して...

医学の科学的側面だけでなく歴史について学び、医が人との 関わりの中で発達してきたことを知るのは有意義である

・府立大生、工繊大生に対して... 医の歴史の一端に触れて、各専門分野で学んだ知識を生か して欲しい

リベラルアーツ・ゼミナール I ~感覚で探る問題解決の方法~

京都府立大学 生命環境学部 生命分子化学科 3回生 神田隼也 清瀧康太朗

日次

- リベラルアーツ・ゼミナール I の紹介
 1-1、リベラルアーツ・ゼミナールとは
 1-2、リベラルアーツ・ゼミナール I とは
- 2. リベラルアーツ・ゼミナール I で学んだことと成果
- 3. リベラルアーツ・ゼミナール I への提案
- 4. 大学教育への提言

1-1. リベラルアーツ・ゼミナールとは

三大学教養教育科目3つの形式

講義形式

フィールドワーク形式

ゼミナール形式

一般的な講義形式。

教師1人、学生多数の 外に出て、知識を得る。 実際にものに触れ、感じる

学生少人数で、討論・ 発表を行う。学生が主

学生は受け身になるこ ことで新たな知見を得る。

1-2. リベラルアーツ・ゼミナール I とは②

特徴

- ・ゼミナール形式 = 学生主体
- ・三大学(京都工芸繊維大、京都府立大、京都府立医大)の交流
- ・文理の混合
- ・個性を出せる

2. リベラルアーツ・ゼミナール I で学んだこと・成果

- 様々な価値観を持った人との交流 新たな価値観の受容
- ·問題発見·課題解決 分析から問題提起 感覚を用いて、論理的に問題解決
- 自分の意見を相手にわかりやすく伝える方法 画面の使い方、興味の持たせ方

改善案によって

- - 発表を分析し、論理的に相手を納得させる力が身につく 問題解決シミュレーション
- ・評価される側(発表者) 具体的な指摘によって改善しやすい 異なる視点からの意見を取り入れられる(柔軟性・複眼的思考)

大学教育への提言

- ·論理的思考
- ・主体性
- •複眼的思考
- •柔軟性
- ・コミュニケーション能力

1-2. リベラルアーツ・ゼミナール I とは①

目的

具体的な日常における身近な問題について、原因と 解決案を見つける

概要

問題提起 二〉 討論 二〉調查分析 二〉 中間発表 二〉 討論

□ 調査分析 □ 解決案 □ 最終発表 □ レポート提出

授業風景



感覚で探る



3. リベラルアーツ・ゼミナール I への提案

評価票の形式変更

従来

改善案

発表の出来を評価 意見があれば書く

評価内容をチェック 良い点・改善点の記入 解決案の記入

ゼミ形式を増やして!

ゼミ形式を増やして!

学生シンポジウム

一人・サル・植物の関係から知の源流と未来を探る-

京都工芸機維大学 応用生物学課程 3回生 伊藤あかね

1. シンポジウム概要

開催日:2015年11月8日

場所:福盛記念会館 2階 208教室

京都工芸繊維大学(5名)、京都府立大学(7名)、京都府立医科大 学(8名)の計20名の三大学の学生が協同でテーマ設定から調査 までを行い、「知とはなにか」について考えるシンボジウム

- 「知の源流を探り、ヒト・サル・植物の関係について考える」
- ・調査方法:フィールドワークやインタビューなど

京都大学総長・山極壽一先生

京都府立大学客員教授 京都府立植物園名誉園長、松谷 茂先生

2. グループでの活動概要

各グループの研究極重

A班: 植物が触覚をもつと仮定し、触覚的な生存戦略を用いた 製品を提案

B斑: サルとヒトの味覚の一致を確認

- ・植物はサルなどの味覚を利用して発展してきた。
- ・食の簡便化や娯楽化は、調理という食に対する余裕と共に 生まれてくる文化である。
- C班: 知を協調性ととらえ、ヒトとサルの違いや植物の役割を模索 ・植物のもつストレスを緩和する効果を利用することで、ヒトの 協調性を高める可能性を示唆。

2. グループでの活動概要(D班)

2) 比叡山でのフィールドワーク

- ・山中に見られる植物動物についての調査
- ・延暦寺管理部主事 武円超氏にインタビュー

- ・調査資料となる写真を取り損なってしまった
- →再度、比叡山を訪れることに



2. グループでの活動概要(D班)

3) 延暦寺管理主事 武円超氏へのインタビュー





シカ 撮影: 武円超 氏

目次

- 1.シンボジウム概要
- 2. グループでの活動概要
- 1) 知の定義とテーマ設定
- 2) 比叡山でのフィールドワーク
- 3) 有識者へのインタビュー
- 3. 活動を通して学んだこと
 - 1) 直に情報を得ることの重要性
 - 2) 学生が求める大学教育とはなにか

2. グループでの活動概要

各グループのテーマ

A班「触れているようで触れられている!?一種物の生存戦略」

B班:「味覚から考える食への工夫ーサル、ヒト、植物とおいしさ」

C班:「Hand in hand一協調性を考える」

D班「高山における環境の変化と適応の連鎖ー比叡山を通して ヴィルンガ山地の未来を考える」

2. グループでの活動概要(D班)

1) 知の定義とテーマ設定

- ・知=「環境に適応する能力」と定義
- ・山地→ヒトがその環境変化の原因となった





2. グループでの活動概要(D班)

3) 延暦寺管理主事 武円超氏へのインタビュー



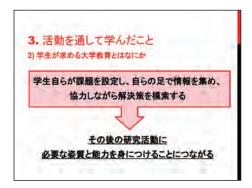
3. 活動を通して学んだこと

1) 直に情報を得ることの重要性



ラン(花)とサルの接触を実演







内田樹講演会 について 新入生歓迎講演会 報告

2016 11/19

京都府立大学文学部 欧米言語文化学科 2回生 杉山東洋







<二人の大学生>

北野史也・・・①一から企画書を作成し、三大学共同化 の事務局や府立大学の副学長へ申請 さらに、②内田樹先生のご自宅に向かい、先生との交渉 を一人で行う。③ツイッターを利用した広報活動も実行。

杉山東洋・・・①ポスターを作成②講演会ポスターの掲示を 様々なところに出向きお願いする③当日までに 内田樹先生とメールで打ち合わせをする。

報知活動の例

- ・京都三大学の生協、掲示板・立命館大学、京都大学等の他大学
- ・京都府立図書館 ・京都新聞記者クラブ
- ・ミシマ社 ・大学コンソーシアム京都

私から、教養教育への思い

三大学共同事業

宿泊型研修についての ご報告

京都府立大学生命環境学部森林科学科2年金子倫敦

合宿研修の概要

合宿研修の概要



2016年 9月 15・16日

京都府綾部市

研修の目的

研修の目的

①山間部における農林業の 現状把握

②三大学の学生同士での 交流

成果

可能性を信じること

合宿研修の流れ

研修1日目

研修1日目

村長のお話



研修1日目





研修2日目

研修2日目





研修2日目





可能性を信じること

研修1日目



村長のお話

なぜ村興しが出来たのか?

「ひとりは恐い」

出来ない理由探し



自分たちの可能性を 信じ行動する なぜ成果と言えるのか?

なぜ成果と言えるのか?

「可能性を信じること」が 大きなパワーとなる ため

研修の今後の 課題

研修の今後の課題

三大学の学生間のより盛んな交流

合宿の前後での交流

最後に

継続して行い より良い研修を 創ってゆきたい

ご清聴ありがとうございました



○三大学教養教育運営協議会専門委員 同志社大学副学長 圓月勝博

○**圓月** ただいまご紹介にあずかりました同志社 大学の圓月と申します。この協議会の専門委員を 拝命し、大変光栄に思っています。

事業の内容については、石田先生と大倉先生か ら熱心なご報告をいただきました。さらに、たっ た今、学生さん7組から非常に元気のよいご発 表をいただいたことで、本事業の充実ぶりは既に 十分に確認できたものと思います。この種の教育 関連の企画は、学生さんの生の声を聞いたところ で終わるのが一番良い、というのが私の持論です。 最後に評論家のような大人が出てきて、話を小賢 しくまとめようとすると、優れた教育活動だけが 持つ熱気と臨場感がかえって失われてしまうから です。そのような意味で、私は本来なら出てこな いほうが望ましいのですが、15 分ほど話をする ようにと仰せつかってご招待していただいており ますので、蛇足であることは重々承知の上で、個 人的な感想に近い意見を述べさせていただきたい と思っています。

この教養教育共同化の特色は、三つに要約できるでしょう。一つ目の特色は、京都を代表する個性ある三大学が連携しているということです。大学事情に少し詳しい方なら、すぐにお分かりいただけるように、国立大学と公立大学という設置形態が違う大学が連携することは、色々な点で意外に難しいことなのですが、それが見事に実現しているということは、画期的なことなのです。

とりわけ京都府立医科大学がこの連携事業に積極的に参画し、成果を着実に積み重ねておられることは、特筆に価するでしょう。中間報告では、今後のこともあるので、ささやかな不安を表明しておきました。これは、京都府立医科大学が悪いのではなくて、医科大学特有の問題があるからです。医科大学は、カリキュラムが非常に窮屈なのです。その上、学事暦も違います。私は大学基準協会で、大学の機関別認証評価にも関わっていたとき、報告書のなかに大学連携についてまったく記述がありませんでした。そこで、実地視察のとき、大学連携に取り組むご計画はお持ちではないのですか、と尋ねたら、「ないです」と即答なさったので、いささか面食らった経験があります。医科

大学は、極めて厳格な国家試験を目指した緻密なカリキュラムが編成されているので、その編成と運営において、自由裁量の余地が非常に小さくなるのです。ですから、本日、京都府立医科大学の方も来られて、発表もなさっておられたことは、非常に画期的なことで、ここに至るまでには、関係者の並々ならぬご努力があったものと推察します。中間報告における私の不安が杞憂に終わって、胸をなでおろしました。まず、本事業をここまで育ててこられた関係者の皆様に心から敬意を表したいと思います。

二つ目の特色は、京都の特長を生かした教育プログラムであることです。京都という町にとって、教育はとても重要な文化です。大学コンソーシアム京都という大学連携組織があり、京都府立大学の副学長をなさっている野口先生とご一緒に委員をさせていただいていますが、そのキャッチフレーズは、「大学のまち・学生のまち」です。政令指定都市のなかで、人口の10%以上を学生が占めている都市というのは、全国でも京都だけだからです。京都は、学生さんの若いエネルギーで支えられている町ですから、その若いエネルギーを真正面から受け止めることが私たちの使命なのです。

さらに、これは私が言うまでもないことですが、京都は、日本を代表する文化都市であり、世界の観光都市でもあります。文化資源の宝庫なのです。京都府立大学副学長の野口先生と私は、英文学が専門なので、英単語の話をさせていただくとするならば、"Culture"という英単語には、「文化」とともに「教養」という意味があります。文化こそ教養なのです。英語を勉強してきた者としては、「文化」教育が「教養」教育になっている本事業は、語学的にも正しいことが嬉しくて仕方がないわけなのです。

昨今、京都に文化庁の移転が決まりつつあるという追い風も吹いているので、京都が次世代の日本の文化の首都になるくらいの心意気で、みんなが力を合わさなければなりません。その時代の先頭に立っているのが、京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学が一丸となって推進なさっているこの教養教育共同化であることは間違いありません。実は、私の本務校である同志社大学も、地域に密着した教養教育プログラムの開発に取り組んでいるのですが、悔しいけれども、京都を代表する国立と公立の三大学にチームを組まれてしまうと、私立大学一つではとても勝てそう

もありません。是非とも頑張っていただいて、大学教育の新領域を開発し、京都の私立大学にもそのモデルとノウハウを提供していただきたいと願っています。

三つ目の特色は、カリキュラムのバランスが質量ともにとてもよいことです。先ほど、具体的な内容については、学生さんから元気なお話をうかがい、多彩な教育プログラムであることは、皆様にもご理解いただけたでしょう。カリキュラムをあらためて拝見すると、「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の各科目群にそれぞれ 20 科目程度がバランスよく設置されていて、教養教育プログラムとして模範的であることが確認できます。

教養教育とは何か、と大上段にふりかぶって学問的な議論をし始めると、百家争鳴状態になってしまいますが、特定の分野に偏らず幅広く学び、汎用的な学力を育成することを目的とする教育であるという基本的な点に関しては、それほど大きなご異論はないものと思います。人間力の育成が目的と言い換えてもよいかもしれません。その点で、すべての科目群が「人間と…」というネーミングになっていて、「人間」を常に中心に据えて、カられるところに本事業の見識が示されています。歴史的に言えば、教養教育とはリベラル・アーツとはヒューマニズム教育の目的は、人口であることです。教養教育の目的は、大いに感心しています。

「文化」「社会」「自然」という様々な文脈の中で、 人間について考え直そうとする姿勢には、教養教 育の魅力である脱領域性があります。本日、学生 さんからも、石田先生からも、大倉先生からも、「文 理融合」という言葉が口にされていましたが、本 事業の根底には脱領域性志向があることを端的に 物語っていたように思いました。ちなみに、私の 狭い経験から言って、理系の学生さんが文系の学 問に触れることは、教育効果が高い場合が多いの ですが、逆に、文系の学生さんが理系の学問に触 れるほうは、あまりうまくいかないことが多いよ うです。最初に基本的な数式などでつまずいて、 そのまま終わってしまうのですね。このような「文 理融合」の非対称性をどのように克服していかれ るか、お手並みを拝見させていただきたいと思い ます。

カリキュラムのバランスの良さという点で、特 筆に価する試みとして、「リベラル・アーツ・ゼ ミナール」にも注目すべきかと思います。教養教育と言うと、とかくマスプロ教育のイメージがありますが、その通念を打ち破ろうという画期的な科目です。先ほどの学生さんのご発表の中でも、ゼミ形式の講義を増やしてほしい、という切実な要望もあったように、学生さんのニーズにも応える優れた取組です。是非とも増やす方向でお考えください。ただし、できることなら、教員もみんな少人数で密度の濃い授業をしたいという夢を持っているのですが、クラス数の増加は、担当者の負担や教室の確保など、運営上の制約もあることを学生さんにも理解しておいていただきたいとも思います。

「京都学」も京都三大学の連携ならではの個性的な科目です。冒頭にも言ったとおり、京都の文化は教養教育の教材の宝庫ですので、それを活用なさった科目を積極的に推進なさっていることは、正鵠を射たすばらしい科目編成が実現している証拠になっています。先ほどの学生さんの生き生きとした報告を聞いて、その趣旨が学生さんにもよく伝わっていることを確信いたしました。

さて、このような三つの特色を持つ立派な事業 ですので、その成果についても、三つの点を挙げ ておきたいと思います。一つ目の成果は、「異文 化交流としての大学連携」が着実に推進されてい ることです。使命も設置形態も異なった大学が連 携なさっているということ自体が異文化交流のモ デルとなっていると考えてよいでしょう。医大の 学生さんは、優れた能力をお持ちなのだと思いま すが、非常に厳格なカリキュラムの中で学生生活 を過ごしておられますので、専門が異なる学生さ んと交流する機会が比較的少なくなりがちだと思 いますが、今後、幅広い医療活動に携わる上で、 異なった分野の学生さんと一緒に学ぶことが大き な財産になるはずです。また、たとえば、文学部 の学生さんは、農学部の学生さんがどのような勉 強をしているのかについて、直接話を聞く機会は、 一部のサークル以外にはなかなかないのですが、 一つの学びの場の中で、対等に語り合うことがで きるということは、かけがえのない体験になるで しょう。そして、そのような同世代の異文化交流 が新たな学問や知を生み出していくことを期待し ています。

二つ目の成果は、「地域に密着したグローバル 文化」の探求です。近年、グローバル教育という 言葉は、食傷気味になるほどよく使われますが、 ともすると英語が上達することだけがグローバル 教育であるかのような意見もあり、いささか物足りなさを感じることもあります。もちろん、英語がうまければうまいほど、活動範囲が広がるのは事実ですが、その英語を使って語る内容をしっかり習得することがそれ以上に大事なことだと思います。世界の文化都市である京都という地域に密着した学びの場の中で、世界に発信するべき内容を学ぶということが本事業では明快に意識されています。これからも、この優れた取組を持続的に発展させて、京都から世界に羽ばたく若者を育成していただきたいと強く希望します。

三つ目の成果は、「学生の主体的な学びの促進」が実現されている点です。本日、7組の学生さんのご発表を聞いて、学生の主体的な学びの促進が大きな成果を生んでいることは、誰の目にも明らかであろうと思います。特に個性的な点は、正課授業だけではなくて、非正課の自主的な活動にまで、その波及効果が及んでいることです。本事業が新たな学びの共同体を創造し始めていることは、大学教育改革のあるべき姿を示しています。

最後に、今後の課題についても、指摘するようにと依頼されているので、僭越ではありますが、 あくまで私見ということで述べさせていただきます。これも三つ準備しました。

一つ目の課題は、大倉先生と石田先生も言及なさっていましたけれども、教養教育の学修成果をどのように測定し、発信していくかという問題です。教養教育が重要であることは、私も含めて多くの方が主張しているのですが、現在の大学教育論の中で常に守勢に立たされてきた最大の理由は、成果を客観的に測定することができないからです。教養教育の成果と言うと、いつか何かの役に立つはずだとか、非常に主観的で曖昧な説明になってしまうので、いつ何の役に立つかを明確に示したキャリア教育を推進する人たちと論争すると、旗色が悪くなってしまうのです。

たしかに、学修成果を明確に示せないということを逃げ道にして、従来の教養教育が改革を怠り、社会の信用を失ってきた面があるのは事実ですので、その点は関係者が大いに反省する必要があります。ブラックボックス化してきた教養教育の見える化を目指して、こちらのIRセンターにおられる児玉先生は、大学教育学会などで、実学と教養教育の関わりについて、ずっと報告を続けておられますが、そのような研究もさらに続けていただきたいと願っています。教養教育の説明能力を高めて、国民や府民に対する説明責任を果たす努

力を続けていただきたいと思います。

二つ目の課題は、教養教育とアクティブ・ラー ニングの方法論化を推進することです。現在、ア クティブ・ラーニングあるいは能動的学習という 概念が流行語のようになっています。流行に迎合 する必要はないのですが、本事業の「リベラルア ーツ・ゼミナール」などは、アクティブ・ラーニ ングを明らかに意識なさっているようなので、そ れならば、その役割を明確にしていくべきでしょ う。マスプロ教育ではない教養教育を追求なさる ことは、本事業の目玉の一つになっていますので、 マスプロ教育では期待できない成果を挙げている ことを発信できるように努めていただきたいと思 います。ご存じのように、学力の三要素として、「知 識・技能」「思考力・判断力・表現力」「協調して 学ぶ態度」があります。アクティブ・ラーニング は、後の二つの学力を育成するためには、たしか に有効なのでしょうが、「知識・技能」の習得が おろそかになっていないかどうかについても、常 に注視する必要があると私は考えています。

三つ目の課題は、京都の教養教育の拠点化と他大学との連携拡大です。京都のブランディングの拠点の一つになるという使命をお持ちであることをくれぐれもお忘れにならないようにして、授業が楽しければそれでよいというような安易な姿勢に陥ることなく、地域社会への貢献についても成果を示し続けていただきたいと思っています。

最後のスライドに載せてあるのは、京都テレビの「京都国宝浪漫」という番組です。私は京都テレビとは何の関係もないので、番組宣伝をするつもりなど毛頭ないのですが、最近、私が好きな番組の一つで、毎週録画予約して楽しんでいます。私は京都に50数年間住んでいるのですが、この番組を観ていると、京都には自分が知らないことが本当にたくさんあることを知ってため息が出てしまいます。京都には学ぶべきことがいっぱいあることを誰かが本気で私が若い時に教えてくれていたら、私の人生はさらに豊かなものになっただろうと口惜しい気がしているのです。

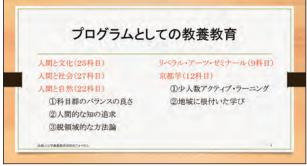
京都の教養教育のリーダーとして、ぜひとも京都の他大学とも連携を拡大していただきたいと希望しています。私の本務校は同志社大学ですので、京都の他の大学と申し上げるとき、同志社大学を念頭に置いていることは否定しません。本日のシンポジウムは、京都三大学合同交響楽団の見事なクラリネット四重奏から始まりましたが、京都三大学と言っておきながら、実は同志社大学の学生

も入っているという非公式情報を耳にしました。 学生ができることを教員ができないはずはありません。学生を見習って、京都の他の大学も積極的 に受け入れていくような教育プログラムとして、 本事業を発展させていただきたいと大いに期待し ています。

雑駁な話になりましたが、予定の時間も使い果たしたようですので、このお願いを結論に代えて講評を終えさせていただきます。ご清聴どうもありがとうございました。











◆連携大学挨拶

○京都工芸繊維大学学長 古山 正雄

皆さん、こんにちは、京都工芸繊維大学学長の 古山です。

3 大学が、平成 18 年に包括協定を締結してから、早くも 10 年が経ちました。

最初の5年間は、単位互換制度を実施していたわけですが、その間、教養教育を共同化するためには、共通の学びのスペースとか、お金が必要である、といった議論を行ってきました。

平成24年度には、文部科学省の補助金事業に 採択される、また、平成26年9月には教養教育 共同化施設の建物が整備されるなどして、一つ一 つ着実に実現してきました。

そのようなことを振り返りながら、先ほどの学生諸君の発表を聞いていて、非常に感慨深いものがありますし、この取り組みをやってよかったと強く感じているところです。

これからも、継続していかなければならないと思っていますが、来年度から文部科学省の補助金がなくなります。教養のフォーラムにおいて"金"の話をするのも品のないことですが、これを一つの契機として新たなシステム、賢い教養教育の在り方を考えていかなければならない、非常にアイデアが要求される段階に差し掛かっていると思っています。

もう一つ配慮すべき事項として、日本では今進められている高大接続システム改革というものを挙げることができます。例えば、大学改革と高校の教育改革との間をつなぐ入試制度を変えようという動き、例えば、思考力、判断力、そして表現力が重要だということで、新テストの国語には記述式問題を導入することが検討されています。

即ち、国語力が注目されているわけですが、私は、日本人の学生諸君というよりは、寧ろ大人が、かつての日本人に比べて、極めて国語力が劣化していると思っています。

その主たる原因は何かというと、母国語である 日本語の能力が急激に低下している、少なくとも そのように見えるという実態があり、そのことは、 他の国立大学長も共通の問題意識をもっており、 改革の必要性を感じているところであります。

とはいえ、国語力は単に良い文章を綴ることが できればいいというものではありません。

先日も高校生の SSH などの発表を聞きました

が、中には内容として非常に高いレベルのものも あります。しかしながら、今日の教養教育の学生 諸君の発表と比べると、高校生の発表は少し背伸 びした感じがします。

本日の発表では、大学生としてのある種の落ち着きといいますか、知的好奇心というものに則して自分が何かを探求しようとしていることが伝わってきて、すごくいい感じだなと思いました。

国語力に関する入試制度の改革など、高校と大学をシームレスに接続するための工夫も必要ですが、それとは別に、我々は、教養教育を通して、高校とは違う知的レベルの高さ、ある種のワクワク感みたいなものを若者に与えないといけません。

今回の発表は、それらのことを感じられる具体 的な事例であったと思います。

しかし、同じ教育内容を繰り返しているといずれは劣化しますので、やはりテーマ設定とか水準については、常にチェックしていく必要があるとも思います。

私は、ドイツと日本の学長が集まった会議に出席したことがありますが、そこで特に印象に残ったのは、「学部教育というのは基本的に伝統ある教養教育に尽きる」とドイツの学長全員が口を揃えて云っていたことです。

ドイツはいま、第4次産業革命を受けて、教育システムをかなり変えてきており、専門教育においても改革しているとの情報があるのですが、 実際に話をしてみると、教養教育の重要性を主張していました。

日本においても同じことがいえるのではないか、 産業技術の側面から理工系の大学に対しては専門 教育に関する様々な要請などがありますが、やは り学部教育においては教養教育が大変重要である と思います。

長い人生、結局のところ、我々日本人の水準は、教養の中身に依存するのではないかと思っています。学生諸君が、教養教育をしっかりと学んで、卒業後40歳、50歳になった時に、ここで学んだことが人生を生きていくための自信のようなものになれば良いと思っています。

ご静聴、誠にありがとうございました。

○京都府立医科大学副学長 渡邊 能行

ただいまご紹介いただきました、京都府立医科 大学の教育研究担当副学長をしております渡邊と 申します。本来ですと吉川敏一学長がこちらに参 りまして、直接お礼なり、また、お願いなりさせていただくところでございますが、他の公務と重なっておりまして、私が担当副学長ということで、この教育の共同化を実際に進める一人の立場も含めて、少しごあいさつをさせていただきたいと思います。

京都府立医科大学に対しまして、先ほど圓月先生から、この中に入って一緒にやっていること自体が非常にいいことだとお褒めいただきまして、本当にありがとうございます。京都府の大学としまして、われわれ京都府立医科大学のミッションが何なのかと申しますと、基本的に京都府民の健康を守ることであり、京都府内の医療をきちんと分担してやっていくことと認識しています。そのために医学科と看護学科において医師と看護職という高度専門職業人を育成するなかで、どれだけ有能な人材を京都府下に輩出していくのかということだと理解しております。

特に近年は、十数年前に、卒後の医師の臨床研修の新しい制度が始まってから、京都府北部だけでなく、京都府南部でも医師が足りないという状況が続いております。

実は私は本年7月1日から、大学の職は併任となりまして、京都府健康福祉部の仕事を本務としております。京都府出身の自治医科大学卒業医師の卒後9年間という義務年限内における北部地域の公的病院における人事異動のことや、9年前から本学では初年度は募集定員3人、2年目5人、それ以降は7名の地域枠の推薦入試を実施しており、最も上級生の卒業医師が現在卒後3年目を迎えており、彼らが今後京都府北部地域の公的病院で勤務していく際の人事に関わっています。

そういったことを、府立医科大学の副学長として、教育研究担当というよりも保健医療担当副学長としての大学の身分と京都府の身分を持ちつつ、ある時は大学人として、また別の時は京都府の健康福祉部の一員として、二つの立場をうまく使い分けながら、京都府内の地域医療を守っていく仕事を日々させていただいております。

そのなかで、教養教育というのは、いったいどういう位置づけがあるのか、特に京都府立医科大学にとりまして、どのような位置づけがあるのかといいますと、教養教育は価値そのものの創造であるというふうに私は理解をしております。

すなわち将来、医師なり看護師なり保健師、助 産師なり、高度専門職業人になる上で、いかにた こつぼ化した専門職業人としての狭い範囲のなかに留まることなく、広くわが国民、わが府民のお一人お一人の生活背景や個人としての歴史に思いをはせることのできるような医療を提供できる、そのような価値観を本学卒業の医師・看護職にはあまねく持ってもらいたいと思って教育しております。

しかしご承知のように、非常に医学も進歩しておりまして、実は私は昭和47年、1972年の府立医科大学入学で、卒業して4年間、大学におらず民間病院で医師として働いていた時間を除いて、約40年間、大学にずっとおりますけれども、そのなかで専門性は公衆衛生学というのをもっぱらとしておりまして、社会との結び付きのなかで、どのようにして医療を展開していくのか。そのベースとして、やはり幅広い教養教育のベースがないことには、決して一人前の医師とは言えないと思っております。

厦月先生にも入っていただいております三大学 教養教育運営協議会で、いつも私どもに言われま すが、「よい医療人を育ててくださいね」という ことでして、そのためにこそ、この教養教育共同 化をうまく機能させていきたいと考えています。

実際、私がこの教養教育共同化のことを担当しておりますのは、去年の4月からまだ1年半と少ししかたっていないのですけれども、この間気付きましたのは、京都工芸繊維大学さんは、文科省が平成26年度から創設されたスーパーグローバル大学、トップ型13大学とグローバル化牽引型24大学の2種類あるそうですが、そのなかのグ後者グローバル化牽引型大学の一つとして、わが国における大学の在り方をリードされている大学の一つであるということです。

そういう、非常に立派な大学と、われわれはタッグを組ませていただいているということは、非常にありがたいことですし、これを学ばないことはないと常々思っております。

この5年間、文科省の事業としてやってきたことは、府民の信託に合致した、期待に応えられる教養教育の共同化の礎になるのだろうと思います。今日の両センター長の先生方のご発表、そして、実際にこのなかで教育を能動的に受けていただいた学生の皆さんのお話を聞いていましても、これをベースにして、さらに広げていくことは間違っていないと思います。このかたちからさらに発展させていければと思っています。

われわれ京都府立医科大学の医学科と看護学科

のカリキュラムは必修科目がほとんどを占めてお り、自由度が少ないなか、われわれが得るだけで はなくて、来年度は府大と工芸繊維大学の2回 生以上の学生さん達を対象に「医学概論」の提供 を予定しております。医学概論という教科を、教 養教育担当の先生方ではなく、われわれ河原町学 舎におります基礎医学、社会医学、臨床医学を専 門としています教員が、将来、わが京都を、そし てわが国を引っ張っていくリーダーとなる府大の 学生さん、そして京都工芸繊維大学の学生さんた ちに、医学・医療のある部分を見ていただいて、 そしてそのことを通して、私たちが医学・医療を 展開するうえでの味方となっていただけたらあり がたいということで、11月の教授会も通しまし たので、これをベースに一緒に広げていくことが できたらありがたいと思っております。

また、そのなかで、ぜひ関係の皆さま方からいろいろとご指導をいただきながら、一緒に、先ほど、同志社大学も一緒にというありがたいお話もいただけましたので、オール京都として、どれだけよい人材を育てていくのかということに、私どもとして少しでもご協力できたら非常にありがたいと思っております。

その背景には、三大学の教員の先生方、そして 事務の皆さま方、一番大事なのは批判的に見てく れている学生諸君がいて、ここまできたというこ とを感謝しまして、御礼のごあいさつとさせてい ただきます。どうもありがとうございました。

※ ◆閉会あいさつ

○京都三大学教養教育研究・推進機構運営委員長 京都府立大学副学長 野口 祐子

皆さま、長時間、最後までお付き合いくださいまして、誠にありがとうございます。私はこの4月から機構の運営委員長をしております、京都府立大学教務部長の野口です。

最初に、石田先生、大倉先生からもお話がありましたように、長い長い時間を経て、こんにちの三大学共同化があるということで、私は4月からしか実際には関わっておりませんので、ほんのひよっこではございますが、運営委員長という立場から閉会のあいさつをさせていただきます。

今日は石田先生、大倉先生の基調報告で、皆さんとこの三大学が進めてきた共同化の成果を共有できたかと思います。

そして学生さんのお話、これまでは科目担当者会議で、どういうことをされているのかというのは聞いていたのですが、それを学生さんの立場から聞くことができて、教室で、横に座ってのぞき見をしたという感じで、非常に臨場感がありました。

それとともに、学生さんの非常に心に届く言葉 もいただきました。ゼミ形式を増やして、という ので、それは受け止めていきたいと思います。実 際、来年度から増えます。期待しておいてくださ い。

それと、「可能性を信じること」という熱い言葉もありました。この三大学で学んだ学生のなかから未来のスティーブ・ジョブズが出るのではないか、そういう期待も今日は抱かせてもらいました。

圓月先生には、非常に的確なコメントもいただきましたとともに、来年度から新たな一歩を踏み出すために背中を押していただきましたこと、誠に感謝致します。

この場をお借り致しまして、学生さんにも伝えておきます。実は文科省の5年間の事業としては、今年度が最終年度でありますが、当然、来年度からも続きますので、不安は感じないでください。

この場を借りまして、感謝の言葉を述べさせて いただきます。

まず、本事業を推進するために、長きにわたって音頭を取ってくださいました京都府の山田知事に御礼申し上げます。そして本事業に理解を示し、5年間の助成をいただきました文部科学省にも感謝致します。また、大学コンソーシアム京都、圓月先生をはじめ三大学の教養教育共同化運営協議会の委員の皆さまには、本事業の運営と教育の質保証にご協力いただきましてありがとうございます。

三大学の教職員の皆さんとは、これまでにない 事業に果敢に取り組み、本日の成果発表の日を迎 えられたことをともに喜びたいと思います。

ここで何よりも忘れてならないのは、本事業の 主役である学生の皆さんです。三大学の学生がそれぞれの大学の殻に閉じこもることなく、自ら殻 を破って交流してくれた成果を、今日、私たちは 共有することができました。非常に期待できます。 私たちはやってきてよかったなと思っております。

これまで異なる分野を持つ三つの小規模大学が 共同して、一つの教養教育の体系をつくるという この取り組みは、非常に全国から注目されてきま した。来年の3月4日、5日には、隣にあります京都コンサートホールと、この稲盛記念会館を会場としまして、大学コンソーシアム京都のFDフォーラムが開催されます。ここには全国から参加されます。そのフォーラムでも、この取り組みが取り上げられますので、ここに紹介しておきます。

さて、少し府立大学のことも申し上げますが、京都府立大学では、この2年間にわたって教養教育のカリキュラムを見直してきました。この新カリキュラムの柱の一つは「学び続ける教養教育」です。本学では1、2回生で終わらない、未来のために市民的教養を育む教養教育を目指しています。もう「般教」と言わせない、というのが、私のひそかな標語です。

三大学の取り組みもこれと軌を一にして、来年度からは上回生向けの科目、そしてアクティブ・ラーニング科目を増やします。そして拡充を図ってまいりますので、皆さまには引き続きご支援、ご協力をいただきたいと思います。

三大学共同化事業で学んだ学生の皆さん、そしてこれから学ぶ皆さんの今後の成果と活躍に期待して、結びの言葉とさせていただきます。どうも長時間、ありがとうございました。



編 集: 発 行:



京都三大学 教養教育研究·推進機構

所在地:**〒**606-0823 京都市左京区下鴨半木町1番5

教養教育共同化施設「稲盛記念会館」内

T E L: 075-703-4925 F A X: 075-703-4979

H P: http://kyoto3univ.jp/

発行日:平成29年3月

デザイン:株式会社 谷印刷所